

ID 読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
12 アイハラフ	ア001	相原賢先生父子の伝	北伊予小学校	北伊・鶴吉	鶴吉安井の人々から見た相原父子の姿が語られている。それぞれの伝記をまとめたもの。系図としてもよくまとめられている。	相原修、相原賢	0	ガリ版・製本	25×18 44p
1139 アイハラシレキ	ア002	相原氏歴年譜	相原修	鶴吉	卷子本、明治39年12月25日。修が石山寺に参籠して三ヶ月を費やした年譜、漢文で記述されている。	相原修・相原賢	1906	袋001 コピー	1巻 卷子本
6 アオヤナギ	ア003	青柳社巻	忽那浮世		撫子を売る小娘や色白し、くいな鳴くや□□□□田圃道等の句	クイナ	1924	コピー	19×24 18枚
1075 アカサカイ	ア004	赤坂泉配水通知書	玉井温次郎	南伊予 村上野	昭和8年、上野部落の赤坂泉水利権放棄の文書である。電動ポンプによる地下水の組み上げ、泉の掘削等による。	赤坂泉	1933	袋126 コピー	120×25 1枚
8 アカサカイ	ア005	赤坂泉文書	堀井恭三	町外	赤坂泉の市の井出の樋門をめぐって、麻生と下5か村の水論について、またこの水利慣行は現在も生きている現実の紹介。	赤坂泉	1977	製本	21cm 221p
7 アキイナバ	ア006	秋稲番割取建帳	昌農内	昌農内	稲番をする経費を割り当てたもの	稲番	1903	原本	14×40 11枚
13 アコウキキ	ア007	赤穂聞書	波賀清太夫	町外	10名の赤穂義士からの聞き書き集		0	コピー	26×18 13枚
5 アコウギン	ア008	赤穂義士録(写)		町外	義士御預日記並び10人の物語		0	コピー	26cm 29枚
9 アコウギジ	ア009	赤穂義人録	鳩巢室	町外	明治紀元冬十月伊豫今治半井忠見撰并書とあり刻義人録序として「記事費確實而不貴費・・・」とある。		1703	コピー	12枚
1138 アコウロウシカ	ア010	赤穂浪士瓦版刷		町内外	赤穂浪士の絵図版画、作者不明。松の廊下の絵図と吉良上野介捕らえた図の2枚。このような絵図と説明で赤穂義士のイメージが作られていったらう。当番の医師佐藤慶庵が血止め膏薬を取り出している。		0	袋002 コピー	17×28 1枚 18×24 1枚
1137 アサヒシンブン	ア011	朝日新聞	朝日新聞社	町内外	昭和18年8月1日から31日。アツツ島玉砕の記事がある。山崎部隊長は2階級進級している。	アツツ島玉砕	1943	袋003 原本	31枚
1141 アサヒシンブン	ア012	朝日新聞	朝日新聞社		昭和18年10月1日～31日。昭和18年10月24日愛媛版にかうすれば食える「いも」の莖葉など資源研究をする。その中に落下した夏みかん、彼岸花、どんぐり等が資源として研究された。		1948	袋004 原本	31枚
14 アシアト	ア013	あしあと	日本ボーイスカウト愛媛県連盟	町外	日本ボーイスカウト愛媛県連盟建10周年記念誌。伊予地区は中山小学校校内通哲校長、伊予小学校仙波林三郎校長が新しい少年団活動として学校に取り入れた。		1961	製本	22×15 300p
1174 アダチシゲノブ	ア014	足立重信	海南新聞社	町内外	新聞の切り抜き、大正4年6月29日～同年7月5日まで。歯痛の神様として南予、九州地方からの参詣者跡を絶たずとある。		1915	袋005 コピー	6枚 上高柳 足立利夫氏蔵
1175 アダチシゲノブ	ア015	足立重信伝	松山部会調査	町内外	製作年不明、県立図書館蔵と記されている。松前城の修築、重信川の治水、石手川の改修、松山城の新築、木柵の築、歯痛の神、屋敷内に川を作る、瓦を一夜のうちに運ぶの章立てでまとめた原稿。図書館関係者の著作か	松前城の修築	0	袋005 コピー	25cm 11枚
4 アダチシゲ	ア016	足立重信公と松山	松山市役所	町外	足立重信公逝いて350年に当たり、公の眠る来迎寺で墓前祭を実施、改めて恩徳をしのび編集したもの。古地図でたどる松山城下町の変遷を論じた村上節太郎の論文あり。	足立重信	1974	コピー	21cm 57枚
15 アメリカザ	ア017	アメリカザリガニ	中島万亀夫	松全	アメリカザリガニの目撃情報をもとにした分布拡大の様子を推定したもの。聞き書きを増やす必要がある。	外来種	1978	ガリ版	26×18 5枚
1118 アンコクジモン	ア018	安国寺文書			年代・作者不明		0	袋008 コピー	31×44
1142 アサヒテンジン	ア019	朝日天神社補修書類	南黒田区長	南黒田	工事請負領収書など、仮綴1杉。杉、檜丸太と製材代金12850円を西山製材所に支払っている。		1956	袋006 原本	
1237 アイハラシレキ	ア020	相原氏歴史表			著者、年代不明		0	袋007	文庫目録未登録
10 アサクラコ	ア021	朝倉高大寺遺跡・朝倉中力遺跡・朝倉下岡遺跡	愛媛県埋蔵文化財調査センター	町外	朝倉村内出土遺跡についての詳解。朝倉地域は古代においても豊かな地域であったと推論している。		1987	製本	26×18
997 アサクラシセキ	ア026	あさくら史跡めぐり	近藤 武	町外	昭和55年8月発行。朝倉老人会、朝倉史談会、朝倉村の有志で2ねんかかり史跡巡りを実施そのとき配布したてきすとをまとめたものである。		1980	製本	16×22 75p
11 アサクラト	ア027	朝倉とその周辺の伝説と民謡	朝倉公民館	町外	朝倉村内に伝わる伝説と民謡で、雀をケンドで伏せる話や酒粕で酔わせて箒で集める話がある。	雀の捕獲法	1982	製本	22×15 153p
1336 アトラス	ア028	アトラス No7	アトラス編集部	全県、中川原	特集「愛媛の建築」、季刊雑誌。環境ルポNo7で松前町の泉が紹介されている。	本田俊夫	1998	製本	26×18 80p
1598 アイノガツ	ア029	愛の学校	三浦修吾	全国	情操教育にきわめて有力な少年の読み物。徳富蘆花の序文がある。		1922	製本	19×13 550p
179 イザンセンセイ	イ001	遺山先生詩鈔	垣内保定		遺山の漢詩を編集し紹介したもの		0	原本	26×18 46枚
18 イデブチケ	イ002	出淵家の系譜	出淵重雄	松前	伊予国に源流を有し、河野家より出た越智宿弥盛家より始まる、出淵家の系譜をまとめる。正保の邦絵図(1644)に松前城は「出淵古城」とでている。加藤以前の城名だろう。	出淵古城	1981	製本	26×18 123p
1119 イズミサラエギ	イ003	泉湊の儀二付御願(杜若泉)	水口啓太郎(中川原村戸長)	中川原	明治6年6月20日		1873	袋009 コピー	26×65 1枚
976 イシズチノミズ	イ004	石鎚の水ここに展く 道前道後用水史	道前道後用水史編集委員会	町内外	古照遺跡、足立重信、義農作兵衛、久万山騒動、道全平野の用水、道後平野では義民窪田兵衛門、赤坂泉、大谷池、重信川の環を巡る紛争など用水を巡る歴史的な資料から説き起こしている。		1978	製本	22cm 618p 正本
348 イジンアダチシ	イ005	偉人足立重信	吉川昌堂	町内外	来迎寺大正14年刊、足立重信を讃える詩と略伝	足立重信	1925	コピー	21×15 30p
1109 イチノサイノ	イ006	弍野載の成立事情とその編者	三好昌文	町外	昭和52年2月13日伊豫史談会の例会史料、宇和島藩の租税台帳、村請制の確認、延宝元年の定免制、ほか		1977	袋015 コピー	26×36 1枚
1112 イッサツノコト	イ007	一札之事	庄屋ら	下吾川・南黒田	大谷川分水協定書 天明4年2月		1784	袋010 原本	34×132 2枚
19 イチウイツ	イ008	一得一失	鹿羅連庵選		二句を併記した俳句相撲形式の句集。電気が普及しつつある頃らしい電燈の句もある。	俳句相撲	1948	コピー	28×20 26枚
1113 マサキチヨウイ	イ009	一般会計決算状況	松前町	全	昭和39年～昭和52年の記録。町税収入は19万円から80万円に、地方交付税は0.3万円から67万円に増大している。またどの年も歳出が歳入を超過している。	赤字財政	1977	袋011 コピー	26×36 1
368 イドイズミバイ	イ011	井門泉売買証全地契約書	八束治作	徳丸	浮穴村井門の田を徳丸に売却した証書。水利上取得したもので、代表者が勝手に処分できない旨の書き止めがある。	井門泉	1948	コピー	30cm
1115 イノウタダタカ	イ013	伊能忠敬伊予地区測量補助者名簿		全	伊能勘解由と稲生秀蔵外6名の外若党1名押取2名小者5人の計18名の氏名をあげている。		1808	袋012 コピー	1枚
130 イホンマツ	イ014	異本松山往來	相原修		習字手本、製作年不明		0	コピー	26cm 40枚
132 イマバリヤ	イ015	今治夜話	戸塚政興	町外	伊塚は文化年間の人今治藩士であった。藩中におこる逸事断片を集めたものである。今治史談会発行。		1954	製本	26×18 102p
20 イオアイコ	イ016	伊予愛国百人一首	伊予史談切抜	町外	石鎚山や道後温泉等郷土の景致を詠じた歌		0	製本 コピー	26×18 4枚
353 イヨイジンロク	イ017	伊予偉人録	城戸八州	町内外	伊予輩出の偉人約1000人の人名録。足立重信から渡邊六石までまとめられている。最後に天明以後の米1俵の価格表があり昭和52年まで編集されている。		1978	コピー	26×18 501p
367 イヨウウカボン	イ018	伊予踊歌本	立花会	北川原	伊代万才を土居田へ習得にゆかけ、村祭りで公開、昭和6年中予万才大会で優勝、北川原で歌われた囃子言葉等の記録。	伊代万才	1976	コピー	36×25 75枚
373 イヨカジンロク	イ019	伊予歌人録	曾我部一郎	町内外	昭和17年6月15日、森田三秀社発行。本書を編集した曾我部松亭翁の伝記と伊豫史談会の関わりを紹介。歌人はイロハ順に名前を2ないし3文字で表す。	伊豫史談会結成	1942	コピー	26×18
374 イヨカジンメイ	イ020	伊予歌人名簿	西園寺源透・曾我部一郎	町内外	昭和八年二月発行。生活地、係属、家族など歌人ひとりひとりのデータをまとめたもの		1933	コピー	24cm 130枚
1110 イヨガワリュ	イ021	伊予川流路推定調査	早瀬定	全	高市喜慶が昭和52年松前八倉道マンホール増設工事した場所と地下の様子を早瀬定に依頼した報告書。北黒田お宮西交差点の深さ4尺に丸い栗石があり大量の地下水を水中ポンプ4台で汲み上げたときの地層断面図がある。		1979	袋013 コピー	26cm 5枚

ID	読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
354	イヨギンコウシ	イ022	伊予銀行史	伊予銀行	町内外	伊予銀行の沿革、昭和46年までの年表。昭和16年伊予合同銀行が創立され、昭和26年伊予合同銀行松前支店が伊予銀行松前支店となる。		1971	コピー	26×18 52p
140	イヨグンカ	イ023	伊予郡各村物成皆済帖(全)	松山県	町内外	年貢の支払い量、支出先など明細を書き、支払い済みの印をおしている。中川原村から始まり伊予郡各村の記録がある。	庄之内村事昌農内	1871	コピー	36×17 86枚
143	イヨグンカ	イ024	伊予郡各村貢米納仕掛帳	松山県	町内外	各村の予算原案		1891	コピー	215枚
141	イヨグンサ	イ025	伊予郡歳入歳出決算表	倉根是翼	町内外	伊予郡長倉根の時代		1908	コピー	26p
1111	イヨグンシモウ	イ027	伊予郡・下浮穴郡紫米鑑	吉田多吉	町内外	富裕番付表、明治27年4月		1894	袋014 コピー	36×47 1枚
3	イヨゼンコ	イ028	伊予郡善行録	岡本藤江	町内外	伊予郡における古今男女の道徳的偉人、義人、忠僕、慈善家、学者、事業家、教育家等70余人を記録。筆頭に義農作兵衛をあげ、最後に大西思明が自治功勞者として紹介されている。		1922	コピー	26cm 112p
136	イヨグンノ	イ029	伊予郡の芳名録	不明	町内外	著作者不明の岡田、松前、北伊予の人物名鑑である。原籍、現住所、職業、家族、近親者、生年月日、位階勲と経歴をまとめている。		0	製本	16×21 5枚
17	イヨグンニ	イ030	伊予郡24箇村手鑑		町内外	伊予郡24村の面積、男女、人口、新田畑など明細を記録したもの。下高柳村、庄之内村(670石7斗5升)、古泉村、寺町村、筒井村、濱村、横田村、大溝村、黒田村等の村名がある		0	コピー	24cm 100名
2	イヨグンネン	イ031	伊予郡年鑑(1950年)	向井鉄五郎(伊予公論社)	町内外	伊予郡の歴史、地理等についての記載		1950	製本	
1107	イヨグンリヤク	イ032	伊予郡略図		町内外	作者不明、宝暦年間		0	袋016 コピー	49×68 一枚
352	イヨケイサツシ	イ033	伊予警察資料		町内外	昭和29年の警察法の改正及び昭和30年の町村合併に伴う警察派出所の廃置分合		1955	コピー	26×18 6枚
975	イヨノクニキュ	イ034	伊予国旧石高調帳	愛媛県教育委員会	町内外	愛媛県立図書館、昭和49年3月1日発行。伊予国知行高郷村数帳と旧石高取調の2部を複製したものである。庄之内は明治元年昌農内と改称している。村々の断片がまぎれてある。		1974	製本	27cm 174p 正本
349	イヨコセキシ	イ035	伊予古蹟志 1, 2	野田石陽	全	1は温泉郡、2は伊予郡、喜多郡、宇和郡、浮穴郡の部。伊豫史談会大正14年装幀。	郡の略図	1803	コピー	26×18 70枚
350	イヨコセキシ	イ036	伊予古蹟志 3, 4	野田石陽	町外	3は久米郡、和氣郡、風早郡 4は野間郡、越智郡、桑村郡、周布郡、新居郡、島嶼部。伊豫史談会大正14年に装幀。		1803	コピー	26×18 86枚
129	イヨコセキ	イ037	伊豫古蹟志(外編)	野田石陽	町内外	伊予国に關係する氏族の諸記録・諸系譜ならびに詩歌などの文学作品を載せている。		0	コピー	57枚
1104	イヨコセキシ	イ038	伊予古蹟志(抜)伊予郡		町内外	明治18年8月。伊予郡略図がある。西海とあり河川名はないが石手、重信川が描かれ川沿いに下高柳、上高柳の二文字がある。海岸は古泉、寺町、筒井、濱村、黒田後名がある。	下高柳邑五社大明神	1885	袋017 コピー	26×18 13枚
356	イヨコシヨシユ	イ039	伊豫古書集		町内外	伊豫史談会昭和8年装幀、豫陽旧蹟漫遊記ほか。偽物も多いので気をつけるようにと西園寺氏のまえがきがある。	神社の歴史	1933	コピー	26×18 73枚
357	イヨコモンジヨ	イ040	伊豫古文書集 4		町内外	興隆寺文書ほかの愛媛県に關係のある写本、大正10年伊豫史談会装幀		1921	コピー	26×18 70枚
360	イヨコモン	イ041	伊豫古文(33)	佐伯文書	全	伊豫史談会の昭和3年装幀		1928	コピー	26×18 76枚
996	イヨサンギョウ	イ042	伊予産業要覧	向井鉄五郎	町内外	伊予公論社、昭和32年11月30日発行		1957	製本	20×26 181p
351	イヨスダレ	イ043	伊豫寿多礼	日野林樵柯	町外	嘉永元年に発行した句集。屋ぶ中にさかり久しき椿かな、郭公橋におう月夜かな、一つ灯の花にみなきく牡丹かななどの句がある。		1848	コピー	26×18 36枚
979	イヨガスリ	イ044	伊予餅	河野正信	町内外	伊予餅の歴史と製法等。	実取り、さねくり	1963	製本	18×13 207p
137	イヨシカミ	イ045	伊予市上吾川宮内家文書目録	愛媛県立図書館	町外	宮内政美氏の所蔵されていた。庄屋文書である。藩政、村政、私文書にわたるもので、公文書407冊と987通であり、私文書の10冊と303通を併せて417冊と1290通にのぼるものである。		1977	製本	60p
178	イヨシカミタ	イ046	伊予市上三谷上水道規約	伊予市水道課	町外	第1条目的、組合員の福祉を増進することから始まり、第45条消火栓の鍵の保管依頼で終わる。		1957	コピー	26×18 6枚
177	イヨシザイツ	イ047	伊豫誌材雑集	西園寺源透	町内外	昌農内村の田坪水帳(天保14年)、があり、今はのこらない小字名が示されている。伊予史談会の装幀。	松前古城の松岡田公民館図書部	1926	コピー	26×18 60枚
347	イヨシセイギ	イ048	伊豫史精義	景浦直孝	町内外	由比質と菅菊太郎の序言があり、付録として伊豫史研究重要書籍として六国史、古事記から、日本医人傳まで解説している。		1924	製本	24×15 999p
138	イヨシセキメイ	イ050	伊予史跡名勝(8)	西園寺源透	町内外	山本一の石手川及び重信川の調査記録がある。余土村保免より下流27町50間の樹木総数は3231本で1町の間平均117本強と豊かな緑が記録されている。	重信川堤防林	1924	コピー	25cm 66枚
370	イヨシダン	イ051	伊豫史談(第147~153)	伊豫史談会	全	昭和32年8月から昭和34年2月まで		1959	コピー	21cm 160枚
994	イヨシダン	イ052	伊豫史談 No 217~230	伊豫史談会	町内外	No229に日下部正盛「松前城について」、No217に桜井久米次郎の入会山紛争の記録がある。徳丸村は入会を禁止されている		1978	コピー	16×22 41枚
379	イヨシダンシユ	イ054	伊豫史談主要論文総目録		町内外	自1号から至150号 伊豫史談切抜		0	コピー	21×15 11枚
139	イヨシダン	イ055	伊予史談会文庫図書目録	曾我鍛	町内外	アイウエオ順に図書名、著者または刊行者、巻冊、番号、備考で全論説をまとめ201ページをコピーしたもので、参考文献探索に便利である。	著作目録	1930	コピー	18×26
369	イヨシダンカイ	イ056	伊予史談会文庫目録	伊豫史談会	全	一般図書、地図・絵地図、写真・絵葉書、軸物・巻物、雑誌、須山文庫にわけ図書資料集を集計している。3229部数で6922冊である。	文庫目録	1977	コピー	26×19 143p
981	イヨシノデンセ	イ057	伊予路の伝説	合田正良	町内外	愛媛の東・中・南予の別に伝承される伝説、愛媛地方史研究会出版。松前地方は大森彦七、目いき大師、扶持ちの灯、矢取川で刀を探す灯、行道山神様の遊び石、おたた雨乞い、五色姫などが紹介されている。		1972	製本	18×13 195p
380	イヨシノブンカ	イ059	伊豫市の文化財	伊予市教育委員会	伊予市	イ119と同じ冊子		1970	製本	26cm 20p 副本
25	イヨシヨセ	イ060	伊予書籍要集 11		町外	江戸より松山に帰った時の旅日記「あやしき」、信楽焼を松山に導入しようとした記録等	信楽焼	0	コピー	26×18
372	イヨシヨセキ	イ061	伊予書籍要集 16		町外	伊予州二十四社考ほか	高忍日売神社	0	コピー	26×18
375	イヨジンジャナ	イ062	伊予神社井末社社器録	高市通福	神崎	合祀神として巖島社、素鷲社、国作社、日吉社。引社として和霊社合祀神、山神社、稲荷社、丹生社、御先社、道祖神、床浦社と記載されている。		1871	コピー	26cm 10枚
363	イヨジンジャメ	イ063	伊予神社維持金徴収簿	神崎区長	神崎	5円46銭池内平太郎の徴収金から26銭の西岡多代次まで記載され、合計117円13銭集めている。		1912	コピー	24cm 15枚
377	イヨジンジャゴ	イ064	伊豫神社御由緒	高市通福	神崎	伊豫古蹟志、豫陽郡郷利俚諺集、太平記、豫陽盛衰記、伊豫漫遊記、玉生八幡社由緒などより構成している。		1890	コピー	26cm
142	イヨジンジ	イ065	伊予神社御由緒	高市通福	神崎	五輪後から発掘された、文化財のスケッチなど、伊予神社の由緒を表す史料を編集。		1890	コピー	18枚
362	イヨジンブツメ	イ066	伊予人物名鑑	武智圭邑	町内外	伊予人物名鑑刊行会昭和53年発行		1978	コピー	26cm 83枚
23	イヨジンブ	イ067	伊予人物伝資料(5)	伊予史談会	町外	鷲野路太郎、高市盛房、西谷廣助、玉井源七郎を含め37名の業績をまとめたもの。個人別に記述。		1922	コピー	24cm 70枚
361	イヨシンヨウキ	イ068	伊豫信用金庫資料	伊豫信用金庫松前支店	町内	松前支店略史、昭和34年松前出張所開設、昭和37年松前支店となる。昭和49年までの沿革誌である。		1977	コピー	25×18 5枚
364	イヨスイグンカ	イ069	伊予水軍関係資料調査報告書	愛媛県教育委員会	愛媛県	瀬戸大橋架橋によって島嶼部水軍にまつわる貴重な歴史的文化遺産が埋没、散逸しないため記録保存を図るため調査したものである。		1976	製本	97p みねまつ印刷KK発行
365	イヨチクキョウ	イ070	伊予地区教育研究大会	愛教研伊予支部	町内外	昭和41年度松前小中学校を会場校として開催された伊予地区研究大会の学習指導案、発表要項よりなる。	教育研究	1966	製本	25×17
355	イヨシンカン	イ071	伊予年鑑	向井鉄五郎	全	伊豫市、伊予郡内市町村要覧、伊予公論社昭和35年発行		1960	製本	26×18 185p
972	イヨノウミンソ	イ072	伊予農民騒動史話	景浦勉	町外	愛媛文化双書刊行会、昭和47年2月10日発行。久米騒動、久万山騒動の過程を述べたものがある。如來院近くで県の総攻撃をうて多数の怪我が出ている。		1972	製本	19cm 255p
128	イヨノクニ	イ074	伊予国大洲領高辻帳	南黒田庄屋	南黒田	正徳3年領内のかく村の石高を調べたもので、寛政9年に書き写したものである。黒田村、釣吉村が含まれる。	田畑の石高	1713	コピー	13×20 31枚
16	イヨノコケ	イ075	伊予の古建築	愛媛県建築士会	町外	伊予における古い建物を民家、武家屋敷、神社仏閣、城郭陣屋、公共建築物、町並み、工作物、庭園にわけ解説している。松前町近辺では伊豫市の稲荷神社楼門が記録されている。		1974	製本	128p

ID 読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他	
980	イヨノコドモサ	イ076	伊予のこども歳時記	黒川健一	町内外	新年、春、夏、秋、冬と章を改め、愛媛の子どもの遊びをまとめている。夏たらいに水を入れまいまいを入れて遊ぶ記録もある。	マイマイチンコ	1975	製本	18×13 191p
973	イヨノザコ	イ077	伊予の雑魚	小魚基道	町内外	松菊堂、昭和38年12月1日発行。ウナギ、鮎、コイ、ドンコ、モクスガニなどいかに利用していたか。素晴らしい民俗資料である。	モクスガニ	1963	製本	19cm 176p
1	アサクラナコ	イ078	朝倉南甲遺跡	愛媛県埋蔵文化財センター	町外	朝倉村内出土遺跡について詳解している		1986	製本	26×18 88p
1264	イヨノチメイ	イ079	伊予の地名	米井義郎	県内	愛媛新聞記事の切り抜き。鶴吉、昌農内、松前町、伊予郡、伊予、愛媛など県下広く地名の起源をまとめたものである	地名	1972	コピー	新聞記事1年分の編集
993	イヨノハイクイ	イ080	伊予の俳諧	星加宗一	町内外	昭和50年7月1日発行		1975	製本	18×13 195p
978	イヨノレキシ	イ081	伊予の歴史 上	景浦 勉	町内外	原始から中世までの伊予の歴史。星の岡の激戦のころ鎌倉幕府が滅亡し建武の中興を迎えることとなる。	星ノ岡の激戦	1974	製本	18×13 219p
24	イヨハイジ	イ083	伊予俳人録	曾我部松亭	町外	伊予史談97号から198号に掲載された俳人をイロハ順にまとめ、八藩の頭文字と生死享年を表す。確証のない俳人は〇〇時代と生存時代を表している。	俳人	1974	コピー	26×18 156p
378	イヨブンジンシ	イ085	伊予文人小伝集	曾我 鍛	町内外	郷土文化と古典の会発行。文人の生年と没年、行跡、係累、生まれたところなどを数行で紹介した事典。	青地林宗、武知五友、森田雷死久、玉井千羅	1942	コピー	21cm 28枚
131	イヨメイジ	イ086	伊予明治史 上	木原良一	愛媛県	政治、教育、産業、経済、あらゆる文化、一般庶民の生活の変化について明治という時代に起こった出来事を加えて理解しやすく記述している。	明治時代	1967	製本	18×26 260p
371	イヨメイシショ	イ087	伊予名勝詩歌集	南海道人		南海道人の写本を西園寺が大正元年にコピーしたもの。玉生の「うれしくも松の梢にたちよりて久しくこの民を守らん」も選ばれている。	玉生	1912	コピー	26cm 788枚
376	イリアイヤマカ	イ088	入会山関係文書	伊予郡長	全	国有林を民有林に編入する訴えのまとめである。各地の入会山を所有していた村々の権利を認める様、いろいろな文書を提出している。	国有林	1901	コピー	26cm 122枚
1105	イレイサイサイ	イ089	慰霊祭祭文	松前町長	松前	昭和17年10月28日。「町村出身の従軍戦没者諸士の英霊を祀る至高、至純日本精神の神髓に徹し身を大儀のために処士忠誠を賜し護国の華と散り神州男子たる……」	日本精神	1942	袋018 コピー	25×38 1枚
1103	イワムラタカト	イ090	岩村高俊議会朗読書	岩村高俊		明治10年6月22日		1877	袋019 コピー	14cm 1枚
21	イヨメイシ	イ091	伊予名所図歌(全)	古韻堂巴雲	町外	石鑛山や天山(久米郡)、伊与高根(新居郡)その他を詠う歌集。	天山	1807	コピー	26×18 28枚
1101	インテムラドウ	イ092	石手村・道後村畝順帳	石手村・道後村戸長	町外	寺院田等、明治9年。石手村には官有地九町七反六畝二十、歩村社一四畝拾歩、山七町八反七畝貳拾六歩、荒蕪地壹反七畝貳拾八歩など墓地、溝渠、泉、藪などに分け面積を示す。		1876	袋020 コピー	10枚
1100	イヨジンジャキ	イ093	伊豫神社記	伊予神社	神崎村	券子本(後半欠損)、貞享4年8月22日。「伊豫の国の郡神崎村伊豫の神社は旧事記曰く天地開闢之初……」		1687	袋020 原本	
995	イヨシダン	イ095	伊豫史談 256号	伊豫史談会	町内外	昭和60年1月。幸田志万「熟田津」論がある。重信川河口付近とする節も述べているが、大山寺丘陵と御幸寺山丘陵間の堀江旧石手川河口にあるとする説をまとめている。	熟田津	1985	原本	16×22 97p
366	イナカロンゴヒ	イ096	田舎論語百則	忽那 久吉	北川原	第1則は自然の理を唱え、日月の運行、昼夜交代、四時循環など人力でもって左右できるか、従うしかないかと主張している。生涯の体験から得た箴言百則をのべ自戒とし、人々に示したもの	日本魂	1934	コピー	27×19 70p 文庫目録は未登録
358	イチマイキシヨ	イ097	一枚起請文	源空		建暦2年、浄土宗の教義を要約している。	法然上人、大智院	1212	コピー	26×18 1枚
359	イヨグンナカ	イ098	伊豫郡中河原村用水		中川原	中川原用水である杜若泉、立石表泉の覚え書きである。明治4年の大水・大雨明治6年の大干魃などから書き起こされている。	早魃・大雨の記録	1871	コピー	29×14 155枚 文庫目録に未登録
346	イヨテツドウヒ	イ101	伊予鉄道百年史	伊予鉄道株式会社	町内外	明治20年設立以来の沿革について、創立百周年記念に編纂したもの		1989	製本	26×18 1129p 文庫目録に未登録
992	インベジュクレ	イ102	石部宿歴史地図	中村地図研究所	町外	1文政年間 2文久年間 3対照用現在図よりなる。昭和60年1月発行。		1985	製本	28×21 3枚
168	イマバリシ	イ103	今治市内遺跡詳細分布調査報告書	今治市教育委員会	町外	昭和60年、61年の二年間実施した埋蔵文化財調査結果		1987	製本	26×18 62p 文庫目録に未登録
381	イマバリシナイ	イ104	今治市内遺跡詳細分布調査	今治市教育委員会	今治市	近代化によって失われようとする地下の遺跡を発見し、今後の文化行政に資するため「今治市内遺跡詳細分布調査」を二年計画で実施した。		1986	製本	26×18 37p
133	イッパンコ	イ105	一般国道196号線今治道路埋蔵文化財調査報告書 1	愛媛県埋蔵文化財調査センター	町外	一般国道196号今治道路の建設工事に伴い、予定地内に所在する埋蔵文化財の発掘調査の本文。		1984	製本	305p
969	イヨコクフアト	イ107	伊予国府跡確認調査概報 1	愛媛県教育委員会文化振興局	町外	伊予国府跡の調査、愛媛県教育委員会が昭和57年3月1日発行。		1982	製本	26×18 48p
988	イヨコクフアト	イ108	伊予国府跡確認調査概報 2	愛媛県教育委員会	町外	古代官衙建物は北の軸線に沿った調査をしたが、国府に関する資料は得られなかったとある。	古代官衙	1982	製本	26×18 45p 正副分割必要
989	イッパンコクド	イ109	一般国道11号松山東道路関係遺跡埋蔵文化財調査報告書 1	愛媛県教育委員会	町外	前川、高畑、来住の各遺跡の報告書。石砲丁、雑草種子多数発見され水田や畑地もあることが分かる。	タガラシ、コナギ、水田遺跡	1981	製本	26×18 125p
345	イッパンコクド	イ110	一般国道11号松山東道路関係遺跡埋蔵文化財調査報告書 II	愛媛県埋蔵文化財調査センター	町外	一般国道11号松山東道路関係遺跡のうち来住 IV V VI遺跡、久米窪田 II III遺跡に関する報告書		1981	製本	26×18 261p 文庫目録に未登録
169	イッパンコ	イ111	一般国道11号松山東道路関係遺跡埋蔵文化財調査報告書 III	愛媛県埋蔵文化財調査センター	町外	一般国道11号松山東道路建設予定地内で剣道三坂松山選から小障子川の間の発掘調査の結果 愛媛県教育委員会発行の報告書		1981	製本	26×18 310p 文庫目録に未登録
170	イッパンコクド	イ112	一般国道11号松山東道路関係遺跡埋蔵文化財調査報告書 IV	愛媛県埋蔵文化財調査センター	町外	一般国道松山東道路の建設工事に係る平井遺跡の発掘調査の結果		1982	製本	26×18 385p 文庫目録に未登録
171	イッパンコ	イ114	一般国道33号砥部道路関係埋蔵文化財調査報告書	愛媛県埋蔵文化財調査センター	町外	一般国道33号砥部道路の工事に十もなまって消滅した長田遺跡の発掘調査の結果		1981	製本	26×18 396p 文庫目録に未登録
173	イヨコクブ	イ115	伊予国分尼寺跡今治市桜井埋蔵文化財調査報告書	愛媛県埋蔵文化財調査センター	町外	昭和61年6月より7月にかけて、今治市立差くらい中学校施設建設予定地の発掘調査した結果		1981	製本	26×18 129p 文庫目録に未登録
174	イヨチクノウソ	イ115	伊予地区農村婦人の生活実態	伊予広域営農団地推進協議会	伊予農業改良普及所	農村婦人の生活時間、仕事分担状況など農作業及び家庭運営などの調査結果		1986	製本	26×18 24p 文庫目録に未登録
135	イワヤイセ	イ116	岩谷遺跡	岩谷遺跡発掘調査団広見町教育委員会	町外	縄文時代の後期全般にわたる土器片、石器類である。特に西日本では例を見ない大規模な配石遺構である		1979	製本	12p
968	イヨイナリジン	イ117	伊予稲荷神社奉納和歌	和田茂樹	町外	愛媛文学叢書刊行会発行。享保ころに伊予稲荷神社に奉納された和歌を、青葉図書が出版。		1987	製本	18×13 150p 文庫目録に未登録、副本4冊

ID 読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他	
134	イヨシノブ	イ119	伊豫市の文化財	伊豫市教育委員会	伊予市	伊予市内において指定されている文化財県指定7点、市指定38点の特に重要なものとして文化財保護条例によって保護されているものである。		1970	製本	26cm 20p 正本
175	イナリダイミヨ	イ120	稲荷大明神并末社社器録	嶺山春通	町内	高柳村西分、高柳村上分、北川原村、昌農内村鎮座の合祀神、素鷲社が示されている。		1871	コピー	26×18 9枚
986	イヨシノレキシ	イ121	伊豫市の歴史文化 17号	伊豫市歴史文化の会	伊豫市	昭和62年8月発行、重川家俊「武智五友」文明開化が全国を風靡した時代に、旧来の風習を改めず西欧の文物を一切排除して生き抜いたと、参考文献を中心に生き様を論ず。最後に略歴もあり五友に関する必読文献である	武智五友	1987	製本	21×15 82p
987	イヨシノレキシ	イ122	伊豫市の歴史文化 18号	伊豫市歴史文化の会	伊豫市	昭和63年3月発行 新井孫通「新川における甘蔗・玉葱栽培について」砂糖きび栽培の苦しい労働の様子がわかる。きび絞りの動力は牛であり、使役しないときは川上村へ預けていた。砂糖小屋の様子が具体的に述べられている。	武知五友	1988	製本	21×15 71p
984	イヨシノレキシ	イ124	伊豫市の歴史文化 20号	伊豫市歴史文化の会	伊豫市	平成元年3月発行。清水史「伊予と愛比売」古事記、万葉集、風土記などいよの地名のある項目を中心に考察したものの。創立20周年記念特集として郷土史研究文庫を7編を再掲、中島辰次郎の「佃十成武勇伝」がある。これは「村瀬、由緒佃家血肉」を主材として「伊予市精義」を参考にまとめたものである。		1989	製本	21×15 74p
985	イヨシノレキシ	イ125	伊豫市の歴史文化 21号	伊豫市歴史文化の会	伊豫市	平成2年3月号。宮野英也「児童文学としての民話を考える」コンピュータによる映像の時代になり、子供は聞く耳を失ったという。地域文化を向上させることは明治以降、古老たちの民話を発掘保存することにあるという。	佃十成	1989	製本	21×15 80p
982	イヨシノレキシ	イ126	伊豫市の歴史文化 22号	伊豫市歴史文化の会	伊豫市	平成2年3月号。宮野英也「児童文学としての民話を考える」コンピュータによる映像の時代になり、子供は聞く耳を失ったという。地域文化を向上させることは明治以降、古老たちの民話を発掘保存することにあるという。	民話	1990	製本	21×15 86p
176	イマバリノブン	イ127	今治の文化財	今治市教育委員会	町外	昭和38年3月に発刊された「今治の文化財」以降県及び市において指定されたものを増補公刊したもの		1978	製本	26×18 42p 文庫目録に未登録
983	イヨシノレキシ	イ128	伊豫市の歴史文化 23号	伊豫市歴史文化の会	伊豫市	平成2年8月号。田中孝子「タカキベーカーリー松山工場及び赤坂泉を訪ねて」砥部麻生で聞いた年上の人々の窪田兵右衛門を思い出しつつふるさとを探索した記録である。民話はこのような記憶から生まれるだろう。		1990	製本	21×15 82p
1286	イナサウカイ	イ129	稲作改良論	横井時敬	全国	水田と排水の章を設け、過湿地をのべ排水の効果を読み、暗渠、明渠を詳説する。名著三札の一つ。農学の科学的な方法の基礎となった書物	農学	1910	原本、博文館発行	23×15 319p 原本
1297	イナサウカ	イ129	稲作改良論	横山時敬	全国	初版明治23年岡田村巡回文庫の一冊である。著者の初期の三部作の一冊。日本農学の科学的な方法の基礎となった名著。	農学	1910	原本、第3版	22×16 598p
1295	イノウエマ	イ130	井上正夫遺墨集	井上正夫生誕百年祭実行委員会	砥部町	「わたしたちの郷土が生んだ、新派のユニークな名優井上正夫先生の生誕百年を迎え、ここに町を…」と序文にあり、矢野徹志の絵、鴻池楽斎の文と年譜からなる。		1980	製本	30×22 131p
1323	イヨシダン	イ131	伊豫史談論文索引 創刊号～30号	日下部正盛	全県	事項名、人物名、執筆者名の索引が充実し必要な項目や論著をすばやく検索できる。	データベース	2003	製本	18×26 116p
1331	イズミソノ	イ132	泉 -その未来にむけて-	重信川ビオトープネットワーク研究会	重信川流域	重信川周辺の泉の調査報告。泉の名称とその特性、植物、昆虫、低生動物、魚類、鳥類からまとめたものである。	三ヶ村泉	2000	製本	21×30 135p 四国建設弘済会
1338	イキガイ	イ133	生きがい	白石春樹	全県	文化の創造は地域から、日本型福祉社会を進めるには、揺るぎなき愛媛教育の殿堂、新しい農本主義への転換などにまとめた著作集。		1982	製本	18×13 224p 千春房
1588	イチリュウ	イ134	一粒米	森恒太郎	県内外	人生の波乱、人生の失望、人生の趣味、人生の最大目的で構成されている。		1910	製本	22×15 341p 博文館
1339	イキガイ	イ136	生きがい第6巻	白石春樹	全県	情報化社会との出会い、ひらけゆく西瀬戸経済圏構想、県政の新しい基本理念その他に分け県政を論じている。		1985	製本	8×13 288p 千春房
387	ウケアナシダン	ウ001	浮穴史談 創刊号	浮穴史談会		祖先がこの地を開拓してきた生活経験の生々しい記録や文化の歴史の記録。		1954	コピー	26cm 40p
385	ウケアナシダン	ウ002	浮穴史談 第2号	浮穴史談会		国道33号線、林業の復興、久万銀行の創立など、先覚者井部栄範の業績をまとめている。		1954	コピー	26cm 46p
386	ウケアナシダン	ウ003	浮穴史談 第5号	浮穴史談会	町外	戦国時代の終わり頃までの上浮穴の発達を集録。西田栄の「上浮穴の縄文文化 上黒岩・笹ヶ滝の二遺跡を中心にして」がある	縄文時代	1692	コピー	26cm 56p
1098	ウケジョウ	ウ004	請状(草履取)	藤原町助右衛門		天和2年		1682	袋021	38×36 1枚
382	ウワキユウキ	ウ005	宇和舊記 上巻	清水真良	町外	昭和3年豫陽叢書第2巻として発行したもの。臨川書店、昭和48年豫陽叢書全9巻として再発行したものである		1973	製本	19cm 281p
383	ウワキユウキ	ウ006	宇和舊記 下巻	岡田通載	町外	吉田古記によれば浦が23、村が57、町が1ある。昭和3年愛媛青年処女協会が復刊したものである。		1973	製本	19cm 281p
384	ウグイスノハナ	ウ007	鶯の花笠	守中庵石山選		さえずるで始まる俳句相撲。30人の15番勝負で30句ある。	俳句相撲	0	コピー	20×27 25枚
1321	ウワジマチ	ウ008	宇和島地方の自然	愛媛県立博物館	全県	「愛媛の自然」文献資料集 その2		1984	製本	15×21 245p
398	エイセイクミア	エ001	衛生組合規約	岡田		明治31年県訓令79号により、各部落の衛生組合を結成する様式見本。これで各部落の衛生組合が組織された。煮沸水を飲むなどの規定がある。	伝染病	1898	コピー	9枚
1097	エイセイコウサ	エ002	衛生講座算用控簿	筒井村衛生講	筒井	明治11年7月		1878	袋022	14×36 10枚
1094	エクビゼンズ	エ003	恵久美全図	恵久美区長	恵久美	明治末期の製作。ホノギ、地番を記入した全図で中藪、藪西の北を現恵久美川が西へ流れ、郡中線の近くが国近となる。	国近川	0	袋023	160×280 1枚
405	エヒメケンセイ	エ006	愛媛近世文学史概要	県史原稿		歌人、俳人、日記など作品名と成立の年代、著作者名で構成している。		1981	コピー	26×36 120p
75	エヒメケンキ	エ007	愛媛県教育年鑑	愛媛県教育委員会	町内外	昭和52年渡教育重点目標5項目をあげその実現をめざした。教育行財政、学校管理、学習指導、社会教育、同和教育、文化振興、保健体育、福祉、教育調査統計、教育機関にわけまとめたもの。		1978	製本	22cm 251p
395	エヒメケンイヨ	エ008	愛媛県伊予郡岡田村条例規則	岡田村役場	岡田	明治24年7月2日～明治43年10月24日	区長と区長代理	1910	コピー	26cm
389	エヒメケンエン	エ009	愛媛県沿革 1, 2	愛媛県	町内外	幕末から明治5年まで、藩別の沿革史、編年体で各藩の記録をまとめている。明治初期の混乱がまとめられている。		1872	コピー	25cm
390	エヒメケンガク	エ012	愛媛県「学制」時代教育関係資料 1	近代史文庫 篠崎勝	町内外	「愛媛資本主義社会史」の内容となる支配体制の構造と展開「民衆の生活と運動」の史料のうち主要なものを選択し項目別に収録		1962	コピー	26×18 110p
401	エヒメケンガク	エ013	愛媛県「学制」時代教育関係資料 2	近代史文庫 篠崎勝	町内外	昭和38年5月1日発行の近代史文庫、明治9年の部。愛媛県布達乾第126号・祭典に歌舞、演劇を習わし財の浪費である。教育の利益を謀図可致。		1963	コピー	26×18 110p
397	エヒメケンガク	エ014	愛媛県「学制」時代教育関係資料 3	近代史文庫 篠崎勝		昭和38年11月1日発行の近代史文庫。愛媛県布達第16号・徴兵拒否の口をあげる。他人の養子になる、廃屋の苗跡を冒す、他管に逃去、痘瘡と偽る等徵募の応ぜよという呼びかけ。	徴兵拒否	1963	コピー	26×18 118p
399	エヒメケンガク	エ015	愛媛県「学制」時代別教育関係資料 4	近代史文庫 篠崎勝		昭和39年7月15日発行の近代史文庫で明治11年、明治12年の資料。北黒田村彩洋小学校を甲種教則で教育したいという教則改めの伺い(31p)	彩洋小学校	1964	コピー	26×18 88p
407	エヒメケンガク	エ016	愛媛県学務規則類聚	愛媛県		「此書ハ本県学務布達達ノ内容ニ就キ現時履行セル所ノ規則ヲ類集セシ者ナレハ往年以来ノ沿革其ノ外詳細ノ儀ハ従前ノ布達達ニ就キ之ヲ辨知スヘシ」		0	コピー	19×15 46枚
70	エヒメケンシ	エ017	愛媛県誌稿(上巻)	愛媛県	町内外	一町14ヶ村に至る伊予郡の歴史をわかりやすく明治維新後大正時代までを要約している。		1917	製本	22cm 934p
73	エヒメケンシ	エ018	愛媛県誌稿(下巻)	愛媛県	町内外	日露戦役は明治三十七八年戦役として記載され、人民の俘虜にに対する行為は収容所見聞抑止の件と俘虜を囲み又は追尾するを抑止の件が最も多い。	日露戦争	1917	製本	22cm 1118p
69	エヒメケンジン	エ021	愛媛県人物名鑑(第二輯)	宮内保之進	町内外	伊予郡北伊予村池田市太郎他76名(松前町地区)の村会議員、県会議員、区長、町村長などをとりあげ、家族構成や業績をまとめている。		1923	製本	22cm 303p 関和用紙店印刷部
388	エヒメケンキョ	エ022	愛媛県教育史資料篇 1	教育史編集室	町内外	学制頒布百年記念行事として、明治5年～18年にわたる県の教育関係の通牒・諸規則をはじめ校訓、教則心得等のなかから重要なものを収録		1969	製本	25cm 202p

ID 読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
344 エヒメケンギヨ	エ023	愛媛県行幸記念誌	愛媛県文書課	町内外	昭和25年3月17日から5日間にわたる昭和天皇の本県行幸記録。松前町では東洋レーヨン松前工場の行幸記録がある。		1952	製本	26×18 272p
81 エヒメケンギ	エ024	愛媛県議会史	愛媛県議会史編集委員会		愛媛県の成立から明治21年県会までの記録。明治十九年コレラ流行のため三千人死亡の記録がある。	伝染病予防	1975	製本	22cm 131p
403 エヒメケンタツ	エ047	愛媛県達	愛媛県				1876	コピー	26×48
400 エヒメジンシ	エ068	愛媛人新地図 上	愛媛新聞社	町内外	伊予郡の中に松前町関係者は白石春樹、岡井正男、坪内寿夫、喜安善吾、三原藤美他の青年時代から現代に至る生き様をまとめた人物伝		1968	コピー	26×18
402 エヒメジンシ	エ069	愛媛人新地図 下	愛媛新聞社	町内外	松山市関係の人物がまとめられている。伊豫史談関係者は上下2回に分けて、活躍の軌跡をまとめる。		1968	コピー	エ069 26cm 12枚 愛媛 大学紀要(人文科 学)第8巻 第1号
392 エヒメシンプウ	エ070	「愛比売新報」と「俳諧花の囀」	和田茂樹	町内外	愛比売新報の題詠欄と附録の「俳諧花の囀」は新しい印刷術の進んできた明治14年、新聞文芸を企画し新時代に即応した未開拓分野の開発に大きな貢献をした。	新聞文芸	1962	コピー	
1095 エヒメシンプウ	エ071	愛媛新報	愛媛新報社	全	郡視学会諮問事項、(切り抜き)俳句 45句は文苑らんにある。その一句 鉢毒や田螺ころころ地はやせぬ 何兵衛 あり。漢城通信に京釜鉄道の路線変更についての対応が示されている。	農業補習学校・ 高等小学校設 立、食用タニ	1902	袋O23 コピー	15cm 4枚
391 エヒメノコクブ	エ075	愛媛の国文資料	愛媛大学地域社会総合研究所		「大海集」、「金玉と歌集」、「道行京みやげ」の解題と本文をまとめた国文資料である。		1979	コピー	26cm 68枚
1268 エヒメノフル	エ083	えひめのふるさとこみち 東予編 その1	愛媛県教育委員会事務局文化課	町外	「ふるさとこみち」を歩く人々に、それぞれの土地に秘められた歴史や伝説・文化を公開し、先人の息吹を感じさせる資料、嘉吉の教育委員会が協力して作成した。		1980	製本	21cm 129p
394 エヒメノベイバ	エ103	愛媛の米麦作の歩み	曾根 達郎	町内外	食料自給力の向上、土地の高度利用が要請されている日本の食糧の根幹である米と麦の生産対策		1976	コピー	22cm 147p
393 エヒメヤワタジ	エ106	恵依弥八幡大神社器録	伊予神社		明治4年11月発行。村社で合祀は天満宮ほか10宮ある。		1871	コピー	26cm 6枚
72 エヒメマン	エ107	愛媛万葉植物	八木繁一	町内外	カシワを探して松山市の柏餅を買い集めている。すべてアオナラガシワであったという。久谷村で本物に出会い喜んだ記録がまとめられている。	カシワ	1971	製本	21cm 95p
71 エンカクタ	エ108	沿革大要岡田尋常高等小学校	栗田豊	岡田	昭和2年～昭和20年岡田小学校沿革誌。昭和十四年十月三十日、シラミ取りの実演をしている。十六年五月十四日集団歩行鍛錬会で初等科二年金蓮寺往復45分とある。	鍛錬	1961	コピー	
406 エイネムラチ	エ113	永年村貯蓄費書類類込		筒井・浜	非常時蓄えとして米や金銭を浜村へ用意した記録である。		1860	コピー	26×36 文庫目録に未登録
343 エヒメケンシヨ	エ114	愛媛県職員録	愛媛県	町内外	明治15年の名簿である。出身県名と士族、平民別に表されている。郡吏277人郡長16人で構成されている。この年の県令は従5位の関新平で長崎県士族とある。	身分制度	1882	コピー	18×18 36枚
396 エヒメノカンガク	エ115	愛媛の漢学・漢詩文資料目録			近世中予地方では鷲野南村、武知五友、三上是庵、相原賢、村井俊明、忽那久義などを著者とする作品が示されている。		0	コピー	60p 文庫目録に未登録
1307 エヒメノブ	エ129	愛媛の文化 No13	愛媛県文化財保護協会	全県	鷲野マチ子「昔囀」に狸が石を投げる話がある。加藤敏之は「小富士松の記」として蟠松が子どものときから見て育った古松を世間に知らせたいという努力の跡をたどる	古照遺跡	1973	製本	26×18 222p
1305 エヒメノブ	エ130	愛媛の文化 No16	愛媛県文化財保護協会	全県	武智圭色の「養農の墓と鉄齋」があり、特集は「郷土の日本画物故作家たち」である。		1976	製本	26×18 281p
1316 エヒメノブ	エ131	愛媛の文化 No17	愛媛県文化財保護協会	全県	特集 えひめの国宝展		1977	製本	22×15 320p
1309 エヒメノブ	エ132	愛媛の文化 No18	愛媛県文化財保護協会	全県	池内悦雄の「市坪村の水害史」、堀井恭武の「庄屋日記にみる行事や出来事」がある。		1978	製本	22×15 257p
404 エヒメノブンカ	エ133	愛媛の文化 19号	乗松 茂	町外	愛媛県文化財保護協会、昭和54年3月20日発行。内子町伝統建物群調査報告がある。建物正面の意匠による分類、間口規模による分類、平面タイプ、1階2階の柱間装置に依る分類など古建築の特色をまとめている。	古建築	1979	製本	26×18 154p 文庫目録に未登録
1411 エキケイ	エ133	改正訓点 易経 (上)		全国	讀法ノワカルベキヤウニ。字毎二偏假ヲ附テ。讀書ノタスケトスルナリ……		0	原本 綴じ	和 太田熊衛文庫 皇 都書林
1306 エヒメノブ	エ134	愛媛の文化 No20	愛媛県文化財保護協会	全県	「古照遺跡の沖積層から縄文時代の焼畑農耕を探る一提案」として戸田智の論考がある。		1981	製本	26×18 235p 正本
341 エヒメノブンカ	エ136	愛媛の文化 第21号	愛媛県文化財保護協会	町内外	土居義一の南吉田村庄屋の1823年水争いの古文書をすべて公開している。南吉田村から見た義民忠七の記録である。		1980	製本	26×18 228p
1315 エヒメノブ	エ137	愛媛の文化 No22	愛媛県文化財保護協会	全県	元藤元邦の「松山城」についての論考がある。主置浅行の「熟田津の研究」がある。		1983	製本	26×18 320p
342 エヒメノブンカ	エ138	愛媛の文化 第23号	愛媛県文化財保護協会	町内外	武智成彬の「神社変遷史略考」がある。神仏判然令以後、生活に密着した民間信仰を切り捨て各地に混乱をもたらした。	民間信仰	1982	製本	26×18 278p
1300 エヒメケン	エ139	愛媛県松前町横田遺跡Ⅲ区調査報告書	松前町教育委員会	横田	石鍾で両端に抉入のある緑泥片岩の海石が出土している。愛媛県では最古の弥生土器が出土した。	弥生土器	1995	製本	21×30cm 54p
1301 エヒメケン	エ140	愛媛県松前町横田遺跡Ⅱ区調査報告書	松前町教育委員会	横田	河水統制の行われていた河川址とそれに伴う井堰・導水路等を検出。低湿地における弥生後期の人工灌漑の様相を知る貴重な遺跡である。石鍾も出土。	弥生後期の人工 灌漑	2003	製本	21×30 61p
1320 エヒメノ	エ141	愛媛の島々の自然	愛媛県立博物館	全県	愛媛の自然文献資料集 その4		1986	製本	15×21
1328 エヒメケン	エ142	愛媛県産植物の種類	山本四郎	全県	県産植物をすべて網羅した、現場を歩いた大記録の集大成である。植物目録の基本文献でもある。海拔高度や分布表現、外来種、学名などまとめられている。		1978	製本	15×21 217p
1327 エヒメケン	エ143	愛媛県松前町の神社林	重信川自然環境研究会	全町	松前町内の七神社を比較考察した植物誌である。照葉樹林の断片が残され、破壊される前の姿を見ることが出来る。	照葉樹林	1986	製本	18×26 77p 18×13 33枚 太田熊衛文庫 皇 都書林
1412 エキケイ	エ145	改正訓点 易経 (下)		全国	オオイナルカナ乾元・萬物ツツテ始……振り仮名を打って読みやすく編集している。		0	原本 綴じ	和 太田熊衛文庫 皇 都書林
1424 エヒメノケ	エ146	愛媛の県民性 県民性調査報告	県民性調査研究プロジェクトチーム	全愛媛 県	二年間にわたるチームの研究報告であり白石春樹、近藤昇吉の前書きがある。		0	製本	18×26 202p
1425 エヒメケン	エ147	愛媛県松前町楠木遺跡発掘調査報告書	松前町教育委員会	出作	鎌倉時代から室町時代にかけての集落址の一部である。柱穴中に土師器を鎮め物として収めている。		1998	製本	21×30 75p
1452 エヒメケン	エ148	愛媛県師範学校細則	愛媛県師範学校	全県	校務分掌規程、教務細則、寄宿舎細則、庶務会計細則、雑則		1912	製本	19×13 92p 太 田熊衛文庫
89 オオイデガ	オ002	大井出川手堀人名帳	南黒田	南黒田	番外山田一男、岡井権四郎二名のほか、横山七郎から山田義隆まで74名の名簿である。欠のきにゆうもあり大出手堀にさんかできなかった人名だろう。手作業の河川管理が普通であった。著者年代不明。原稿用紙に手書きしたものを3分冊。各村々の覚え書き。	川浚え	1964	原本	12×34 4枚
1312 オオズテカ	オ008	大洲手鑑 I		町外	I 1~94 II 94~167 III 167~259		0	コピー	
1313 オオズテ	オ009	大洲手鑑 II		町外	著者年代不明。原稿用紙に手書きしたものを3分冊。各村々の覚え書き。 II 94~167		0	コピー	
1314 オオズテカ	オ010	大洲手鑑 III		町外	著者年代不明。原稿用紙に手書きしたものを3分冊。各村々の覚え書き。 III 167~259		0	コピー	

ID	読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
84	オオズメイ	オ011	大洲名所図会	忠怒	町外	渡場脇川景色には正覚院、弁天社、比志地蔵、権現道、金比羅、大門などの位置が示され、脇川を行き交う舟が多数描かれている。	脇川	1866	コピー	25cm 86p 伊予史談会の山中奉忠著
80	オオタニガ	オ013	大谷川浚仕役帳	南黒田	南黒田	昭和21年から22年度にわたる組別の大谷川浚えの経費明細書である。組名別に氏名が示されている。	川浚え	1946	原本	14×36 10枚
93	オオタニイ	オ014	大谷池費関係書類	南黒田区長	南黒田	昭和25年から昭和38年までの反別と金額と氏名が記録されている。昭和25年は鷺野燾太郎25反21で102円80銭と記録されている。	大谷池	1950	原本	26cm
97	オオトウ	オ016	大野とう吉翁行状	景浦直孝		付録として明治27年に記した家訓が33ページある		1921	原本・和綴じ	22cm 108p
76	オオハラキ	オ017	大原基戎とその周辺	和田茂樹	町内外	愛媛大学子規研究会編集(正岡子規資料と研究)		1973	コピー	26cm 14枚
79	オオモリスクラ	オ018	大森桜村帰郷句会俳句	亜亜園選		兵役、在營を終え、帰郷にあたり歓迎の洪茶会での発句。この雪に俳句の宴を開かばや等		0	コピー	20cm 21枚
95	オオヤマズミジ	オ019	大山祇神社連歌	和田茂樹	町外	愛媛大学地域社会研究所発行の大山祇神連歌懐紙281巻の現代語訳である。		1958	コピー	26cm 70枚
94	オオワリチ	オ020	大割帳	徳丸他	松前町内	19大区、重信川南の村々で郡の費用を割り振ったもの。このときの村は現在の部落にあたる。		1874	コピー	26cm 13枚
67	オカエチコ	オ021	御替地古今集	藤澤武輝	町内外	昭和7年12月製訂 伊予史談会。郡中の村々の諸記録。松前関係は黒田村氏天神社、釣吉村、麻生水論などあり。	窪田兵右衛門	1932	コピー	21cm 98p
91	コウミンカ	オ023	公民館日誌(昭和31年)	岡田公民館	岡田	昭和31年1月1日から昭和31年12月31日までの日誌。成人式の園芸大会のため1月8日から14日まで夜間練習に青年団が参加。13日は師匠来館し夜間11時まで練習している	成人式	1956	原本・冊子	18×25
92	コウミンカ	オ024	公民館日誌(昭和32年)	岡田支所	岡田	昭和32年1月1日から昭和32年11月25日までの日誌。成人式1月15日で、午後6時より青年団主催園芸大会、午後9時終了とある。	成人式	1957	原本・冊子	18×25
90	コウミンカ	オ025	公民館日誌(昭和33年)	岡田支所	岡田	昭和33年1月1日から昭和33年3月26日までの岡田公民館の日誌。1月4日より演劇練習の日程が毎日14日までである。成人式(15日)に演劇発表、夕鶴、3年寝太郎の練習だろう。	成人式	1958	原本・冊子	18×25
66	コウミンカン	オ026	公民館日誌(昭和34年)	岡田支所	岡田	昭和34年1月1日から昭和34年10月3日間の記録。1月22日ストーブ用石炭、三津浜故辰商会より1トン購入とあり、石炭の時代である。	県フィルムライブラリー	1959	原本	
65	コウミンカン	オ027	公民館日誌(昭和36年)	岡田支所	岡田	昭和36年1月1日から昭和36年12月28日間の記録。消防団・青年団・婦人会の各種活動の正確な年月日が残されている。		1963	原本	
86	コウミンカン	オ028	公民館日誌	岡田支所	岡田	昭和37年の岡田支館の日誌である。昭和37年1月1日から12月30日まで之記載あり。各部落の活動が記録されている。視聴覚教材としては映画が主役である。	キッチンカーによる料理教室、フィラリア検血	1962	原本	製本
1552	コウミンカ	オ029	公民館日誌 昭和32年1月1日～5月26日	岡田支所	岡田	5月25日図書貸し出し状況、2・5時間の間に成男2名婦人5名青男17名青女9名その他21名合計54名が利用している。		1957	製本	19×26 74枚
87	オカダシヨウガ	オ030	岡田小学校設置稟請	和田鹿太郎	岡田	岡田小学校創立時の平面図付の要請書。		1892	コピー	26cm 19枚
1195	オカダスイゲン	オ031	岡田水源井戸水位調査表	松前町役場	岡田水源 地	昭和13年4月19日から試験して20日には1時60分水位低下し27日には4時20分の最低水位を示している。5月6日はポンプ停止したの दौरानその日の間に2時40分水位回復し、揚水前水位に回復している。	水位変動	1938	袋025 原本	8×108 1枚
1310	オカダムラ	オ033	岡田村灌漑用ポンプ設置概要	岡田村役場	岡田	岡田村地図に灌漑用ポンプの設置状況を記録している。地下水を求めて一斉に開発したことが分かる。動力は発動機と電動機である。	パーチカル	1939	原本	28×40 84枚
1311	オカダムラ	オ035	岡田村歳入歳出決算書	岡田村役場	岡田	村民税、固定資産税、自転車税、荷車税、電気ガス税、自転車荷車税、煙草消費税が岡田村の収入(昭和29年)である。		1954	原本	37×26 22枚
74	イヨグンオカ	オ036	伊予郡岡田村従軍軍人名簿	岡田村役場	岡田	明治37、8年戦役の従軍者名簿である。戦死病死が記され、陸軍の病死者数が多いのは、脚気の影響だろう。		0	原本	19×13 6枚
83	オカダムラ	オ039	岡田村の稲作	野村茂三郎	岡田	原種田の様子、岡田村捨て苗代の運営など新進の稲作技術を解説している。	捨て苗代	1916	コピー	26cm 128p
82	オカダムラ	オ040	岡田村の現状	栗田豊	岡田	昭和40年、原稿用紙にまとめた。明治23年から昭和中期の40年間の産業(農業)と教育を論ずる。模範農村といわれた岡田村の歴史を記述している。	模範農村、耕地整理	1965	コピー	26×18 45枚
88	ゴカンジョ	オ042	御勘定当川改諸仕成心覚	窪田豊二郎	昌農内	文化元年の写し(市坪村にあった)庄屋の手控え、文書の書き方など。洪水で川になった台帳の作り方など。		1804	原本	14×21
77	オダチヨウ	オ043	小田町郷土誌年表	小田町	町外	土居正一氏の編集で、701年から1974年までをカバーしている。		1974	原本	25cm 54p
96	オチケンリ	オ044	越智家史料	越智三溪・斎藤正道	町外	松山領野間郡、県庄屋文書の翻刻である		1975	製本	21cm 96p
78	オドミ	オ045	おどみ(歌集)	升田栄		習作寄集(其17)零哉居処作とある		0		26×18
68	オボエガキ	オ046	覚書(東レ工場用水)	鶴田義正・柚山喜久夫	町内全	昭和31年3月31日議会の決議書続いて昭和32年3がち1日の決議書がある。ここには採水・廃水・煤煙・等の被害問題は松前町が責任をもって処理する様求められている。	漁業権、揚水条件	1956	原本	26cm 6p 3枚
1126	オボエジョウマ	オ047	覚 定米并銀米免割覚	鷺野燾太郎	黒田村	オ047として同じ袋に正、副あり。		1835	袋051 原本、コピー	美濃判1枚
1192	オボエムラダカ	オ048	覚 村高等	鷺野為右衛門		「1邑高 貳百八石八拾八斗六合 田村 1 同畑高 貳拾四町四反七畝九九歩 貳百拾貳石貳拾九斗二合 ……」		1782	袋026 原本	26×35 1枚
1194	オボエタネゴメ	オ049	覚 種米借付	小野伝五左衛門他		「米九石七斗納 元米也 右者種子借米候条、三割之利米 以後年々上納可仕者也」天明三年九月	種子借米	1783	袋036 原本	33×55 1枚
1193	オボエウスイ	オ050	覚 用水并手堀扶持米	鷺野為右衛門	黒田村	天明3年11月。「右者当村田方江掛り申候用水并手松山御領黒田村境分鶴吉村泉迄之堀夫……」	井手堀人夫	1783	袋026 原本	29×42 1枚
1190	オボエミナミク	オ051	覚 南黒田村庄屋手控	黒田村	黒田	「1村高 貳百八石八斗八升六合 田畑 1用高 貳百拾貳石貳斗九升八合 田方 1……」。年代不明。		0	袋026 原本	18×195 1枚
1191	オボエイチノイ	オ052	覚 市之井手に懸る古樋浚方証文	新谷領麻生村		新谷領麻生村庄屋組頭分 1通、天明元年12月7日		1781	袋027 コピー	26×17 1枚
1188	オボエイチノイ	オ053	覚 市之井手に懸る古樋浚方証文	大洲領麻生村		天明元年12月7日		1781	袋027 コピー	26×53 26×73 2枚
1189	オボエイチノイ	オ054	覚 市之井手水利協定書	筒井他庄屋	筒井	筒井・保免・黒田・稲荷・大平・下唐川庄屋の署名で成り立つ、天明元年12月7日		1781	袋028 コピー	35×240 1枚
1186	オボエイチノイ	オ055	覚 市井出・小樋井出協定書	筒井村・麻生村	筒井	天明元年12月7日。市の井手筋上を通る小樋井手筋の寸法が細かく決められている見取り図がある。	水論、赤坂泉開鑿	1781	袋029 コピー	32×64 35×12 5 26×56 3枚
1178	オボエカワ	オ056	覚 江川筋へ新井出堀中止の願文	弥助・惣兵衛(百姓惣代)	新立	年代不明(亥の正月24日)北黒田江川筋へ新井出堀を中止するよう南黒田村へ出した要望書。	江川	0	袋030 原本	25×29 1枚
1117	オボエカキツ	オ057	覚 杜若泉	橘清安(井門村戸長)	井門村・ 中川原 村	年代不明。百姓惣代2名が役人と交わした覚え書きである。	杜若泉	0	袋009 コピー	21×62 1枚

ID	読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
1177	オヤコスゴロク	オ058	親子すごろく	松前町役場	全	双六でまわる文化財巡りとなっている。松前町役場から出発し、中央公民館があがりである。岡田地区は2カ所しか紹介されていない。松前地区が圧倒的に多い。	文化財巡り	1977	袋030 原本	39×61 1枚
1017	オリモノツウチ	オ059	織物通牒	赤星平次郎	筒井	右平次郎製、右傳次郎製として明治33年12月七日渡と記帳されている。表紙の受証人は田中米蔵で住所は石井村今在家である。		1900	袋032 コピー	12cm 25枚
1477	タイショウ	オ060	大正4年度委託農家稲作成績及越智郡稲作耕種標準	越智郡長	全県	模範農家の参考として作った、模範農家の心得		1916	パンフレット	18×12 88p 太田熊衛文庫
1519	オカダノク	オ061	愛媛県模範村岡田の薫風	小川薫水	岡田	袖山俊夫がコピーし製本、講話を行った。		1910	製本	15×8 119p
167	カイタツガッコ	カ001	開達学校	徳丸村	徳丸	明治8年2月27日、第62番開達小学校を本校に、生徒数50名、徳丸村から出された設立願である。		1875	コピー	26cm 4枚
166	カisinガツ	カ002	開進学校	中河原村	中河原	明治8年6月22日、従前の分校を本校に改める設立願。生徒数50人とよびしている。このとき人口は474人である。		1875	コピー	26cm 5枚
144	カイメイガツ	カ003	開明学校	出作村	出作	分校を本校にする小学校の設立願である。	小学校創立	1875	コピー	26cm 3枚
161	ガイセンシ	カ004	凱旋祝賀会経費収支簿	永田	永田	明治39年3月14日付けで寄付金が25円75銭である。	日露戦争	1906	コピー	16×36 15枚
285	カイメンキョギ	カ005	海面漁業基本調査	農林省	松前	農林省の第4次漁業センサスの集計した原簿である。但し調査の年度の記入はない。別の資料から類推する必要がある。	漁業センサス	0	原本	26cm 図表49
98	ガイライゴ	カ006	外来語	文化庁	町内外	国語教育上の諸問題など外来語の課題をまとめたパンフレットである。		1976	製本	21cm 90p
301	カエチゲンチュ	カ007	替地郡中資料 1		町外	享保4年の御替地村々井町方より他領出入致帳		1719	コピー	26×18 77枚
304	カエチゲンチュ	カ008	替地郡中資料 2	郡役所(郡中)		弘化5年、安政3年、安政4年の浦々触書。浦伝いに伝えられた幕府の浦触れで江戸へ向かった船の行方不明の問い合わせがある。		1857	コピー	26×18
303	カエチゲンチュ	カ009	替地郡中資料 3	郡役所		諸廻文外2件、鷲野藩太郎文書あり。明治5年の嘆願書「日傭い渡世できず」と生活苦の人々の名前多数をあげ、米の配布を願っている。		1867	コピー	26×18 71枚
199	カエチゲン	カ010	替地郡中資料4	郡役所		文化4年～文化6年、嘉永5年～万延元年の郡中諸用控。文化4年谷上山の住職が隠居するため庄屋を集めて会議している。伊予郡大洲藩側の村々より米百石を送っている。		1860	コピー	26cm
297	カエチゲンチュ	カ011	替地郡中資料 1	郡役所	町内外	明治2年郡より村々へ貸し付けた金額の記録、吾川村4百貫とある。	銀札貸借	1869	コピー	26cm
296	カエチセイサン	カ012	換地精算徴収交付人別帳	中川原耕地整理事務所	中川原	溜め池をのぞいた耕地整理後の記録		1911	コピー	26cm
450	カキョウニッシ	カ013	仮橋日誌	本多儀一郎	中川原	中川原橋仮橋の予算400円で設置する過程の記録。端を固定していた鎖が埋没しているとあり、鎖で橋の流失を防止していたことが分かる。	中川原橋	1921	原本	26cm 23枚
1224	ガクシキフホ	カ016	学資寄付褒状	愛媛県	筒井村	赤星伝六あて、赤星伝作あての愛媛県からの感謝状。2円50銭(北河原)と15円(筒井)を寄付している。	旭川学校、文華学校	1939	袋033 コピー	22×36 22×54 2枚
1226	ガクシキンノ	カ017	学資金之儀に付伺	三吉市郎平	東古泉村	明治11年12月9日、県令岩村高俊あての文書。総代三好市郎平の245円17銭5厘の学資金の伺。	墨水分校	1878	袋034 原本	27×41 1枚
1227	ガクムイイン	カ018	学務委員申付書	愛媛県	筒井村	明治14年～16年。赤星傳作への学務委員申付書、同赤星平次郎宛の文書。但し戸長如故と最後に記載される。		1883	袋035 コピー	19×26 4枚
146	ガクレイボ	カ020	学齢簿	神崎尋常小学校	神崎	学齢児童修学届けを神崎村外八か村戸長篠崎謙九郎へ出したものがある		1887	コピー	8枚
1005	オソレイリコウ	カ021	恐入口上書連判書	黒田村	黒田	明治6年3月発行、第19大区4小区伊予郡黒田村		1873	原本	25×17 4枚
1010	カシコイリコウ	カ022	恐入口上書連判書	南黒田村	南黒田	明治6年3月発行「…田畑入札1件につき…」、明治6年3月の連判書。		1873	袋052 原本	25×34 1枚
1203	カンダシヨキン	カ023	貸出・預金金利等の推移	大蔵省	全	昭和30年～51年間の金利、信託配当率及び公社債応募者利用の推移表。		1976	コピー	36×26 1枚
306	ガジンセンクシ	カ024	我人選句集	松田助五郎		夢雪・鉄肝の両吟歌仙、「朝日の巻」		1926	コピー	26×18
305	カセンソウラン	カ025	河川総覧各論	建設省中国四国地方建設局	町内外	重信川水系を中心に論じたもので、昭和31年10月発行。この中の図表は重信川を論じたものによく引用されている。昭和18年の水害時天気図がある。	重信川、昭和18年の水害	1956	ガリ版・コピー	26cm 80p
202	ガセン	カ026	画箋(版木)	狩野友元 筆				0		26cm 22枚
201	ガッコウイチラ	カ027	学校一覧表・年度末統計表	松前補修学校	松前	明治41年筒井農業補修学校創立。大正7年から昭和20年(松前青年学校)までの公式報告集である。どのような教育が行われていたのか推定できる。		1945	原本	28×19
163	ガッコウニ	カ030	学校日誌 昭和22年	松前中学校	松前	中学校創立期の松前中学校の日誌。中にはサウキビ5本盗難の記事もある。8月20日交通道義について進駐軍の警告を役場より受けている。		1947	原本	日誌として製本
198	ガツペイカ	カ031	合併関係書	松前町	全	松前町成立の関係書類。このときの町村合併補助金は1329000円である。新町建設の基本方針の最後に「…特に地下水の豊富な好条件を利用して工場の誘致と既設工場設備の増拡張のため一層努力を傾注する」とある。	地下水	1955	原本	27×20
308	カテイズイヒ	カ032	華亭隨筆 1 紀行文	村井俊明	全国	大瀬紀行で右手川を下るとき、遙かに高柳村の五松庵を望み「わが昔 すみし所にきて見れば 松もさすがに老いにけるかな」と…ある	五松庵	1916	コピー	110枚 26枚
145	カテイズイ	カ033	華亭隨筆(2)	村井俊明	全国	維新此大變に逢ひ、禄を失ひ、勉学もままならず、渡世の道にさまよった中で六〇才の今思い出したこと考えたことをまとめて書くことにしたとある。江戸のことも多い。	幕末の江戸	1916	コピー	26cm 156枚
147	カテイズイ	カ034	華亭隨筆(3)隨筆	村井俊明		「生後1.2年の小児を見るに親族と他人との区別なく誰にしても之をあやせば快く笑い盛に怒りて啼く時にも傍人手を拍って月を指し猶を教えれば忽ち其れに氣移り…」		1916	コピー	113枚
200	カトウケフ	カ035	加藤家譜			大洲加藤家家系図、寛政重修家譜抜粋		0	コピー	47枚
295	カトウケフ	カ036	加藤家譜 1			天文6年から宝暦12年までの記録		0	コピー	26cm 111枚
271	カトウケフ	カ037	加藤家譜 2		町外	自宝暦12年2月15日 至文化15年12月19日 伊予史談会が昭和4年6月装幀		0	コピー	26cm 104枚
162	カトウケフ	カ038	加藤家譜 3		町外	文政2年(1819)～明治2年(1869)までの記録である。		1869	コピー	26cm 113枚
302	カミウケナガン	カ041	上浮穴郡明神村外八か村久万凶荒豫備組合規程並沿革史(写)	西明神村、久万町村	町外	村々を久万山と表現している。		1885	コピー	26cm 11枚
282	カミタニカケ	カ042	上三谷掛合九田川口上書控	上野村百姓総代	町外	上三谷村と上野村の丸太川の洪水で村の境界が不明となり、境目を決定して欲しいという嘆願書。		1829	コピー	26cm 1冊
188	カヨウクシュウ	カ043	花葉句集	石黒花葉		遠望や雪の石榎はれやかに 水のなき重信川や秋深し 行水や有蟬いつか鳴き止みて 夕汐や厄日静けき浜とんぼ ホトトギスへの投句控、俳句手帳		1927	コピー	16×10 76枚
292	カヨウクシュウ	カ044	花葉句集	石黒花葉		水鳥にタかけ落とす並木かな 大山寺囀りの間より上り坂 蛙無く余土路に出でし夜汽車哉		1930	コピー	16×10 70枚

ID	読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
291	カヨウクシュウ	カ045	花葉句集	石黒花葉		俳句手帳2冊を合本したもので、句集に製作の年月日を記入 雲雀野や石手寺の塔見えて来し 脇川を上り下りや日傘船 囀りや行き来まれなる藪の道		1930	コピー	16×10 88枚
290	カヨウクシュウ	カ046	花葉句集 1	石黒花葉		俳句手帳4冊の合本		1929	コピー	18cm 140枚
289	カヨウクシュウ	カ047	花葉句集 2	石黒花葉		俳句手帳3冊の合本、句は製作年月日順に並べている。		1939	コピー	18cm 130枚
294	カヨウクシュウ	カ048	花葉句集 3	石黒花葉		手話15年8月から昭和17年5月までの俳句手帳4冊の合本		1942	コピー	18cm 100枚
293	カヨウクシュウ	カ049	花葉句集 4	石黒花葉		昭和18年6月から昭和37年までの俳句手帳4冊の合本		1962	コピー	18cm 90枚
148	カラニシキ	カ051	唐錦(1)	大高坂維佐		寛政庚申夏12月。女則九章は春の巻、夏の巻、中央の巻、秋の巻、冬の巻の五巻にまとめられている。		1800	コピー	26cm
151	カラニシキ	カ052	唐錦合本2	大高坂維佐				1800	コピー	26cm
150	カラニシキ	カ053	唐錦合本3	大高坂維佐				1800	コピー	26cm
283	カラニシキ	カ054	唐錦 4	大高坂維佐				1800	コピー	26cm
284	ワノエチヨウ	カ056	川之江町郷土史	川之江町	町外	寛政12年の作品 女の人への教訓集、学びのルール、服装や身だしなみをまとめ、読みやすくなるためひらがな交じりの文章となる。 明治末期県下の市町村で調査編集された和綴りの郷土史で、伊予史談会へ曾我鍛氏の寄贈したものである。 昭和49年9月24日から同年10月11日間に東レ事業場前面水域の流動、水質、底質、プランクトン、底棲生物、藻類(潜水調査) 海浜生物を調べた調査報告書である。理め立てると失われる砂丘の生物は無視されている。大谷川河口沖100から200mにアマモ、ムラサキイガイ		1911	コピー	23cm 117枚
286	カンキョウウチヨ	カ057	環境調査報告書	東レkk	全	人物図中心に編集、年代、著者名など不明。 発行年代は不明。		1974	コピー	26×36 150p
160	カンショエズ	カ058	漢書絵図		町外			0	原本	26cm 22枚
149	カンショナ	カ059	甘蔗並二製糖業	愛媛県	伊予郡・喜多郡	伊予郡農産物の産額がまとめられている。		0	コピー	26cm 6枚
195	カンジンコ	カ060	勸進口演	教安寺		寛政4年住職隆英の勸進。米を寄進した数量が示されている。		1792	コピー	26cm 38枚
451	ガンタツアンシ	カ061	願達案集	庄屋・寺院等		文化10年～天保2年		1831	コピー	26cm
280	カンチヨウコ	カ062	官庁告達	石鉄県西条出張所	町外	明治5年 壬申暦 朝庭御布告 の左下に石鉄県出張所西条とある。人相を記述した手配書もあり明治初期の混乱を垣間見る内容である。明治5年から明治12年		1872	コピー	26cm
1204	カンドリイズミ	カ063	神取泉絵図	橋本友直(浜村戸長)・篠崎謙九郎(神崎戸長)	浜・神崎	神取泉絵図について、流域総代が確認したもの。明治21年5月23日。八力村に分配した書類。赤、青、黄で彩色されている。最上流を大町井手と称し幅一間である。各部寸法を表示。	名子谷川	1888	袋038 コピー	34×190 1枚
164	カンザキム	カ065	神崎村社寺書類	高市豊茂	神崎	寛保2年から明治3年までの記録。晴光院・全正軒文書多数あり。人事、修築などの記録が残されている。	伊予神社、晴光院	1870	コピー	240枚 文庫目録はカ065
1160	カンザキシュツ	カ066	神崎出作鶴吉簡易水道設置規約	水上道組合	神崎・出作・鶴吉	塔組合から除名される場合は 1金銭支払いを怠り催促を受け1ヶ月以内に支払わないとき 2組合施設を変更利用その他の工事をしたとき 3給水を他人に分与したとき 4規約に違反したときである。	簡易水道	0	袋039原本	25×34 ガリ版1枚
281	カンザキエイキ	カ067	神崎永久書類綴	神崎区長	神崎	大正6年から昭和55年までの重要書類 水利誓書、共同金配分、東レ深井戸新設に対する松前町への陳情書などがある。	新泉の用地	1917	コピー	27cm
189	カンザキムラ	カ068	神崎村第一番耕地野取帳	神崎村戸長	神崎	三王、立石、庵浦、蔵元		1876	コピー	27cm
165	カンザキム	カ069	神崎村第二番耕地野取帳	神崎村戸長	神崎	小斎院、奥屋敷の野取図		1876	コピー	27cm 文庫目録はカ069
191	カンザキムラ	カ070	神崎村第三番耕地野取帳	神崎村戸長	神崎	道添、古屋敷、藪の鼻、向井、そぞの木、弁天のホノギが記載され、田の等級、持ち主、新反別、旧反別、その差が示され道や隣の耕地が示されている。		1876	コピー	27cm
190	カンザキム	カ071	神崎村第4番耕地野取帳	神崎村戸長	神崎	境勝、樋枝、栗田分、石橋、母路分、福德のホノギが示され、所有者、田の等級、新反別、旧反別とその差、道の長さ溝などが示されている野取図である。		1876	コピー	27cm
194	カンザキム	カ072	神崎村第5番耕地野取帳	神崎村戸長	神崎	字壺町地、字横田、字蛭子田、字山崎		1876	コピー	27cm
193	カンザキムラ	カ073	神崎村第六番耕地野取帳	神崎村戸長	神崎	桜木、紺屋分、豆尻		1876	コピー	27cm 文庫目録はカ074
196	カンザキム	カ073	神崎村第7番耕地野取帳	神崎村戸長	神崎	宮田、畦田		1876	コピー	27cm 文庫目録はカ075
192	カンザキムラ	カ074	神崎村第8番耕地野取帳	神崎村戸長	神崎	四反地、九反地、石手地、石の元		1876	コピー	27cm 文庫目録はカ076
197	カンザキム	カ075	神崎村第9番耕地野取図	神崎村戸長	神崎	大門、ウツ、五反地、上り水、安養寺、国木、実安		1876	コピー	27cm
273	カンザキコベツ	カ077	神崎戸別割徴収簿	神崎区長	神崎	大正3年、池内平太郎5円46銭から西岡繁次26銭まで戸別割字費が記載されている。	字費	1914	コピー	24cm 文庫目録はカ077
275	カンザキコスウ	カ078	神崎戸数割徴収簿	神崎区長	神崎	大正5年、池内平太郎2円90銭竹内千次15銭まで合計5円4銭の字費を集めている。		1916	コピー	24cm 文庫目録はカ079
274	カンザキコスウ	カ079	神崎戸数割徴収簿	神崎区長	神崎	池内平次郎5円30銭から西村房太郎20銭まで、合計85円80銭徴収している。		1923	コピー	24cm 文庫目録はカ080
270	カンザキコベツ	カ080	神崎戸別割徴収簿	神崎区長	神崎	大正12年、池内平太郎30円70銭から山下善次郎2円までの記録が残されている。	字費	1923	コピー	24cm 文庫目録はカ082
277	カンザキオオア	カ081	神崎大字費徴収簿	神崎区長	神崎	池内平太郎13円70銭から小原広太郎50銭まで合計132円40銭の字費を集めている。	字費	1912	コピー	24cm 文庫目録はカ083
276	カンザキオオア	カ082	神崎大字費徴収簿	神崎区長	神崎	大正元年、加藤久吉36円35銭から高石文次1銭まで合計1496円52銭5厘字費を集めている。	字費	1912	コピー	24cm 文庫目録はカ084
269	カンザキオオア	カ083	神崎大字費徴収簿	神崎区長	神崎	大正8年度徴収簿。加藤久吉38円95銭から野本カメヨ68銭まで字費の個人別金額である。	字費	1919	コピー	24cm 文庫目録はカ087
278	カンザキチソバ	カ084	神崎地租抜 大正8年	神崎区長	神崎	大正8年、加藤久吉23円86銭から水口説十郎50銭までの地租一覧表である。	地租	1919	コピー	24cm 文庫目録はカ085
272	カンザキゼンチ	カ085	神崎全地租抜	神崎区長	神崎	明治40年12月、加藤久吉30円23銭5厘から池内孝蔵20円87銭5厘まで個人別に地租がまとめられている。		1907	コピー	24cm 文庫目録はカ086
279	カンザキチソヌ	カ085	神崎地租抜 大正4年	神崎区長	神崎	大正4年、加藤久吉48円14銭から鶴吉分37円57銭5厘、計1247円49銭となる。このうち7円19銭5厘は大字韓崎と晴光院で持つ。チェックマーク3回を数える。 加藤久吉39円76銭から水口傳十郎1円56銭まで合計1253円89銭である。そのうち14円32銭は大字と晴光院が持つことになる。	地租	1915	コピー	24cm 文庫目録はカ086
154	カンザキチ	カ087	神崎地租抜 大正11年	神崎区長	神崎			1919	コピー	24cm
155	カンザキチ	カ088	神崎地租抜 大正11年	神崎区長	神崎	家老久吉40円2銭から西端和市89円まで合計2252円7銭である。		1922	コピー	24cm
1263	カンザキチソ	カ089	神崎地租抜 大正15年	神崎区長	神崎	池内金次郎6円69銭より西村寛次郎4円85銭、総計2251円44銭となる		1926	コピー	24cm
1159	カンザキヨウス	カ090	神崎揚水機設置図	神崎区長	神崎	年代不明汲み上げの高さ10mを越えていない。正面図、平面図、側面図で正しく表現し石油発動機による揚水である。		0	袋040 コピー	紙大
159	カンザキム	カ091	神崎村所々井出賦米泉賦米支出帳	神崎区長	神崎	鶴吉村新井手賦米、村所々賦米、新泉賦米、乃畔田上がり賦米、新泉上がり水、八兵衛井戸賦米、平四郎井戸賦米、6反地新井手賦米、豆尻新井手賦米、出作村へ渡す泉賦米などからなっている。	賦米	1885	コピー	24cm

ID	読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
156	カンザキキ	カ092	神崎規約第23号・同意書	神崎区長	神崎	水害復興工事規約並びに同意書		1952	コピー	26cm 10枚 文庫目録はカ094
157	カンザキキ	カ093	神崎勤儉貯蓄組合規約	神崎区長	神崎	規約22条からなり組合長は池内市太郎、107名の署名捺印し、第5条に10項目確守とある。8:芝居相撲その他興業を拒絶する9:集会時間の遅参せざること。	集合時間	1904	コピー	24cm 文庫目録はカ093
158	カンザキヤ	カ094	神崎役員当選簿 明治37年	神崎区長	神崎	明治37年池内市太郎、同38年小池藤三郎、同39年池内孝蔵区長のほか土木、評議員、差配方、寺社総代など役員一覧表である。		1904	コピー	24cm
153	カンザキケ	カ095	神崎決算帳 大正5年	神崎区長	神崎	433円63銭5厘中、土木費134円45銭2厘、水利費60円88銭5厘となる。総額の半額は水利土木費である。		1916	コピー	24cm 文庫目録はカ096
152	カンザキヒ	カ096	神崎肥料共同購入組合規約	神崎区長	神崎	83名の署名と捺印で成立している。麦作は7月25日稲作は12月25日に代金や利子の支払い期限になっている。		1926	コピー	24cm 26枚 文庫目録はカ096
307	カミウケナグン	カ097	上浮穴郡に光をかかげた人々	久万町教育委員会	町外	編集の委員長は小田慶孝、副委員長は金子佐々雄である。すでに死亡している人々の業績を編集した、県政100周年記念出版である。山之内仰西ほか多数紹介されている。	人物誌	1974	ガリ版・コピー	26×18
1253	カンバツヒガ	カ098	早魃被害一覧図		北伊予	昭和9年8月末調査した原因		1934	軸	150×154
187	カイカン	カ101	廻巻		北伊予	小春の部、頭巾の部、返り花、鴨の部、枯れ野の部などからなる文学作品		0		文庫目録に未登録
1391	カンカイシ	カ102	巻懐食鑑	牛山香月	全国	食者人之天也。穀類の造醸類など食べ物に関する事典である。明和3年9月発行。		1766	原本	和 18×10 211枚 太田熊衛文庫
1392	カイセイク	カ103	改正訓點 禮記 卷一		全国	文化9年。曲礼上第一、曲礼下第二、壇弓上第三、壇弓下第四、王制第五		1812	原本	和 18×12 83枚 太田熊衛文庫
1393	カイセイク	カ104	改正訓點 禮記 卷二		全国	月令第六、管子問第七、文王世子第八、禮運第九、禮器第十、郊特性第十一。内則第十二		1812	原本	和 18×12 87枚 太田熊衛文庫
1394	カイセイク	カ105	改正訓點 禮記 卷三		全国	玉藻第十三、明堂位第十四、口服小記第十五、大傳第十六、少儀第十七、学記第十八、楽記第十九、雜記上第二十、雜記下第二十一、口大記第二十二など		1812	原本	和 18×12 103枚 太田熊衛文庫
1395	カイセイク	カ106	改正訓點 禮記 卷四		全国	祭統第二十五～口服四制第四十九。嘉永元年再刻成		1848	原本	和 18×12 88枚 太田熊衛文庫
1511	カワニマナ	カ107	「川に学ぶ」シンポジウムinふじのくに '98	川に学ぶ研究会	全国	分科会、報告などシンポジウムの記録集である。		1988	製本	11×30 146p
1514	カワノミズ	カ108	川の水 第8号	河川環境管理財団	全国	河川をきれいにしよという呼びかけと共に各種団体の活動記録を編集		2005	製本	21×30 55p
1573	カイバラエ	カ109	貝原益軒 百話	河村定静 編	全国	貝原益軒の生い立ちから家系略図まで		1914	製本	18×12 183p
1581	カンブンシ	カ110	漢文新編 卷三	塩谷 温	全国	内編名家文鈔、外編十八史略鈔		1925	製本	22×15 186p 弘道館
1593	カンノンキ	カ111	観音経講話	渡辺海旭	全国	「法華経」28品中、そのだい25品目に相当するものが掲載される。		1933	製本	18×13 540p 京文社書店
30	キサيسان	キ001	起債参考書	松前町役場産業課	松前	東洋絹織KK誘致に伴う諸経費などをまとめている。各種補償金、岡田村への水利補償金、工場建設計画など。	工場誘致	1937	原本	28×20
31	キサIKAN	キ002	起債関係償還計画書	日本興業銀行広島支店	松前	工場誘致にともなう松前港の修築に伴う県費補助金225000円を助成されている。工事概要書もある。	松前港修築	1937	原本	28×20
32	キンアレチ	キ003	岸荒地別筆野取図	東古泉	東古泉 東古泉 東古泉	684番地字上又の地主は東古泉村となり、宅地で27歩ある。不定形で4分割してそれぞれの坪数を表示。	野取図	1887	原本	17×25 12p
33	ギジキロク	キ004	議事記録	松前村	松前	本会議、学務委員会の大正5年から14年までの議事録。大正14年10月2日では、コレラ蔓延とため予防注射、流行地への交通を避けることが協議されている。	コレラ	1916	原本	17×25 44枚
309	ギジヨルイ	キ005	議事書類	岡田村役場	岡田	明治30年～明治33年までの岡田村の議事書類である。西高柳より昌農内への役場の移転書類がある。		1900	原本	28×21
34	ギジヨル	キ006	議事書類綴(昌農内)	昌農内区長	昌農内	地区の評議員会記録など昭和11年から昭和13年までの記録。昌農内用水に対する決議、水源地の位置など東し進出頃の重要な決議が残されている。		1936	原本	20×27
35	キンジリヨ	キ007	岸地量入野取図面	東古泉村	東古泉	野取図面		1887	原本	25×17
36	キンジリヨ	キ008	岸地量入野取図	東古泉村	東古泉	野取図		1887	原本	17×25 20枚
37	ギジロクオオ	キ009	議事録及び決議録	岡田村	岡田	村議会の議事録(明治34年から明治37年まで)伝染病景況として恵久美、昌農内でそれぞれ1名発生の記録あり。	害虫駆除予防委員の任命	1901	原本	20×27 442p
38	ギシメイメ	キ010	義士銘々伝	泉岳寺	町外	人物評を安政7年に泉岳寺で売り出したものを、購入したもののコピー	赤穂義士	1860	コピー	18×26 41枚
39	ギシワジン	キ011	魏志倭人伝	上口伸助	町外	240～250年間の風物、国民の習慣、生活と国情と倭魏間の交渉がまとめられている。誤りも多く、此を正して読み解いたものである。		1972	コピー	18×26 66p
40	キソクキテ	キ012	規則規程綴	松前町役場	松前	廃止された村会議事細則(明治23年)から昭和10年の松前町諸給与規則まで、連続して改廃や新設が分かる。	松前青年学校学則、防空法に基く実費弁償支給規程	1905	原本	20×28
41	キタイヨジ	キ013	北伊予尋常高等小学校	県総務部	北伊予	北伊予尋常高等小学校設立を要望した稟請、修業年限 尋常科 4年 220人 高等科 4年 120人		1892	コピー	18×26 11枚
26	キタイヨシ	キ014	北伊予小学校移築改築工事仕様書	北伊予小学校建築請負者	北伊予	木造平屋教室改築 桁行36間、梁行5間 杏棟杏八拾坪 他に付属土間廊下庇 桁行36間 梁行1間など移築改築の記録。		1892	コピー	18×26
27	キタイヨショウ	キ016	北伊予消防組合活動状況(写真)	北伊予消防団	北伊予	北伊豫村第1口支部防毒室の写真が10葉あり、ガスマスクを手にする布陣集団が撮影されている。	防毒面	1943	写真	
28	キタイヨムラギ	キ017	北伊予村行政事務報告書	北伊予村役場	北伊予	害虫予防費とそて27円を害虫駆除予防委員9人に1年3円を報酬とする予算書。		1909	コピー	18×26 26枚
29	キタイヨムラキ	キ018	北伊予村郷土誌	北伊予村郷土誌編集委員	北伊予	松前、岡田の両郷土史と比較し、特に自然誌関係は充実し現在でも通用する豊富な内容である。生物関係の専門家が編集指導していると考えられる。	自然誌	1911	コピー	16×23 314p
42	キタイヨム	キ019	北伊予村講演材料	西園寺源透	北伊予	北伊予地区のホノギをまとめて表示しており、その話題を選んでメモしている。		1923	コピー	18×26 14枚
43	キタイヨムラゼ	キ020	北伊予村税歳出入予算報告書	北伊予村役場	北伊予	前年授業料140円40銭、本年度188円40銭、雑収入糞尿代3円30銭となり肥料として活用されている。		1890	原本	18×26
44	キタイヨムラン	キ021	北伊予村職員名簿	北伊予村役場	北伊予	昭和26年4月改の村職員、村議員、各委員の名簿、就職年月日と退職年月日がかかる。就職の最新記録は昭和37年9月18日となっている。	退職年月日	1951	原本	18×26
45	キタイヨム	キ022	北伊予村全村教育(第1集)	西村喜代一	北伊予	アンケートより村の生活課題を抽出し、教育課題としてとらえ直している。子どもに時々制裁を加えるは48%に達している。		0	原本	副有 17×25 249p ガリ版印刷
227	キタイヨムラチ	キ023	北伊予村地租村税等資料	北伊予村	北伊予	定率地租税、半期分村税、畑の面積、宅地面積、その他の土地、氏名に分け八束清頭から藤野善治まで表記されている。		0	コピー	26×18 35枚
228	キタイヨムラノ	キ024	北伊予村農業基本調査	北伊予村農会	北伊予	明治38年中川原に農業補習学校が設立されている。大正5年北伊予地区では男子174名女子22名がここで教育されている。このころの農業技術も詳しく記録されている。	農業補習学校	1916	原本	21×16 116p
229	キタイヨムラヨ	キ025	北伊予村予算書	北伊予村農会	北伊予	害虫予防費27円、害虫駆除奨励費150円である。螟虫買収なく75円の決算となっている。螟虫卵など採集に熱心でなかったものか。		1909	コピー	26×18 11枚
230	キタガワラシヨ	キ026	北川原商工会規約	北川原	北川原	北川原で商工業を営むものの堅実な取引、競争の悪弊を矯正し、親睦を図る目的と第3条に明記されている。	商工業	1898	コピー	26×18 14枚

ID 読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他	
231	キタガワラチヨ	キ028	北川原貯金名簿約定証書	北川原	忍那氏の貯金連名簿、村全体で集め552円貯金している。		1905	コピー	26×18 62枚	
288	キタガワラチ	キ029	北川原土地台帳	北川原	表題「北川原土地台帳」の左に小さく耕地整理後の旧畝帳帳下調書と記載されている。西開、南開、北ノ川原、原端などの地名があり南西への耕地拡大が目立っている。	耕地整理	1910	コピー	26cm 145枚	
1151	ギノウアラタメ	キ031	義農改書	全	義農と改められたいきさつ等がかかれている。明治30年代後半。旧松前尋常高等小学校教員、藤岡喜一郎が翁の行為を讃えた歌もある。	義農唱歌	1900	袋041 コピー	114×16 1枚	
1245	ギノウカイゾウ	キ032	義農絵像	おたた一同	代表(本村)吉田イセカ・増田ヨシカ・三好ツルエ、昭和10年		1935	軸	114×16 1枚	
1152	ギノウエハガキ	キ033	義農えはがき	義農会	全	3枚一組の絵はがき(白黒)、義農の墓、臨終の義農作兵衛、句碑と胸像からなる。昭和34年。	高浜虚子	袋042 原本	32部	
1255	ギノウカイカン	キ034	義農会関係書類	全	義農会会員名簿、義農会関係書類、義農神社新築工事日誌を合本1冊にしたものである。現義農神社の建築は昭和32年5月6日よりはじまる。	義農神社	1957	原本	26cm	
1149	ギノウカিশヨ	キ035	義農会書類	義農会	全	義農会設立趣意書、作兵衛の家族、作兵衛に関する記録、義農会会則など、大正2年。郡中への途中で松前駅がある、「此駅で汽車の窓から北方を眺めると水田三丁ほど隔てて田の中に大きな青々としている松の樹が一本あって其の下…」	義農会	1913	袋043 コピー	26×18 27枚
1150	ギノウサクベエ	キ037	義農作兵衛翁唱歌	藤岡喜一郎	全	明治30年後半、旧松前小学校教員(郡中の出身)の作詩。「愛媛の伊豫の松前なる筒井のさとはいまをさる百と六十余年前稲虫さわにはびこりてわせもおくてもみのりえず……げにたぐいなきいさおしや」	義農唱歌	1900	袋044 コピー	71×25 2通
1256	ギノウサクベエ	キ038	義農作兵衛・鍵谷カナ頭彰録	義農頭彰会	全	両名の業績は年を経るにつれ一地方のものとなる恐れがあると全国に趣意書を発送し、虚子、碧梧桐、忍那久吉他の詩歌多数編集されている。	義農頭彰会	1896	コピー	26×18
1147	ギノウサクベエ	キ039	義農作兵衛系図	筒井	原書は文政11年(1828)に焼失する。代々作兵衛を襲名している。著者不明。初代享保一七年六月十日餓死から始まり病死、餓死し一家全滅の惨情から記録されている。	家系図	1822	袋045 コピー	横大 3枚	
232	ギノウサクベエ	キ041	義農作兵衛伝	景浦勉	全	3冊あり。作兵衛が餓死する経緯、松山藩の救済策や救済事業をまとめた冊子	西岡家記	1959	原本	21×15 16p 袋046には22冊保存
1254	ギノウサクベエ	キ042	義農作兵衛傳	景浦勉	全	昭和16年9月20日、大政翼賛会愛媛支部の発行したものである。享保の大飢饉と松山藩の惨状、作兵衛の事跡とその顕彰事業をまとめている。		1941	製本	21cm 56p
233	ギノウサクベ	キ043	義農作兵衛伝記	向井国弘	全	義農会発行、13冊あり。序文に「……平易に正直に書かれてありますので教育の資料として最もよい読物ではないでしょうか……」と記す。	慶安御触書	1956		19×13 13p
1238	ギノウヒイン	キ044	義農碑陰文	丹波成美(撰文)	全	尾崎响斎(書)、安永6年4月下旬。性は義農、名は作兵衛と称す伊予の国松山府の筒井村の農夫なりと漢文で識されている。	義農作兵衛	1777	袋047 コピー	33×57 2枚
1250	ギノウサクベエ	キ045	義農作兵衛讃	品川弥次郎	全	明治18年1月7日松前町へ寄贈		1885	軸 原本	47×197
1247	ギノウノハカ	キ046	義農之墓(拓本)	全			0	軸	226×85	
1231	ギノウサクベエ	キ047	義農作兵衛翁顕彰計画要項	義農頭彰会	全	義農頭彰計画の経過が4項目にまとめられる。義農公園見取り図、義農作兵衛評伝がある。	慶安御触書	1956	袋079 コピー	26cm 10枚 昭和31年
234	キブネジシヤ	キ048	貴布彌神社資料	高市盛宗	北黒田 南黒田、 神崎、鶴 吉	神主高市盛房より、貴船さんの神社明細帳記入して欲しいことの申請書、ご神体10座、お面1個など。	貴船さん由緒	1897	コピー	26×18 13p
211	ギホウショウガ	キ049	義方小学校	三好久信	原本をコピーしたもので、相原賢の履歴がある。神崎と鶴吉の合併による義方学校と南黒田村の彩洋学校設立の伺いがある。		1876	コピー	26×18 10枚	
212	キミツケンメ	キ050	機密件名簿	松前町役場	松前	軍人遺族調査、親展書類、金券、身元調査などの出所を書き、町長、主任の印で処理している。軍事機密中心ではない様だ。	文書処理	1927	原本	26×20
298	ギミンクボタヒ	キ051	義民窪田兵右衛門	西園寺富水	町内外	墓標見取図、水論概略、大洲日記抜要などで構成され、最後に古樋一の井手附近見取り図があり闘争場所が×印で示されている。	水論	1920	コピー	26cm 40枚
299	キヤクキテイ	キ052	規約規程	南伊予村自彊会	町外	自彊会規約・二宮尊徳を模範とする。献穀規定：祈念祭、新嘗祭に種子を神社に献供、尚齒会：高齢者の福祉80歳以上、善行者表請規定など南伊予村全般にわたる規定や規約を全文集約、夜警は無料とするなどある。	村落の規約	1921	製本	19cm 54p
300	キヤクカンビ	キ053	客観美(禅仏)	洪茶会	全	南山、秋月、冬月、五道、山求、禅仏などの句からなる。雷や夏草茂貧之寺 五道		1908	コピー	18×25 26枚
213	キヤクシヨ	キ054	規約書(恵久美)	恵久美区長	恵久美	水廻れて高山に焚火する夜かな 秋月 用悪水路浚、蔭伐草刈り畦畔の修繕、冬季の枯れ草を焼き害虫を退治するなど当時の生活が現れている。和田鹿太郎以下64名の署名捺印で成り立っている。	水路浚え	1890	コピー	26×18 23枚
214	キョイクノア	キ056	教育のあゆみ	松前町教育委員会	全	学制発布百年記念式典の記念誌 学校の沿革と回顧録よりなる。昭和20年頃の貴重な体験を記録。	松山空襲、岡田 小学校の銃爆撃	1972	製本	26×18 42p 正副2部あり
207	キョウイクトブ	キ058	教育と文化	三宅千代二・越智二郎	愛媛県	松山市誌抜粋。学制頒布、教育令制定、学校令の公布までの実態がまとめられ市政・町村制の公布で村立小学校が設立されることになった。		0	コピー	21×15 40p
1239	キョウイクノマ	キ059	教育の町宣言文	松前町	全	行政施策の基本を教育におくことの宣言文、昭和39年3月19日。町制発足以来町民の献身的な努力によって、幾多の困難が克服され松前町今日の飛躍的發展が期待されるに……に始まる		1964	袋048 原本	32×96 1枚
208	キョウジョウノ	キ060	教場之義同書	大西和一郎・大西思明	昌農内、 神崎	伊予郡神崎村外八カ村連合会議長大西思明が小学校開設に伴う人数の増加を受け入れる余地無く、分教場として今まで通り使用したいという申請書。	分教場	1879	コピー	21×15 20枚
209	ギョウジキロ	キ061	行事記録	松前青年団	松前	昭和26年青年団の記録。社会教育推進懇談会の社会講座評価表あり。講演に対する参加者の評価が残されている。滋賀地方視察報告書もある。	社会教育	1951	原本	27×20
210	キョウシンジ	キ062	教深寺什宝記録	教深寺	大間	茶碗、鍋、かま、戸戸、障子、天王社大札、錫杖など教深寺に附属する備品など総て記載されている。		1888	コピー	26×18 5枚
203	キョウシンジ	キ063	教深寺什器・付属田畑建物類取り調帳	教深寺	大間	什器類と田畑合わせての財産目録で1町1反9畝26歩あり地価は688円68銭と査定されている。		1879	コピー	26×18 8枚
204	キョウシンジ	キ064	教深寺什物控記録	教深寺	大間	原本をコピーしている。御鏡一面を大政文左右衛門が寄贈している。その他仏用の備品一覧表がある。		1888	コピー	26×18
205	キョウシンジ	キ065	教深寺当山諸記録	教深寺	大間	幕末頃の教深寺の記録。上高、大間その他の村々の氏子が集まって正月に挨拶にきたとき、寒酒と煮豆で接待している。そのた各種行事が記録されている。	寺院の行事	1822	コピー	36×26 34枚
206	キョウシンジ	キ066	教深寺当山庫裏再建寄附帳	教深寺	大間	文化元年(1804)～明治12年(1879)までの記録。大間村、町方、上高柳村、恵久美村、富久村、古川村、横田村、中川原村等の住民が寄贈した分量と氏名を示す。		1879	コピー	42枚
235	キョウシンジ	キ067	教深寺文書	教深寺	大間	寛文13年、教深寺境内の天王社を大間村方の希望でご神体を移動、徳丸社との争いになり石手寺の住職が仲介した。等々歴史的な変遷を迎えることが出来る。	天王社	1868	コピー	36×26 32枚
215	ギョウセイジケ	キ068	行政事件訴訟及び行政不服審査関係法律	愛媛県教育委員会	町内外	行政事件訴訟法、行政事件訴訟法の施行に伴う関係法律の整理等に関する法律(抄)、行政不服審査法、行政不服審査法の施行に伴う関係法律の整理等に関する法律(抄)からなる。		1962	製本	25×17 42p
216	キョウドノアユ	キ071	郷土の歩み(岡田村版)	大政圭史	岡田	『このたび3ヶ町村合併によって今や忘却の途にある私達の郷土「岡田村」は近く数十年、遠くは数百年の昔より私達の先輩や祖先の手に……』とあり、沿革誌を残したいという情熱のなせる作品である。	模範村	1958	製本	22×15 58p
217	キョウドノヒト	キ072	郷土の人々	北伊予小学校	北伊予	相原賢、武市庫太、篠崎謙九郎のほか十六名の北伊予校区に関する偉人の伝記でそのひとつとなりを紹介している。	偉人伝	1960	コピー	26×18 30p

ID 読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他	
218	キョウホウノギ	キ074	享保の義農作兵衛	相原熊太郎	全	大隈重信の序、義農会長の前書きから始まる。作兵衛の伝記、年譜、義農分苑で構成。広く和歌、俳句、漢詩、漢文を収集、その中に忽那久吉、武市燾松、村井俊明ら松前町の関係者が含まれる。	1914	コピー	20×26 154p	
223	キョウホウノコ	キ075	享保の蝗害と義農作兵衛	景浦直孝	全	稚桃生識の後半はコピーなし、原本を見ること。後半の義農唱歌は「一番 松前の駅に程近き……ではじまり一番……残る姿や仰がれむ」と歌詞21番で構成されている。	サツマイモ、いも地蔵	1924	コピー	26×18 48p 伊豫史籍刊行会発行
1008	キョウユウチ	キ076	共有地貸金預り証(赤星新田)		筒井	中山村新田鉄次郎発行、明治27年9月、3部を合本としている。共有貸金資本預り証書入赤星新田とあり、金預証一金五拾円也と赤星平次郎あてた文書外あり。		1894	袋049 コピー	25×36 10枚
224	キョウユウチ	キ077	共有地特売無効上告棄却判決文	中村元嘉		大審院判事の判決文		1894	原本	26×18 16枚
225	キョクセンシヨ	キ078	旭川学校	北川原村	北川原	生徒授業料一人につき2銭5厘、一年1年10円50銭とある。70番小学区伊予郡北川原村元分枝を設立本校となすとある。	0	コピー	26×18 3枚	
226	ギョウケンシヨ	キ079	玉園小学校	西古泉戸長	西古泉	明治11年墨水分枝を本校とし玉園小学校にした記録。教師は高市嘉史で鷺野で習った履歴も記載	墨水分枝	1878	コピー	26×18 5枚
221	ギョセントウケ	キ080	漁船統計表	愛媛県	町内外	昭和51年松前町漁業組合では61隻20288トンの漁船がある。そのうち一本つりは21隻、底引き網29隻と記録されている。	漁船数	1976	製本	25×18 178p
222	ギンカ	キ081	銀花 第29号	今井田勲		小絵馬を各地に広く集めている。岩井宏実「祈りの記念物・小絵馬」がある。ここには民間信仰の特色現世に利益を得たいという本音、心情が読み取れるという。	絵馬	1977	製本	26×18 188p
287	キンセイジンゴ	キ082	近世塵劫記	新名重内	町外	数学・珠算など寺子屋で利用した教科書・吉田光由1627年の作品、江戸時代のベストセラー、多数の写本が作られた。その一つである。		1889	コピー	18×12 112枚
310	ギンマイウケハ	キ083	銀米請払帳(己未歳ヨリ)	鷺野梅三郎	町内外			1799	原本	15×42
1257	ギノウシヨウトク	キ084	義農頌徳集	安家重政	全	明治31年11月20日、伊予郡教育倶楽部発行。仙波蔵書印あり。鍵谷カナと義農作兵衛の碑文から始まる。		1898	コピー	26×18
220	マサキチョウト	キ085	松前町とその周辺の教材用植物目録	ERAS編集	全	松前町内の分布量の目安、生活形、初記録年月、教材としての視点でまとめた目録である。同定の責任者は平井屯。	メッシュマップ	1984	製本	26×18 128p
219	キョウドハイ	キ099	郷土と俳諧(久万町)	久万町教育委員会	町外	面河探勝団を結成、雷死久の面河探勝句録が四項目にわたり掲載されている。	森田雷死久	1975	製本	26×18 348p
1244	ギノウカイソウ	キ100	義農絵像	晴嵐	全	墨絵の義農作兵衛		0	軸	193×80
1240	ギノウジンジャ	キ102	義農神社神明軸	三条實美	全			0	軸	200×72・文庫目録に未登録
1341	キョウイク	キ103	教育文化講演会	愛教研文化部編集	全県	生涯学習時代における学校教育の役割と題した安原昇の講演記録がある。	生涯学習	1989	製本	18×13 380p 正本
1342	キョウイク	キ103	教育文化講演会	愛教研文化部編集	全県	省略		1989	製本	18×13 380p 副本
1343	キョウカ	キ104	炬火をかかげて 一県教組40年の歩み	愛媛県教組40周年記念誌編集委員会	全県	任命制地教委ち動評闘争、学力テスト反対闘争など歴史的激動に関係した教職員の重い手記である。		1986	製本	21×15 269p 愛媛県教職員組合
1351	キンコンダ	キ105	近古史談 後編完	大槻清崇	全国	三、四巻の合本。伊田の役 岡崎公幼聡達・有雄才。而愛将士。士皆感激……		1895	原本 綴じ	和 22×15 97枚 太田熊衛文庫
1364	キョウイク	キ106	改訂教育聖諭教本(全)	湯原元一 謹撰	全国	内編・勸語を三分割しそれぞれの語句を解説 外編・自己編・家庭・社会・国家編 伊予教員養成所で利用		1907	原本 綴じ	和 22×15 2冊 太田熊衛文庫
1458	キョウドウ	キ107	共同苗代の栞		全県	農事改良のネックは学理の指導を信頼しないこと、共同思想の不足の二点にあるという。		1911	製本	21×16 21p 越智郡役所第三課 太田熊衛文庫
1470	キンセイチ	キ108	近世中地理学 下巻 外国之部	松島 剛	全国	中等教育の教科書としてまたは参考書として利用されることを目標として著作		1893	製本	24×16 314p 太田熊衛文庫
1502	キョウカシ	キ109	狂歌書像作者部類(上)	六樹園大人撰	全国	古人の部、現在作者の部、文化年間発行		0	原本 綴じ	和 26×18 45枚
1503	キョウカシ	キ110	狂歌書像作者部類(下)	六樹園大人撰	全国	全2冊、文化年間発行		0	原本 綴じ	和 26×18 2冊88枚 角丸屋
1560	キョウテン	キ111	教典餘師(金忠録之部) 巻10	讃岐百年先生	全国	学問の道 天保年間		0	原本 綴じ	和 22×16
1589	キンコンダ	キ112	近古史談 巻三	大槻清崇	全国	徳川篇 伊田の役、石川八左衛門、鈴木久三郎など		1926	製本	21×15 35p 大阪書肆
339	グギンシュウ	ク001	愚吟集 1	忽那久吉	町内	著者10才で四書五経の素読を受け、15才で教育の道へ入った。以後独学で漢書に親しみ、漢詩創作に励んだ。八東南溪の指導を受ける。毛筆自筆の草稿で晩年の作に良詩が多い。		0	コピー	26×19 192枚
340	グギンシュウ	ク002	愚吟集 2	忽那久吉	町内			1935	コピー	26×19 162枚
338	グギンシュウ	ク003	愚吟集 1 2 3	忽那久吉	町内			0	コピー	26×19 108枚
335	グギンシュウ	ク004	愚吟集 4 5 6	忽那久吉	町内			0	コピー	26×19 88枚
336	グギンシュウ	ク005	愚吟集 7 8 9	忽那久吉	町内			0	コピー	26×19 100枚
333	グギンシュウ	ク006	愚吟集 10 11 12	忽那久吉	町内			0	コピー	26×19 90枚
334	グギンシュウ	ク007	愚吟集 13 14 15	忽那久吉	町内			0	コピー	26×19 92枚
331	グギンシュウ	ク008	愚吟集 16 17 18	忽那久吉	松前町			0	コピー	26×19 65枚
332	グギンシュウ	ク009	愚吟集 19 20	忽那久吉	町内			0	コピー	26×19 65枚
1035	クジノダイジ	ク010	九字の大事	野沢勝房		臨兵闘者皆陳烈在前の九漢字である。		1767	袋067 コピー	18×76 1枚 明和4年
329	クジャクノド	ク011	孔雀の喉	ハロルド・J・アイザクソン	町外	俳句を英文と和文で表示したもの		1974	コピー	23×19 50枚
330	クシュウ	ク012	句集	千蘿選	町内外	明治中期、恵比寿さんの夏祭り、四季発句の良作をを並べたもの。		0	コピー	21×28 21枚
327	クシュウ	ク013	句集	告水選	町内	明治中期、枯れススキ人にも会わず夕堤	俳句	0	コピー	21×26 28枚
328	クシュウ	ク014	句集	弄水選	町内	製作年代不明 未枯れや実らぬ花の二三輪 秋・冬の部、京都で作った俳句集に野間郡佐方村の詩を書き足している。	俳句	0	コピー	26×20 35枚
325	クシュウオイ	ク015	句集 逐波集	二宮波同選	町外	十五夜の月はおおかたくもりがち 釜に水さしたるや木の葉ふる	俳句	0	コピー	26×18 28枚
326	クシュウハナノ	ク016	句集 花の雲 上		町外	天保13年春、芭蕉翁の150回忌俳句集、全国の作品が集められている。 くわとめて竹の子のぞく垣根□□		1742	コピー	26×18 36枚
323	クシュウメビキ	ク017	句集 目引大師奉納	野沢梅応選	町内外	庭園ふ芝垣低し萩の花 履きものの数より多し□□家		0	コピー	26×18 27枚
324	クシュウタガミ	ク018	句集谷上山奉納	桂適舎千蘿選	町内外	明治後期		1906	コピー	45枚

ID	読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
321	クシュウナミ	ク019	句集「波間の涼風」			其然60歳賀集、明治31年と明治36年の2冊合本。白髪ほど雪を残して笑う山 葉萩や雨聞朝の起き心等	俳句集	1903	コピー	
322	クシュウミコ	ク020	句集「みこし」	名山選	町外	製作年代不明。連なるや早瀬を昇る鯉の群れ他	俳句集	0	コピー	26×36
320	クスダシヨウガ	ク022	楠田小学校	横田村戸長	横田	設立願いに180円20銭が学校経費として計上されている。このうち教員報酬は年84円となっている。教場の見取り図あり。	旭川小学校	1879	コピー	26×19 20枚
1007	クンチガワエズ	ク023	国近川絵図		筒井	紙質は薄い。彩色絵図。溝が淵と塩屋橋までの図、千石橋、塩屋橋の位置が示され筒井側左岸の堤防が広い。川の蛇行により中州が左右交互に生じていることまで読み取れる	国近川、千石橋	0	袋050 原本	24×145 1枚
319	クボクリンタン	ク026	久保句林短冊集	久保句林		慈悲心鳥啼いて訣れのかなしきに 梅を干す真上の星の美しさ 等短冊に書いたものをコピーしている。	虚子、子規	1967	コピー	36×26 41枚 昭和初期から昭和42年まで
317	クミンメイボ	ク029	組員名簿	北伊予警防団	北伊予	2冊合本、北伊予警防団第4分団の団員の職業、住所、発令年月日など昭和20年までまとめたもの、昭和9年から昭和10年の水防警備出動者名図書烏合時刻、解散時刻の合本。	水防警備	1945	原本	26×18 記録は 昭和20年に近づくと 乱れ雑となる。
318	クロズミキョウ	ク031	黒住教松前教会規則	黒住教本部	町内	第5条に本教会は肇国の大精神を奉体し、説教、講演などで布教し、皇恩奉仕するとある。定時布教は7、17、27日である。	肇国の大精神	1942	コピー	26×18 7枚
315	クロズミキョウ	ク032	黒住教伊豫教会規則	黒住教会本部	町外			1942	コピー	26×18 13枚
1123	クロダムラショ	ク033	黒田村庄屋家督売券状	売主 六郎左衛門(黒田村庄屋)	黒田村	永代ニ売渡申家督之事 組頭、五人組、支配人連判 元文3年7月25日		1738	袋051 コピー	紙 一枚
1009	クロダムラソウ	ク034	黒田村惣百姓へ申聞覚	奉行書	黒田村	酉12日「当春大谷川筋大洲方分御普請取計之議ニ付百姓共存念ニ不相叶領境江罷越、村方及騒動候段・・・」年代(明和2年か安永6年)。	堤防建設騒動	0	袋052 原本	1枚
1012	クロダムラヘモ	ク035	黒田村へ申渡書付		黒田村	黒田村と大南村が御替地となり「・・・今後は大洲方御下知厚可相守候・・・」黒田村が大洲領となったことを知らせる文書、2部ある。	御替地	1781	袋052 原本	28×60・33×10 4 2枚
316	クロダムラゴデ	ク036	黒田村御田地坪水帳	黒田村	黒田	伊予郡黒田村の土地台帳。安永3年正月に発行。田40町畑2町8反。畑は5反で残りは屋敷である。	地坪	1774	コピー	36×26 106枚 文庫目録はク040 26×19 51枚 文庫目録はク037
313	グンチュウタク	ク038	郡中たくはえ治草史	伊豫郡長	町外	旧大洲藩が備荒の制を試みたるは実に寛政5丑年にして、今を距る一百有余年の前にあり・・・と始まり最後のページには学資賞興規程がある。		1910	コピー	26×19 17枚 文庫目録はク038
314	グンチュウトミ	ク039	郡中富礼記		町外	伊豫史談会が昭和5年にコピーした江戸末期の富礼の当選札、25番は8両、3両のあたりは215枚等とあり当選札の一覧表。	富礼	0	コピー	26×19 文庫目 録はク039 文庫目録は未登録
311	グンチュウノウ	ク040	郡中納税手数料人名簿	南黒田区長		土地台帳、収支申継書、手数料人名簿など4冊を合本。昭和25年から昭和32年までの記録。		1957	原本	26×19 文庫目 録はク039
312	クンレイゲツボ	ク041	訓令月報 第1号		町外	廣道館発行の行政・司法集		1884	コピー	文庫目録は未登録
553	ケイエイガッコ	ケ001	恵永学校	恵久美村、永田村	恵久美、 永田	永田村と恵久美村の墨水分校を合併し恵永学校とする願いと西高柳村の重信学校を文明学校に合併する願い書である。	文明学校、恵永 学校	1878	コピー	26×18 9枚
1121	ケイカズ	ケ002	鶏花図 布	平安雲雅		制作年代不明 1幅のもの		0	袋053 原本	34×82 1幅
554	ケイハンハイジ	ケ003	畦畔廢除野取図面	東古泉村	東古泉	明治11年発行。15番字町地の地主三好貞次の野取り図から始まる。三角測量の図面は墨がきで鮮明に残っている。次は早瀬路太郎野の取り図である。	野取り図	1878	原本	25×17 12枚
551	ケイヤクショウ	ケ004	契約証証(電灯敷設)	大西源太郎	昌農内	大正9年7月15日の契約書。電灯敷地は無料提供、電気建設上の障害物除去に苦情はさむべからず、電柱1本に三燈とし不足する場合は点燈者不足金支払いなど。こうして昌農内に電灯がついた。		1920	原本	26cm 7枚
552	ゲキリュウニイ	ケ005	激流に生きた人々	愛媛新聞社	町内外	新聞の切り抜き、昭和43年1月9日～昭和43年12月27日まで。北伊予村村上思明と東レ工場誘致の武智雅一の伝記が、満田泰三の筆でまとめられている。		1968	コピー	26×18 170枚
1122	ケンカダイカン	ケ006	県下大干魃記	遠藤良貞	町内外・ 徳丸	地下水を求め泉を掘り、または汲み上げ発動機とポンプで地下水をくみ上げた経費14342円とある。8月県の報告は1000町以上作付け不良とある。9月20日の台風で満水。	大干魃・発動機 とポンプ	1934	袋054 コピー	25×390 1枚 昭和九年
549	ゲイシュウカモ	ケ008	芸州賀茂郡長浜浦他3郡痛船流着記録	筒井村	筒井	文政13年11月、筒井西の浜へ漂着した難波船の記録、小皿、おおよ、帆、銭など積み荷の詳細な記録。庄屋又太郎より連絡の文書	難波船	1830	コピー	37×26 文庫目 録に未登録
1249	ケイオウネカ	ケ009	慶応年間筒井住宅案内	栗田辨蔵	筒井	昭和23年8月栗田氏昔を思い出して描く、昭和61年赤星雅夫再コピーしたもの		1986	コピー	
1375	ケイテンヨ	ケ010	經典餘師 論語巻1		全国	論語朱口集註 学而第一とある。年代不明。		0	原本 綴じ	和 23×16 41枚 太田熊衛文庫
1376	ケイテンヨ	ケ011	經典餘師 論語巻二		全国	論語朱熹集解		0	原本 綴じ	和 23×16 52枚 太田熊衛文庫
1377	ケイテンヨ	ケ012	經典餘師 論語巻3		全国	論語朱熹集註		0	原本 綴じ	和 23×16 52枚 太田熊衛文庫
1378	ケイテン	ケ013	經典餘師 論語4		全国	衛霊公第15		0	原本	和 23×16 48枚 太田熊衛文庫
1379	ケイテンヨ	ケ014	經典餘師 孟子巻1		全国	梁惠王章句 上		0	原本 綴じ	和 23×16 40枚 太田熊衛文庫
1380	ケイテンヨ	ケ015	經典餘師 孟子巻2		全国	八孫丑章句 上		0	原本 綴じ	和 23×16 78枚 太田熊衛文庫
1381	ケイテン	ケ016	經典餘師 孟子巻2		全国	離婁章句 上		0	原本 綴じ	和 23×16 75枚
1382	ケイテンヨ	ケ017	經典餘師 孟子巻4		全国	告子章句 上		0	原本 綴じ	和 23×16 82枚 太田熊衛文庫
1383	ケイテンヨ	ケ018	經典餘師 中庸		全国	子 程子の曰く偏 天明年		1881	原本 綴じ	和 23×15 35枚 太田熊衛文庫
1432	ゲンロクタ	ケ019	元禄太平記 初編	緑亭川柳	全国	足利家繁栄并義植公河内発向、正覚寺合戦畠山政長討死、義植公北国へ落ちる・・・義植が帰りを將軍昇任まで		1852	原本 綴じ	和 18×12 太田熊 衛文庫
550	コウレイトリシ	コ001	講令取締規則	一戸二郎	愛媛県	昭和九年八月二一日付けの講令取締規則である。講令とは、一定の口数と給付すべき金額又は有価物を定め定期に金品を贈出せしめ、一口ごとに抽選入札などで金銭の給付をなすもので、各地で何々講として行われていた。	出雲講、〇〇講	1934	コピー	26×18
1120	コウコククン	コ002	広告国近川堤防上置工事入札心得	筒井区長	筒井	制作年代不明。松山街道から塩屋街道まで左岸の設計書と図面がある。材料は堀取った上質粘土を利用し塩害のないようにするとある。最後に入札金額同じ場合は、先に入札した者に落札とある。	国近川	0	袋055 原本	25×100 1枚
547	コウシャカイチ	コ003	校舎改築関係書類	松前町役場	松前	松前尋常高等小学校改築工事費決算書によれば32154円で、普通教室300坪、職員室24坪廊下24坪他を改築している。		1930	原本	25×18
548	コウジョウカン	コ004	工場関係書類綴	松前町	全	工場誘致に伴う関係文書一式を保存している。電報のやりとり、工場敷地の地番、地名、地主名と段別一覧表、今出漁業組合長、郡中漁業組合長の海域汚染を危惧する文書など重要書類がある。	工場誘致	1935	原本	25×18

ID 読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
545	コウジョウユチ	工場誘致問題史料編	松前町役場	全	人絹工場設立予定地区地番及段別地主氏名表、昭和11年に作成。補償金支払いの基本台帳である。	工場誘致	1936	原本	25×17
546	コウジョウカン	工場関係重要書類	松前町役場	全	買収の同意書である。田60円、畑50円、麦作29円、タマネギ77円34銭、馬鈴薯43円50銭など具体的な価格が提示されている。	工場用地買収	1937	原本	25×18
543	コウジョウユ	工場敷地地主名寄帳	松前町役場	松前	工場敷地の地主名一覧表である。地主に大智院、宇川床1624田とあり、蛭子神社、宇川床21番地畑とある。	工場誘致	1938	原本	25×17
544	コウジョウカン	工場関係参考調査	松前町役場	松前	各府県よりの参考資料、工場誘致にともなう戸数増加、税収、など各地の工場を有する市町村からの報告がある。	工場誘致	1937	原本	27×20
1173	コウジョウオオ	口上 大谷川浚の件	彦八ら(南黒田庄屋)	南黒田	新谷領黒田村組長庄屋等が松山領黒田村庄屋に送った大谷川浚への口上書。	大谷川	1744	袋056 原本	3通 延享元年7月
1172	コウジョウオオ	口上 大谷川井出の件	新谷領黒田村組頭	黒田村	新谷領黒田村から松山領黒田村への延享2年2月の口上書。當村用水井手近年砂大分流込、度々堀方難儀仕候、其上大勢人足……		1745	袋057 原本	28×70 1枚
1168	コウジョウ	口上(中川原村・井門村)		中川原・井門村	横井出養水に関わる井門村組頭3名と庄屋が中川原村へ送った口上書と中川原村から井門村へ送った口上書2通		0	袋058 コピー	26×76 26×80 2枚
1176	コウジョウ	口上	黒田村組頭	黒田	延享元年7月、新谷領黒田村組頭2名と庄屋喜八から松山領、黒田村御庄屋喜三組頭2名への口上書。大谷側川浚えにかんするもの。	大谷川	1744	袋030 原本	1枚
1116	コウジョウカ	口上 杜若泉	清蔵(中川原村庄屋)	中川原	元文3年2月7日		1738	袋009 コピー	26×135 1枚
542	コウセイトウキ	厚生等級取調書	東古泉村	東古泉	田を13等、畑5等、農外畑に区分しそれぞれに1, 2, 3, 等級をつけ地価を計算した者である。49町4反8畝9歩で地租は32362円77銭7厘と計算されている。	地租	1889	原本	25×18 38枚
540	コウチセイリジ	耕地整理事業報告	中川原	中川原	大正6年5月17日委員本多儀一郎の事業報告書である。第一耕区の排水困難は伏流水のため、第3耕区第5耕区の尻無は一雨事に浸水する東は勾配が大きく、南隣の境界は複雑で工事は困難を極めた。	耕地整理	1917	原本	26cm 7枚 正本
541	コウチセイリジ	耕地整理事業報告	中川原	中川原	大正6年5月17日		1917	コピー	29×21 7枚 副本
537	コイチセイリニ	耕地整理日誌簿	中川原区長	中川原	明治39年9月5日～明治39年10月31日の間の天気と三角測量、水準測量、技距測量、雨天時の三角計算などの実施状態を記録している。	耕地整理	1906	原本	27×19 10枚 正本
539	コウチセイリニ	耕地整理に関する調査	東古泉区長	東古泉	明治45年3月。水源地名、灌漑河川、灌漑小字、灌漑面積があり、平年における過不足をまとめ、配水人夫による排水状況をまとめている。	耕地整理	1912	原本	25×17
535	コウチセイリフ	耕地整理賦課徴収簿	南黒田区長	南黒田	南伊予村外三ヶ村の耕地整理組合、昭和19年～昭和24年		1949	原本	28×21 40枚
536	コウチセイリシ	耕地整理関係書類	岡田村役場	昌農内	明治40年頃。設計書、工事仕様書、溝幅、道幅などを具体的に記載している。	耕地整理・昌農内耕地整理議事録	1907	原本	27×21
533	コウチセイリシ	耕地整理書類	岡田村役場	岡田	明治41年、42年、43年の書類		1910	原本	27×20
534	コウノケフ	河野家譜			寛政重修家譜 抜粋		0	コピー	26×18 37枚
531	コウノケイズ	河野系図(金蓮寺本)			作者年代不明、菊間町加茂神社蔵本写。金蓮寺にあった系図を伊豫史談会が写したもの。		1942	コピー	26×19
1169	コウノミチナオ	河野通直下知状	河野通直		天文5年3月18日、垣生宮内小輔あて。		1740	袋059 コピー	30×43 1枚
1170	コウノミチナオ	河野通直下知状	河野通直		年代不明、三吉長門守あて		0	袋059 1枚	16×78 1枚
1171	コウノミチナオ	河野通直感状	河野通直		年代不明、土居式部大輔あて		0	袋059 コピー	17×42 1枚
1166	コウノミチユキ	河野通行知行状	河野通行		寄進伊豫安国寺 同国餘戸庄井吉原郷地頭職松崎濱木事…とある。		1397	袋060 コピー	26×36 1枚 応永4年10月18日
532	コウフシデンナ	孔夫子伝並従祀者略伝	愛媛孔夫子祭典会		孔子卒後2400年にあたり、松山高等学校講堂で孔子追遠の祭典を実施、儒教に関係する県下の先哲を永遠に偲ぶ記録。		1922	コピー	26×19 105枚
1018	コウワンカセン	港湾河川調査		全	作者、年代不明。松前港、国近川、大井手川のようすをまとめる。国近川は明治17年の津波で被害を受けている。また、元大字筒井の東部を経て、大字濱の湾内に注流とある。	国近川	0	袋061 コピー	25cm 8枚
529	グンシンデンジ	郡新田定米奉願口上	武市為之進	永田	永田村庄屋が文政10年12月発行。一枚14部分に分割コピー		1822	コピー	36×26 1枚
530	コクセイテウ	国勢調査報告 第7巻	総理府統計局	全県	都道府県綴りの38「愛媛県」、昭和28年8月23日発行、昭和25年の調査。連合国軍総司令部の勧奨による1950年世界センサスの一環として実施。	世界センサス	1953	製本	26×18 262p
1015	ゴクミトリタテ	伍組取建規約	伊予郡租税課	町内外	年代不明。8項目をあげ、末尾に未五月伊豫郡租税課と記入されている。	取建	0	袋062 コピー	33×150 1枚
527	ゴコウリョウゴ	御公領御巡見使御通行手当			御巡検使が高浜に上陸各地を視察し、巡検に必要な用具の準備状況が分かる。	巡検使	1761	コピー	26×18
528	コサクリョウノ	小作料・農作物報償調	松前町	松前	旧松前町の字名。地番、地目、反別、種類、報償料、摘要を地主と作人に分けて示す。地主石丸コメ作人石丸栄次郎から地主三好初美作人中村房太郎、小村京太郎まで記載。作付けは麦、玉葱、馬鈴薯、豆、ゲンゲである。		0	原本	24×17 16枚
525	ゴジョウネフ	五十年譜	伊予鉄道電気KK	町外	昭和11年12月岡田尋常高等小学校の備品となった書籍。大正14年東雲神社より道後ランドヘラジオの実験放送をしている。	ラジオ実験放送	1936	コピー	副本
526	ゴジョウギンシ	古城吟社巻		筒井	作者・年代不明、筒井俳句会。松の月、冬の月、臘月、明月、月の雲、庭の月など月を詠う158句からなる句集。	筒井俳句会	0	コピー	18×26 26枚
523	ゴシンエイタイ	御真影奉載式	天草種康		明治26年11月22日、町内小学校御真影奉載式報告	御真影	1893	コピー	26cm 7枚
1016	ゴタリョウヲチヨ	御他領地より1札の件	浜村・黒田村庄屋	浜・黒田	大谷川浚にともなう浜村庄屋から南黒田庄屋あての大谷川分水協定書 天明4年2月15日の日付がある。		1784	袋063 コピー	28×95 1枚
1014	コチョウニンメ	戸長任免書	愛媛県	浜村	愛媛県から赤星平次郎、赤星傳作への戸長任免書、明治12年～明治16年。濱村外三カ村用係申符庚事 自今月俸金六円宛給與修事とある。		1883	袋064 コピー	8通
524	ゴトウモリエタ	後藤守衛短冊	後藤守衛(海雲寺)		短冊の34句をコピーしたもの		0	コピー	36×26 11枚
521	コトバニカンス	言葉に関する問答集(2)	文化庁	全国	漢字の音訓、使い分けに関連して日常よく使用される文字を解説している。例えば依存、越年、割賦、感応、口腔、消耗、相談など30例あげている。		1976	製本	21×15 85p
1106	ゴニングミキヤ	五人組規約	鷲野路太郎		「人のする事我等もせんと、古人義倉之意を汲みて、五人之者年に六度合会し、月は半月、日は初五を定日と成、会の毎度定の銀数合出し、歳を……」		0	袋015 コピー	21×40 一枚 発行年不明
522	ゴビョウテイセ	誤謬訂正野取図	東古泉村	東古泉			1887	原本	25×18
519	コマツユウシ	小松邑誌 上編(1)(2)	近藤範序	町外	伊予史談会所有のものをコピー 1 小松町之部 2 新屋敷之部		1860	コピー	26×19
520	コマツユウシ	小松邑誌 上編(3)(4)		町外	3 南川 北川 吉田之部 4 周布、大頭、妙口、大江、千足の部		0	コピー	

ID	読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
518	コマツユウシ	コ052	小松邑誌 上編(5)(6)		町外	5 北条之部 6 広江、今在家、新居郡4村の部		0	コピー	
713	コマツソウシ	コ053	小松邑誌下編(元) 1					0	コピー	26×19
714	コマツソウシ	コ054	小松邑誌下編(享) 2, 3					0	コピー	26×19
711	コマツソウシ	コ055	小松邑誌 下編(利) 4, 5					0	コピー	26×19
712	コマツソウシ	コ056	小松邑誌下編(貞) 6, 7					0	コピー	26×19
709	コマツソウシ	コ057	小松邑誌 下編 8		町外			0	コピー	26×19
710	コマツソウシ	コ058	小松邑誌 附録					0	コピー	26×19
707	コメカシツケンシ	コ059	米貸付諸控・米預元控	共栄社		明治21年、明治22年		1889	原本	25×18 6枚
708	コヨミタイショ	コ060	暦対照表	松山気象台		日本、中国、回教暦対照表。501年から1900年までの西暦→和暦、和暦→西暦に変換する表である。		0	コピー	26×18 15枚
1034	コンバクデンケ	コ062	魂魄伝系譜	野沢象水		天明4年		1784	袋067 コピー	24×200 1枚
1013	コンレンジマエ	コ063	金蓮寺前石橋より下青石まで工事入札の心得	筒井区長	筒井	筒井村の用水路を分割し、号数で表示する。ホノギもある。年代不明。追記として第9号より第44号までである。九号は「一 金蓮寺前石橋より下青石迄両側」とある。		0	袋065 原本	24×200 1枚
705	コンレンジシ	コ064	金蓮寺史	金蓮寺	西古泉	明治43年から由緒並びに現代寺歴史として昭和19年まで記載がある。昭和18年の水害、本流は東、東北より流れてくる。水位低下は夫婦橋の決壊によると記している。	昭和18年水害	1910	原本	26×19 38枚
706	ゴジュンケンシ	コ065	御巡見使御通行に付諸手当覚		町内外	寛政元年。県内各村の巡見使への接待がまとめられている。東予から始まり今治、菊間、松山、温泉、久米、松前へと移動している。想定問答集。	巡検使	1789	コピー	18×26 文庫目録に未登録
703	ゴジュンケンシ	コ066	御巡見使御通行諸手当覚	伊予郡		天保9年		1838	コピー	13×19 文庫目録に未登録
704	ゴウウニッキ	コ067	御用日記	大政嘉三郎衛門	中川原	文久2年。高忍日売祭礼の御輿守の頭取決定、救米の要請、火事で四軒焼失など村内の出来事をまとめたもの		1862	コピー	文庫目録に未登録
1340	コウエント	コ068	講演と郷土の紹介	愛教研文化部	全県	宮脇昭の「人間と環境」がある。これは環境教育の基本理念である。	照葉樹林文化	1990	製本	18×13 342p
1372	コクシリヤ	コ069	国史略字解 上	堀川政二郎	全国	神代より朱雀天皇(寛明)まで		1878	原本 綴じ	和 18×12 四九枚 太田熊衛文庫
1431	コウロクワ	コ070	紅鹿和歌集 類題(上)		全国	春部歌の上段に、年内立春、元日立春、元日宴、早春、都早秋、早春川と並べ歌の下段に作者を記録、最後の上段は除夜となる。		0	原本 綴じ	和 18×12 太田熊衛文庫
1435	コクシリヤ	コ071	国史略字解 下	堀川政二郎	全国	村上天皇、冷泉天皇……後醍醐天皇まで、語句の意味と読み方を編集		1878	原本 綴じ	和 18×13 50枚 太田熊衛文庫
1439	コクシリヤ	コ072	訂正 国史略 1	音博士岩垣先生編	全国	神代ヨリ持続天皇迄記載。文政10年 五車樓梓発行		1827	原本 綴じ	和 18×13 94p 太田熊衛文庫
1440	コクシリヤ	コ073	訂正 国史略 2	音博士岩垣先生編	全国	文武天皇より花山天皇まで記載。文政10年 五車樓梓発行		1827	原本 綴じ	和 18×13 91p 太田熊衛文庫
1441	コクシリヤ	コ074	訂正 国史略 3	音博士岩垣先生編	全国	一条天皇より順徳天皇まで記載。文政10年 五車樓梓発行		1827	原本 綴じ	和 18×13 97p 太田熊衛文庫
1442	コクシリヤ	コ075	訂正 国史略 4	音博士岩垣先生編	全国	後堀河天皇より後奈良天皇まで 文政10年 五車樓梓発行		1827	原本 綴じ	和 18×13 114p 太田熊衛文庫
1443	コクシリヤ	コ076	訂正 国史略 5	音博士岩垣先生編	全国	正親町天皇より後醍醐天皇まで記載。文政10年 五車樓梓発行		1827	原本 綴じ	和 18×13 82p 太田熊衛文庫
1462	メイジカイ	コ077	明治改正 小うたの玉音集	茂木梅溪	全国	能舞台の図をはじめとする図解事典であり、能面図のスケッチと台詞をまとめる	謡曲	1895	原本 綴じ	和 18×13 77p 江島伊平衛発行 太田熊衛文庫
1467	コクミンタ	コ078	国民体育講習会記念誌 第1回			我が国民の健康状態が日に月に低下し殊に呼吸器病と消化器病とが其の二大原因であるということは……		1921	製本	16×24 25枚 太田熊衛文庫
1474	シハンガツ	コ079	師範学校 国文教科書 巻1	吉田弥平	全国	師範学校第一部本科の国語科購読用教科書として編纂されている。		1912	原本	23×15 186p 太田熊衛文庫
1475	シハンガツ	コ080	師範学校 国文教科書 巻2	吉田弥平	全国	秋の夜……幸田露伴より教師と常識まで記載されている。		1912	原本	23×15 180p 太田熊衛文庫
1540	コウトウシ	コ081	高等小学読本 八	文部省	全国	第1課 阿閉掃部と青木方齋 第2課 近松門左衛門 その他話題の最後はエッキス線。	電信機、発電機、電話、電車	0	製本	21×15 104p
1541	コウトウシ	コ082	高等小学読本 巻2	文部省	全国	農業、堀田瑞松(我はかつて人に師事せしことなし、我が師は即ち自然なり。……)月の光など	奉天会戦、クロバトキン	1928	製本	22×15 137p
1544	コウトウド	コ083	高等読本 巻5	文部省	全国	ご巡幸1と2、太平の楽などあり最後は元禄16年の大地震などの読み物から構成されている。	新井白石、平賀源内	1894	製本	22×15 62枚
1559	コブンシン	コ084	古文眞宝後集 巻之1			巻1～巻10まであり。辞類には秋風辞 漢武帝 漁夫辞 屈平、帰去来辞 陶淵明の三編がある		0	製本 綴じ	和 27×19 55枚
1585	コウシタン	コ085	孔子譚	吉岡藤吉	全国	孔子夫の事蹟を描いている。横山大観の挿絵がある。	横山大観	1908	製本 綴じ	和 22×15 138p
1592	コクゴヒョ	コ086	国語表記・用字用語大辞典	細見佐熊	全国	「……やさしいことばは、少ない漢字多くの仮名で表記されます。仮名を多く用いることが無学のしるしであったかのような考え方は、もうすでになくなってしまいました。……」		1972	製本	19×13 564p 分進堂
1225	サイガイキキウ	サ001	災害救助寄付褒状	関新平(愛媛県知事)	町内外	明治19年6月24日。明治17年8月25日の暴風被害者への救助金2円寄付した事への愛媛県からの感謝状。	明治17年暴風	1886	袋033 コピー	21×27 1枚
1031	サイシ	サ002	祭詞	武市英俊		明治31年6月5日。「不承英俊故南邑鷺野先生の霊前に頓首百拝して白す英俊幼少より久しく先生の教を……」	鷺野南村	1898	袋066 コピー	36×75 1枚
180	サイジョウ	サ003	西条誌付属画図	日野和煦	町外	豫集石鐵山絶頂見分鎖攀之図、絶壁垂鎖三段上 三三尋 中二五尋 下一七尋慈園中下其峻可知と図示され、測量の図もある。		1842	コピー	26×18 124枚
99	ザイセイサ	サ004	財政再建計画の概要	松前町	全	昭和31年～昭和34年合併後の財政再建計画		1959	ガリ版	25p 27枚
104	サイヨウガツ	サ005	彩洋学校	北黒田村	北黒田	北黒田村の従前の墨水学校を本校に移行刷る書類。学校費用は書籍器機常備雑費98円42銭2厘と申請している。		1877	コピー	26cm 2枚
172	サラエイダ	サ006	相良永代録	天野屋伝兵衛他	町外	三津口当時の大年寄(利屋伝三郎、村上四郎左右衛門)3氏の寄稿したもので、相良家代々の記録		1717	コピー	24cm 104枚 伊予史談会製本
1124	サシアゲマイオ	サ007	差上米御願書	鷺野梅三郎	黒田村	文政9年4月3日、美濃判1枚。庄屋梅三郎より三瀬左平次あての文政九年四月三日の文書。		1826	袋051 原本	26×85 1枚 正本
101	ザッキロク	サ008	雑記録(ノート)	重川忠太郎	昌農内	昌農内区長の野取図等のメモ帳・年代不明・ノート1冊。弘川筋田割工賃東より4円池内長三郎と28区画の工賃が示される。	弘川	0	原本	40p
102	サデンシャ	サ009	左伝社解補正(上・中)			作者・年代不明		0	コピー	25×17 52枚
103	サリュウゼ	サ010	砂流堰改修一件書類	筒井区長	筒井	耕地整理に伴う国近川尻せきの改修と建築日誌、各種関連帳簿などをまとめたものである。		1914	コピー	26cm 56枚

ID	読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
182	サレダニム	サ011	佐礼谷村郷土誌	佐礼谷村郷土誌編集委員会	町外	その当時の村内実情詳説。ウサギ多く、夏の蛇は至る所で見られ編者の嫌悪感もろに出ている。地名曳き坂、盾築と山吹御前の関連を説く。		1910	原本	28cm 89枚
1033	サンガクゾ	サ012	三学之図	野沢象水		治世に武学、戦国に軍学、戦場に兵学。武学、軍学を極め戦場ではこれを捨て兵学に徹するべしと考えている。	武学、軍学、兵学	1789	袋067 コピー	26×140 25×100 2枚 寛政2年
1041	サンヤクフクロ	サ013	散葉袋		筒井	住田葉室より筒井の赤星宛に送った内用の散葉2日分の送り状。一日3度水にて送り下すと用法を述べている。		0	袋068	1枚 文庫目録に未登録
1271	サルシブンニ	サ014	申歳分日記帳	高市氏丞		萬延元年春2月の米など諸物価を書いている。新麦、大豆、ナタネ、コヤマなどの物価もある。		1860	コピー	10枚
1319	サダミサキ	サ015	佐田岬半島・大洲平野周辺の自然	愛媛県立博物館編集	全県	愛媛の自然に掲載された文章を地域別にまとめたもの。その6集。		1988	製本	15×21 143p
1374	サンドウイ	サ016	三道一致心学辨	清水春斉	全国	神道、儒道、佛道の一致を説く、天保辛丑の和本		1831	原本 綴じ	和 22×15 15枚 和 太田熊衛文庫 18×12 20枚 太田熊衛文庫
1434	サンスイシ	サ017	山水唐画指南 初編(全)	適山先生筆	全国	小仙梅杏 陸申研が最後のページの山水画で、どの図も小さな人物を描いている。		1857	原本 綴じ	和 22×15 51p 和 太田熊衛文庫
1455	サクモツサ	サ018	作物栽培講義録	愛媛県農会	全県	作物栽培総論、栽培概要、稲作、麦作、甘藷	甘藷の品種、稲の品種		製本	22×15 51p 太田熊衛文庫
1463	サクブンヒ	サ019	作文獨案内	田中宋榮堂	全国	年始の文、年始の返書、暑中見舞いの文、寒中見舞いの文、歳末人に送る文、観梅誘の文……類焼見舞の文で終わる		1895	製本	18×12 75p 太田熊衛文庫
1512	サボウアラ	サ020	砂防新たなる出発	建設省松山工事事務所	全県	重信川直轄砂防事業40周年の記念誌である。重信川水害の歴史をまとめ、足立重信の業績から説く。		1988	製本	21×31 51p
1542	サンスウ	サ021	算数 第4学年用 上	文部省	全国	いも畑の割り当ての問題(1)から(12)まであり、いも苗の注文などの計算問題は実地にあることを用意している。		1948	製本	21×15 141p 大阪書房
1546	サンブキョ	サ022	三部経延書		全国	「……佛ノ所説ヲキキタマエテ、歡喜信受シテ、禮ヲナシテサリニケリ」と最後の一行にあり。		1893	原本 綴じ	和 18×13 上58枚 下66枚
255	シカ	シ001	詩歌	高市郡次郎		柿本人麻呂、紀貫之、中納言家持、在原業平ノ朝臣、山辺赤人、小野小町などの歌人の歌を漢文と平仮名で書き写したものの。		1840	コピー	14×22 20枚
256	ジンシラベ	シ002	寺院調べ	県総務部		神山県管轄伊予国伊予郡内寺院調べ。喜多郡横田村天長寺の第14世住職名、弟子僧2名の名がある。その他町内各寺院の同じような記録。		0	コピー	26cm 20枚
254	ジエイグソウシ	シ003	自詠愚草集(社)	伊達賢山		発行年代不明、賢山公自詠愚草集とその追加集。夕闇に垣根ばかりの月願い卯の花咲ける小野の山里、白妙に降りつむ雪が咲つく卯の花なれや小野の山里などの句がある。		0	コピー	26×18 46p 2 8枚
1032	シゲノブガワオ	シ005	重信川横断暗渠工事覚	遠藤良貞	徳丸	大正14年4月2万円の予算で着工、工事一時休止、調停(新谷正夫・松原久人・坂間検治)の結果昭和3年春に完成した工事概要。	重信川二百五十間横断工事	1931	袋069 コピー	26×145 1枚
1043	ソゲノブガワオ	シ006	重信川横断暗渠工事協定書	遠藤良貞	徳丸	大正15年10月27日。浮穴村井門との紛議有り、新たに6項目の協定を結ぶ。冬水の排水通知後5日以内に徳丸で実施とある。その他埋設する装置の勾配等を設定。	暗渠工事	1926	袋070 コピー	28×290 1枚
878	シゲノブ	シ008	しげのぶ	重信町教育委員会	町外	郷土の資料、1967年、1971年、1976年、1975年の合本。他町内各社例祭、各寺院行事の一覧表。		1976	原本	26×18
183	シゲノブガ	シ009	重信川河道計画調査報告書	建設省松山港寺事務所	町内外	明治19年及び大正12年の洪水、昭和18年の大洪水の結果、内務省調査により直轄河川改修工事が昭和20年5月から始まる。低水路を固定、護岸水制の配置。	重信川	1968	コピー	26cm 143p
257	シゲノブガッ	シ011	重信学校	武市元衛	西高柳村	公立学校設立之儀に付伺、履歴書藤井萬隆の記録あり。学校教育費として書籍器械等入費金6円、営繕費、雑費6円、計12円と示されている。		1877	コピー	26cm 6p 5枚
265	シヨクレイジョ	シ014	四国霊場記集	近藤喜博	県内外	霊場毎参拝に便利。赤木文庫の蔵本をもとに復刻したものである。8000円の定価で、絵入りの書籍。	四国八十八力所	1974	コピー	18×12 270枚
1044	チシヨキョウユ	シ016	地所共有連名並二所有権内訳簿	赤星平次郎	筒井	明治28年10月23日		1895	袋071 コピー	26cm 26枚
899	シズナイシャイ	シ017	静迺舎遺稿 下巻	潮見琢磨		明治15年		1882	コピー	26×18 56枚
896	ジチカイニカ	シ018	自治会に関する綴	松前町役場	松前	昭和13年の伊予郡自治会の協議事項がある。昭和18年の伊予郡町村会長の歳入歳出決算書を含む。		1938	原本	24×17 2枚
876	シノウセイヨ	シ021	市町勢要覧	伊予郡市町	町内外	伊予市、松前町、砥部町、中山町、双海町の5地区の要覧		1956	原本	26×18 169p
877	ジッセンシュウ	シ022	実践集団活動記録	県生涯環境部消費生活課	愛媛県	くらしを見直す運動、地域での取り組みをまとめたもので、松前町生活学校の実践が紹介されている。学校を7回開き、参加数の少ないことを、個人の意識の問題としている。	生活学校	1976	原本	26×18
1167	ジトウシヨウキ	シ023	地頭織寄進状	足利義満		嘉慶2年2月28日		0	袋060 コピー	31×45 1枚
874	ジドウシャエイ	シ024	自動車営業合併	伊予鉄道KK	町内外	昭和19年1月1日。愛媛県におけるバス事業の発展史である。最初の軽便鉄道から昭和31年長浜町櫛生のバス転落事故まで伊予鉄関係の詳しい年表がある。	木炭車、省営バス	1944	コピー	26×18 46枚
875	ジョシチョウ	シ025	地押帳	東古泉村	東古泉	明治20年土地調査をやり直した一筆ごとの確認		1887	原本	25×18 41枚
872	ジョシチョウ	シ026	地押帳	東古泉村	東古泉	明治20年3月。図面番番訂正とはじめに記入あり。立会者委員、地主、総代の捺印欄は空白、地番1から681番まで、地券地目は田、宅地、墓地、畑、泉、林、藪などで田が最多、地主氏名、事故として「西溝図面になし」などと記載している。		1887	原本	26×28 31枚
873	ジョシヒシユウ	シ027	地押費収入及仕払帳	東古泉村	東古泉	明治20年1月～明治21年1月の二冊合本。支出項目は地押検査官宿泊料、検査官マカナイ料3円48銭など22項目がある。この経費を地租割り、反別割りでとりたてている。	地押(検地)	1888	原本	25×18
743	ジョシニツキ	シ028	地押日記	浜村区長	浜	浜村2番耕地から杭入れを始めている。赤星ほかの参加者名がある。		0	コピー	18×26
900	ジョシヒボウ	シ029	地押備忘録	赤星平次郎	筒井	明治19年1月、田・畑・畦・墓地等の調査		1886	原本	18×26 87p 8 9枚
1272	チオンソトリチ	シ030	地押野取帳	東古泉村	東古泉	明治20年の野取帳7冊を合本している。1番南東の方溝図面になし・		1887	原本	14cm×21cm 65 枚
745	シノノメジンジ	シ031	東雲神社奉納俳句	旭扇堂木和村季瓶		各地の俳句会会員(旭扇堂)の俳句。ゆく人のうわさを知るや夜の雲の句あり。		1901	コピー	18×25 111枚 107p
738	シモナダムラキ	シ034	下灘村郷土誌	下灘村郷土誌編集委員会	町外	明治44年3月発行。まとめに…常に参考伸縮し村治に経済にあるいは教育その他一般事業開拓の貢に供せらると共に机上の一端を占め現在過去未来の三期を遠観するを得ば本誌またいささか貢献するところあらんか。とある		1911	コピー	20×81 178枚
870	シャカイショウ	シ035	社会小史(金蓮寺記録)	吐雲	西古泉	金蓮寺住職の発行、大正7年～昭和19年の記録。金蓮寺史の一部抜粋。	昭和18年水害	1944	コピー	26×18 26×18 39p 松山印刷有限会社 昭和47年10月発行
949	シャカイフクシ	シ036	社会福祉のあゆみ	愛媛県民生部	町内外	社会福祉、児童福祉、母子福祉、青少年の健全育成、戦争犠牲者の援護、社会保険、国民年金にわけ愛媛県の施策をまとめたもの。	国民年金、社会福祉	1972	製本	
898	ジシャオヨビ	シ037	寺社及宗教	岡田村役場	岡田	大正2年～4年、岡田村内の各神社の公式記録で、予算、決算等の記録等がすべて保存されている。		1915	原本	27×20
871	シャジニカカワ	シ038	社寺二係ル訓令通牒	岡田村役場	岡田	明治41年～昭和10年。明治38年12月本県令第44号、神仏両道各宗派取属教会説教所に関する規程取扱手続き左の通り心得るべしと訓令5号がある。	原種田、献穀田	1935	原本	26×20
868	シュウカクトリ	シ039	収穫取調帳	東古泉村	東古泉	明治10年11月5日。一等田反別2町6反7畝3歩 但23筆、興収米34石7斗2升3合、二等は一反歩に付1石2斗のように等級別に記載。		1877	原本	27×20 6枚

ID 読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
879 シュウガクシン	シ040	集学新編字府(辞書)	江島伊兵衛	全国	辞書で補遺74枚あり、明治9年2月		1876	原本	12×17 359枚
869 シュウジテホン	シ041	習字手本	鷺野塾	南黒田	機内五ヶ国、山城、大和、河内などの文字を手本としている。発行年不明。		0	原本	25×18 鷺野橙 黄園発行
928 シュウジテホ	シ042	習字手本	相原賢	鶴吉	明治初年相原賢先生遺墨、寄贈 加藤英寿と記されている。鶴吉安井で私塾を開く、門弟は村内近村のもの、下吾川、原町からも通って来ている。これはその手本の一部であると寄贈者がまとめている。 明治3年。庚午11月調。	相原賢の遺墨	0	原本	26cm 30枚
1045 ジュウソツモト	シ043	銃卒元新足軽禄高人名帳	松山県		1 本禄15石5斗 貳人扶持 組長扶興 (壹人扶持 但し右7斗4升) 1 省略 1五石五斗 貳人扶持 大西和一郎		1870	袋072 コピー	2枚
1036 ジュウニヒジュ	シ044	十二秘術策	木村勝政		城が七日間落ちない呪文などがある。二番は賽ノ方向時 朝日二向ヒ策ニテ 梵字を出して薬師如来真言を七回唱えるべしとある。 オンコロコロセンダリマトウゴソワカ		0	袋067 コピー	17×93 一枚 年 代不明
744 シュセンズイヒ	シ048	酒仙随録第一	後藤守衛		後藤氏先祖記、明治16年		1883	コピー	
926 シュセンリョウ	シ049	酒饌料受領書	松前、岡田、北伊予役場	全	宮内省より下賜された酒饌料の受領書。明治27年、村長・学校長・宮司・宮司など	酒饌料	1894	コピー	26×19
742 モリナカアンセ	シ050	守中庵石山翁5周年忌追善	蘭亭選		蘭亭選俳句集 大達庵小達庵雪の遊びかななど		0	コピー	26×18 76p 8 4枚
1046 シュツサクオキ	シ052	出作沖台東西線・宮浦線・養老院線工事	出作区長	出作	出作584番地から824番地までの道路拡張用地のため、昭和25年の承諾書と固定資産の評価基準が示されている。	道路拡張	1962	袋073 原本	27cm 18枚 3冊 合本
921 シュツサクカイ	シ053	出作買物帳	出作区長	出作	大正7年。月日、金額、物品名の記録。炭、あげ、サト、シヨウ、イリコ、スボシ、コンニャクなどの購入金額が分かる。		1918	原本	13×20 10枚
1065 シュツサクカキ	シ054	出作垣根川工事	西村亀太郎	出作	垣根川の水害復旧工事に伴う工事不足負担同意書 2冊 昭和26年12月26日。反別230円。領収書も残っている。		1951	袋074 原本	27cm 33枚
1050 シュツサクカゲ	シ055	出作蔭切り薪代徴収簿	出作区長	出作	昭和34年の蔭切りシバ入札徴収簿には、第1号神野富士夫1110円、第2号中野芳明501円、第3号中野芳明3206円とある。	入札	1960	袋073 原本	26cm 3枚
1156 シュツサクカン	シ056	出作・神埼役不足請求書	出作区長	出作・神 埼	出作と神埼の養水に伴う諸経費、役不足、賦米請求等、昭和33年から昭和38年までの合本		1963	袋075 原本	25×119 31枚
867 スツサクギジロ	シ057	出作議事録	出作区長	出作	大正5年、昭和2年、昭和4年、昭和12年、昭和35年の5年5冊を合本したものである。		1960	原本	27×20
1157 シュツサククミ	シ058	出作組合員名簿	出作区長	出作	組合員弓立常清以下50名と農事実行組合(山郷寺、南組、北組、沖代)4カ所の名称で太平洋戦争前の組織である。	農事実行組合	1940	袋075 原本	24×17
1068 シュツサクグン	シ059	出作郡道改修費収支決算簿	出作区長 神農藤五郎	出作	大正10年11月、郡道工事の収入は742円55銭、支出は植え付けられている作物の補償、出作地内郡道南伊予線松山接続の修繕など細目が記録されている。	郡道	1921	袋074 原本	25cm 5枚
1153 シュツサクケツ	シ060	出作決算書類	出作区長	出作	明治43年から昭和31年まで、2冊合本している。		1956	袋076 原本	25×27 2冊合本
1067 シュツサクコウ	シ061	出作工事費徴収簿	出作区長 神農強	出作	昭和25年請負工事徴収金合計6650円とある。工事内容は不明である。		1950	袋074 原本	25cm 3枚
1154 シュツサクコウ	シ062	出作耕作割徴収簿	出作区長	出作	戦後の物資不足時代が明確に判明、紙質、筆記用具、の差異が認められる。昭和14年、昭和21年～37年まで。		1962	袋977 原本	25×17 18冊
1235 シュツサクコベ	シ063	出作個別割徴収簿	出作会計	出作	大正元年～昭和37年、大正2年分欠。字費を地租割りに徴収した原簿。日付、金額と氏名、総合金額で示される。昭和7年は976円94銭。	地租割	1962	袋087 原本	21cm 42冊
1155 シュツサクコマ	シ064	出作小松原泉収支明細簿	出作区長	出作	収支明細簿(昭和14年)、機械器具、燃料費、材料費、人夫賃合計875円、昭和17年は2815円86銭の出費となっている。出費増はモーター10馬力の設置。 朝会計の預金等の引継書	小松原泉	1942	袋075 原本	25×17 8枚
1158 シュツサクザイ	シ065	出作財産引継書	出作会計	出作	定期預金20662.46銭 普通預金421.73 現金 25856.87		1952	袋075 原本	25×17 1枚
1229 シュツサクサイ	シ066	出作蔵入歳出予算・決算書等	出作会計	出作	大正11年から昭和37年まで。このうち大正13年～昭和7年まで失われている。		1961	袋081 原本	25cm 11冊
1233 シュツサクサイ	シ067	出作斉の神揚水施設工事日誌・出納帳	出作会計	出作	北伊予農協よりの借入金で揚水場建設、工事請負費1684000円、ヤンマーディーゼー128000円他。昭和39年7月20日の床堀人夫11名で工事を開始。	揚水場	1964	袋079 原本	21cm 2冊 昭和3 9年夏
1198 シュツサクサン	シ068	出作参考重要書類	出作区長	出作	昭和34年度、赤十字賛助員名簿、納税貯蓄組合員名簿、共同募金関係資料他		1959	袋082 原本	27×19 35枚
1201 シュツサクシエ	シ069	出作仕役支払簿 1	出作会計	出作	土木及び水利に係わる人別仕役計算簿及び支払い簿、大正元年から大正15年。		1926	袋083 原本	25×17 14冊
1128 シュツサクシャ	シ070	出作社寺米徴収簿	出作区長	出作	明治44年～大正10年の記録。月日、金額、氏名、住所で表示、出作以外は西垣生、上野、上三谷、宮下、大山寺、郡中、大間、塩屋、横田、神崎、徳丸がある。		1921	袋085 原本	25cm 8冊
1047 シュツサクシヨ	シ071	出作昭和18年水害復旧工事助成金	出作区長	出作	昭和19年6月4日決算の助成金受取人名、地主名、字名と番地、反別と金額をまとめたものである。	昭和18年の水 害	1944	袋073 原本	12枚
1199 シュツサクセイ	シ072	出作誓約書	出作区長	出作	字内誓約条項の規程 (付)風紀矯正会規程、優良者表彰規程他、大正13年8月		1924	袋082 原本	24×17 15枚
1129 シュツサクセン	シ073	出作選挙人名簿	出作区長	出作	昭和2年～昭和37年、一部年度が重複しているものがある。堂本新泉の収支明細簿があり5854円の支出を計上している。物資運搬に馬車と自動車を利用されている。資機材の定価がある。	新泉の開鑿	1962	袋086 原本	26cm 27冊
947 シュツサクチン	シ074	出作賃貸価格及地租台帳	出作区長	出作	昭和6年と昭和13年の台帳である。池内勝市 種別 田、反別 二反四畝十五歩 賃貸価格 七十三円五十銭、地租 二円七十九銭とある。(昭和十三年この様式で記載)		1938	原本	25×18 63枚
1130 シュツサクチソ	シ076	出作地租割徴収簿	出作会計	出作	明治44年～昭和21年、32冊。一部年度の重複あり。昭和20年は160人から徴収し、月日の記入されない3名をのぞいて1月15日の徴収日である。	字費	1946	袋087 原本	26cm 32冊
1236 シュツサクチリ	シ077	出作地力査定表	出作区長	出作	耕作者氏名、地番、台帳面積、実面積、地力等級を米表別に1から5、外に区分し、備考欄よりなる申請書の原本	地力等級	1949	袋079 原本	25×36 28枚 昭和24年2月
1066 シュツサクミチ	シ078	出作道水路官地所置申請書控個人別売渡台帳	出作区長 西村	出作	昭和24年2月8日。道路、水路要地として、出作の他などを売り渡した面積と字名、所有者名等の下書きと整理した売り渡し台帳がある。		1949	袋074	25cm 33枚
1200 シュツサクネン	シ080	出作年別簿	出作区長	出作	出作の年別出生者名簿は男の部、女の部に分け生年月日と続柄が残る。文政5年から昭和4年までの記録。	出生数	1905	袋082 原本	27×19 54枚
1052 シンゲンコウシ	シ081	信源講周旋依頼書	知恩院		明治13年4月		1880	袋106 コピー	22×28 1通
1048 シュツサクノウ	シ082	出作農道地代金支払簿	出作区長	出作	昭和23年から昭和26年までの農道地代金支払い簿で、保障金額と地代と坪数所有者名が示されている。鍛分、山王、窪田、町畑、夏目、下台線農道への支払い簿である。	農道	1951	袋073 原本	26cm 40枚

ID	読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
1070	シュッサクヒホ	シ083	出作非補助施工認可申請	出作区長 神農富士夫	出作	出作土地改良区の幹線水路は土水路のため漏水甚大この改良で生産増加を目標としている。垣根川の水害復旧工事の同意書と各種領収書がある。	水害復旧工事	1965	袋074 原本	27cm 24枚
1127	シュッサクフマ	シ084	出作賦米支払簿	出作区長	出作	明治41年～昭和36年、文庫目録には26冊とある。実際には33冊。		1961	袋088 原本	25cm 33冊
1140	シュッサクブラ	シ085	出作部落支出簿	出作区長	出作	明治44年～昭和32年までの記録。大字出作の諸活動が年代と重なって見えてくる貴重な文書である。		1957	袋089 原本	34冊
948	シュッサクミノ	シ086	出作未納地租割	出作区長	出作	昭和9年、三冊の合本。徴収する部分金額と氏名三十七名分がある。また賃貸金額と反敷歩、行く氏名三十八名分もある。		1934	原本	25×17 17枚
1049	シュッサクムカ	シ087	出作向井川源泉諸入費明細美	出作区長	出作	昭和14年7月24日から8月27日に579円14銭を要している。発動機は窪田発動機4馬力とある。		1939	袋073 原本	25cm 1枚
929	シュッサクモウ	シ088	出作申合規約	出作区長	出作	明治33年12月。西村喜八から加藤林次郎まで59名の氏名と捺印で構成されている。日本政府の収入印紙2銭が貼られている本格的な規約である。	地主会	1900	原本	26cm 14枚
864	スツサクヨサン	シ089	出作予算書類	出作区長	出作	大正6年～昭和26年、昭和33年までまとめられている。昭和20年の役員報酬は総代30円(昭和21年は60円)、代理20円、組長5円と予算書にある。	協議費	1951	原本	
1230	シュッサクリヨ	シ090	出作領収証綴	出作区長	出作	12冊合本、昭和6年～昭和25年。昭和7年松前町鮮魚商基井より出作会計へ1円50銭の領収書を渡している。字費取立の着代金とある。		1950	袋090 原本	12冊
1099	ジュンカイエ	シ092	巡回営業者のうたひ来るもの	不明		作者不明、明治中期。「……お福のご祝儀四つね(意不解)を盛り立ておかちん(餅)はいがんで(歪形を言う)大ほきーのがよーございます。ヲホ……(お大福の面を冠りて女が踊る)		0	袋021 コピー	20×32 1枚
1205	シヨウ	シ094	証	野本通矩(神崎村旧里正)	神崎	庄屋宅地の件、明治8年11月29日。証の次の行に 1田 反別町五反四畝十八歩 高 壹拾六石七斗五升四合 旧里正抜地分とあり……最後に壹百参拾貳名の氏名の後に鶴吉村組頭の署名捺印がある。		1875	袋096 コピー	1枚
923	シヨウエイシヤ	シ095	松栄社第7回余興角力句	如雲		2句を並記し東西と考え、よい句に軍配を描き解説した俳句相撲である。 鹿鳴くや我が家に遠き乙女かな 窓の内屋寝の半ばや鹿を聞く 前者に軍配を揚げる。	俳句相撲	0	コピー	20×27
961	シヨウガッコウ	シ096	小学校・夜学校一覧	伊予郡役所	全	明治37年。中川原村宗金寺、徳丸本性寺に夜学校が設置され、農繁、祝日、祭日を除いて2時間授業をしている。中川原の夜学校は成績良好将来有望なりとある。		1904	コピー	21×15 8枚
865	シヨウガッコウ	シ097	小学校指定伺		全地区	下浮六群長より、伊予郡内各町村尋常小学校指定の件、知事の指定許可の文書である。北伊予は神崎小学校、岡田小学校日高柳教願寺、松前は筒井宗意畑と学校所在地が記入されている。	尋常小学校設立許可	1892	コピー	25×18 4枚
1038	ジョウジョウ	シ098	条々			野沢流兵学、年代不明		0	袋067 コピー	32×42 1枚
957	シヨウヤダイダ	シ099	庄屋代々役儀并御称美類書附	鷲野梅三郎	南黒田	享和4年3月		1804	原本	14×43 9枚
889	シヨウヤカトク	シ100	庄屋家督田畑帳	庄屋・組頭	黒田村	元文2年11月9日		1737	原本	28×22
955	シヨウノウチノ	シ101	昌農内のあゆみ	升田繁市	昌農内	昌農内の沿革誌、地文誌、人文誌。昭和39年発行		1964	コピー	26cm 80p
927	シヨウノウチア	シ102	昌農内大字費領収書	昌農内区長	昌農内	明治37年度協議費元利高444円57銭2厘のうち11円7銭5厘は衛生費補助。協議費として高橋卯吉4円24銭4厘から藤野源之平の62銭5厘まで65名から領収している。	協議費	1904	コピー	26cm 11枚 明治28年度
890	シヨウノウチム	シ103	昌農内村入用出入帖	窪田節二郎	昌農内	元受座と仏座にわけ、月日と明細をまとめる。隅田川の川堀、井関の修理、小川浚え人足の代金など水利土木に支出が多い。		1888	原本	14×21 10枚 明治19年、21年
262	シヨウノウチキ	シ104	昌農内協議費切符(明治19年)	昌農内区長	昌農内	予備兵点呼に付き、2名に20銭渡したとの伊予郡西高柳村6か村戸長役場の承認印がある。その他の出費についての記録である。		1886	原本	14×28 13枚
261	シヨウノウチシ	シ105	昌農内諸役人別帳	昌農内区長	昌農内	明治28年12月の記録、高橋卯吉から大西庫五郎までの諸記録である。	アンコ、大樋、避病院仮建築	1895	原本	14×40 48枚
863	シヨウノウ	シ106	昌農内本田畑人別地寄帳	昌農内区長 ?	昌農内	弘化4年3月。訂正した紙片に重川鑑蔵 正仙寺1反3畝22歩の内(赤字)で482円とあり次の行に……………高9斗6升とある。		1847	原本	17×44
1260	シヨウノウチ	シ107	昌農内人別持分畝寄帳 1	昌農内区長	昌農内	字と田の面積、米の収量、地価、地租と地主氏名の一覧表である。この年昌農内でとれた米の小計は568石4斗4升4合とある。		1879	原本	14×42
1259	シヨウノウチ	シ108	昌農内人別持分畝寄帳 2	昌農内区長	昌農内	字名、田の面積、米の収量、地価、地租と地主氏名の一覧表である。米の収量の小計は470石5斗1升5合である。明治12年の終了は昌農内で約1039石になる。		1879	原本	14×42
956	シヨウノウチオ	シ109	昌農内大字費徴収票	昌農内区長	昌農内	明治28年。五拾参円参銭参厘を地租割で徴収した領収書、氏名と金額が明記されている。五拾貳銭参厘高橋卯吉から壹拾六銭五厘橋本良資まで72名の記録。	地租割	1895	原本	27cm 6枚
953	シヨウノウチタ	シ110	昌農内田用水試掘集計表	昌農内区長	昌農内	昭和13年7月。18号まで18地点を掘り地層の観察を15ないし16尺まで記録している。すべて粘土など興味深い地点がある。	地層断面図	1938	原本	25×17
954	シヨウノウチオ	シ111	昌農内大字費領収簿	昌農内区長	昌農内	明治37年の字費は4円24銭2厘 高橋卯吉 4円4銭4厘 仙波久三郎 1円1銭1厘 仙波ヨシと地租金や協議費を徴収している。70名で428円7銭9厘集めている。	協議費	1904	原本	27×19 6枚
893	シヨウノウチム	シ112	昌農内村入用出入帖	窪田節二郎	昌農内	明治18年1月から12月まで		1885	原本	14×21
952	ヒョウギインク	シ113	評議員組長会議事録	昌農内区長	昌農内	秋日備賃金を定めている。男農繁日備弁当持は1円30銭、同女は1円10銭、稻刈一反は1円20銭、田鋤は1円60銭である。この記録が各部落に残されていると貴重な資料になる。	日備賃金	1929	原本	25×17 昭和3年度
1258	イゴゲンオカ	シ114	伊予郡岡田村昌農内諸役人別帳	昌農内区長	昌農内	個人別諸役の一覧表である。当時の生業のようすがわかる。		1890	原本	14×42
268	シヨウノウチ	シ115	昌農内諸役人別帳	昌農内区長	昌農内	字役に出た人の作業内容、作業月等の一覧表である。明治24年に活動した人々の息吹が伝わってくる。		1891	原本	14×42 32枚
267	シヨウノウチシ	シ116	昌農内諸役人別帳	昌農内区長	昌農内	明治25年12月。高橋宇吉、仙波久三郎、池内利左から始まり関谷仙太郎で終わる大字の諸役にでた人の金額と氏名、役名がある。重信分校への出役がある。		1893	原本	14×40 44枚
266	シヨウノウチ	シ117	昌農内村丑年7月より寅6月迄諸役遣帳	差配	昌農内	明治22年7月～明治23年6月までの諸役一覧表、人名と月日と作業名でまとめられている。		1889	原本	14×42 29枚
260	シヨウヌチシヨ	シ118	昌農内諸役附込帳	昌農内区長	昌農内	明治28年8月から明治29年7月までの差配記録。甚五郎路修繕のため重信川の砂利取り人夫29名の名前と支払額が示されている。	〇〇井手切込	1896	原本	14×40 48枚
462	シヨウノウチキ	シ120	昌農内甲午歳納米座越帳	昌農内区長	昌農内	明治27年12月。一二月二九日で六七名の米量と氏名が記録されている。		1894	原本	14×42 12枚
465	シヨウノウチキ	シ121	昌農内乙未歳納米座越帳	昌農内区長	昌農内	明治28年12月2日付けで17斗6号国五部分とあり、名前と歳納米の座起分が66件記載されている。		1894	原本	14×42 5枚
461	シヨウノウチキ	シ122	昌農内丙申歳納米萬座越帳	昌農内区長	昌農内	明治29年12月18日の日付四斗七合 喜太郎より愛次郎へ、一斗七升六合伊佐より峯次郎へなど人から人への米の移動を記録。		1896	原本	14×42 5枚

ID	読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
1282	ショウノウチ	シ123	昌農内甲午歳納米俵改摺帳	昌農内区長	昌農内	12月19日 1表式斗式升六合 嘉一郎行を変えて1. 6俵式斗参升八合 熊蔵 などと氏名と米穀量を43名分記録している。		1894	原本	14×42cm 五枚
1269	ショウノウチヒ	シ124	昌農内丙申歳納米俵改摺帳	昌農内区長	昌農内	11月29日 1. 六斗二升六合 1. 八斗 嘉一郎 内 式斗 重蔵 三斗 □ノ助		1896	原本	14cm×42cm 5枚
452	ショウノウチカ	シ125	昌農内庚寅歳納米庭帳	昌農内区長	昌農内	明治23年12月。表紙と内容は別人の筆になる。一二月二五日 五升六合 弥三郎 5斗7升七合久太郎のように日付と氏名、米穀量でまとめられている。		1890	原本	14×42 19枚
453	ショウノウチサ	シ126	昌農内申羊歳納米萬庭帳	昌農内区長	昌農内	明治27年12月		1894	原本	14×42 8枚
1270	ショウノウチヒ	シ127	昌農内丙申歳納米萬庭帳	昌農内区長	昌農内	明治29年12月。12月18日 一斗2升8合 久三郎とあり次の行に4升 ヨシとある。米量と氏名、月日からなる。		1896	原本	14cm×42cm
463	ショウノウチカ	シ128	昌農内庚寅歳納米萬取立帳	昌農内区長	昌農内	明治23年12月。氏名の始めに村免米と仕役米がそれぞれ記載されている。最後に赤丸で完納を表している。非常村貯とあり 11石7斗4升7合を備蓄している。		1890	原本	14×42 35枚
458	ショウノウチヒ	シ129	昌農内丙午歳納米萬取立帳	昌農内区長	昌農内	明治27年12月。高橋卯吉 八斗二合村免米 六斗六合仕役数 一斗四升七合内六升三合仕役米立渡のように記載している。		1894	原本	14×42 31枚
457	ショウノウチヒ	シ130	昌農内丙申歳納米萬取立帳	昌農内区長	昌農内	明治29年12月。高橋卯吉 八升一合村免米 八升三合仕役米 二斗六升四合内二升五合仕役米立渡 残2斗三合のように記載されている。		1896	原本	14×42 36枚
460	ショウノウチカ	シ131	昌農内庚寅歳納米萬弘帳	昌農内区長	昌農内	明治23年12月。1月12日9名分で一石三斗四升七合、一月二九日では二五名で八石九斗三合と記録されている。		1890	原本	14×42 36枚
464	ショウノウチキ	シ132	昌農内甲午歳納米萬弘帳	昌農内区長	昌農内	明治27年12月。合計17石7斗3升9合とある。		1894	原本	14×42 4枚
454	ショウノウチヒ	シ133	昌農内丙申歳納米萬弘表	昌農内区長	昌農内	明治29年12月。18日 八斗 寅五郎 一月六日 二斗七合 □五郎 八斗三升九合 □次郎 一斗二合 長三郎など米量と氏名を三五名記録している。		1896	原本	14×42 8枚
468	ショウノウチカ	シ134	昌農内庚子歳納米萬弘控	昌農内区長	昌農内	明治33年12月。12月30日 1 二石八斗 盛栄とあり続いて25名同じ形式の記録がある。		1900	原本	14×42 4枚
467	ショウノウチカ	シ135	昌農内庚寅歳納米萬元揃帳	昌農内区長	昌農内	明治23年12月。合計7石1斗6升4合は地租930円38銭16厘にあたる。地租1円を7合7勺にあてている。それぞれ名前で記載され、節二郎は9斗3升4合になっている。		1890	原本	14×42 18枚
466	ショウノウチキ	シ136	昌農内甲午歳納米萬元揃帳	昌農内区長	昌農内	明治27年12月。合計8石1斗8升7合が地租930円39銭4厘に当たる。地租金1円につき8合8勺あてて計算されている。名前のみ記載し性は書かれていない。		1894	原本	14×42 20枚
455	ショウノウチヒ	シ137	昌農内丙申歳納米萬元揃帳	昌農内区長	昌農内	明治29年12月。従前仕掛帳持内取立割賦元揃帳諸割米共束二村免米ト称すとあり続いて 七斗 玉生神楽米、同燈明米。 八斗 古社神楽米、一斗 天王神楽米など	神楽米、燈明米	1896	原本	14×42 19枚
456	ショウノウチヨ	シ138	昌農内萬納米帳	昌農内区長	昌農内	一月六日残出として グループ別に米穀数、名前、金額を記録したものの。		1901	原本	14×42 14枚
739	ショウフウシャ	シ139	松風社句集	蜂倉南山皮		明治中期 七夕や硯の中に芋の露 蟬の殻吹き落として秋の風 我畑の主のかわりや夕奈山子 松の色黒々見えて月涼し 等の句作をまとめる。 明治35年2月26日。		0	コピー	19×28 128枚
740	ショウフウシャ	シ140	松風社句集(俳句相撲集)	石山		雨ほろりほろり淋しや鹿の声 清月 奥山の淋しき処に鹿の声 梅松 明治34年3月21日		1902	コピー	80枚
741	ショウフウカイ	シ141	松風会句集	松楽庵二鶴選		手を打てば鯉の浮かぶや藤の下 幸波 長き日をたつかれたり水遊 清月		1901	コピー	30枚
887	ショウボウクミ	シ142	消防組員名簿 第5分団	東古泉	東古泉	大正時代より昭和24年まで		1949	原本	25×17
866	ショウボウネン	シ143	消防年報	伊予消防組合	全	松前町の火災発生状況を見ると人口一万人あたり3.6%、県は4.6%、国は5.5%である。消防組合の各種統計。	消防組合沿革、 機械器具整備状況	1976	原本	100p 昭和51年 4月
1206	ジョウヤクショ	シ144	定約証	筒井区長	筒井	明治26年。筒井、西古泉間の水利紛争を、北川原と永田の調停により成立した契約書。	水利紛議	1893	袋097 原本	30×205 1枚
1279	ジョウヤクシュウ	シ145	定約集	東西両古泉村戸長	東西両古泉村	伊予郡東古泉村地主惣代 福島利左衛三好なお時		0		
884	ショウロクカイ	シ146	蕉鹿窩遺稿	大原観山		大正12年4月5日子規の叔父大原寒山の漢詩、漢文の作品集である。		1923	コピー	26×18 58枚
891	ショカンブンノ	シ147	書簡分の書き方	寺子屋手本		かるた会、散歩、蛸狩り、納涼、茸狩り、月見などに人を誘う文例が示され、雑の部には死亡、出産、入院などの他戦死者の遺族への文など時代の背景がわかる。		0	原本	17×25
1207	ショカン	シ148	書簡	藤屋萬三郎	南黒田	鷺野南村あて注文のあった書籍についての問い合わせ、天保10年		1839	袋098 原本	1枚
1208	ショカン	シ149	書簡	河内屋古兵衛	南黒田	鷺野南村あて、書籍代金の連絡。三国志、戦国策、山海教、えなんじなど中国の書籍名がある。		0	袋098 原本	1枚
1209	ショカン	シ150	書簡	京屋浅次郎	南黒田	鷺野南村あて、注文に応えられない書物の連絡。		0	袋090 原本	1枚
1210	ショカン	シ151	書簡	京屋浅次郎	南黒田	鷺野南村あて書物代金二割引との連絡。大塩他二〇名磔罪となつたとの情報を記録している。	大塩平八郎の乱	1839	袋098	1枚
1211	ショカン	シ152	書簡			作者、年代とも不明、大谷川出手の件。川堀人用、割り当て覚え。		0	袋100	6枚 28×43 30 ×43 15×35 1 5×50 25×28 16×75
1212	ショカン	シ153	書簡	南黒田庄屋	南黒田	畝数改めの件		0	袋100 原本	1枚
1213	ショカン	シ154	書簡	南黒田庄屋	南黒田	井手浚えの件		0	袋100 原本	1枚
1214	ショカン	シ155	書簡	筒井村庄屋	筒井	筒井村庄屋より阿部萬左衛門あて		0	袋100 原本	1枚
1215	ショカン	シ156	書簡	南黒田庄屋	南黒田	大谷川浚えの件		0	袋100 原本	1枚
1216	ショカン	シ157	書簡	鷺野彦八(南黒田庄屋)	南黒田	大谷分水の件		0	袋100 原本	1枚

ID	読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
1218	シヨカン	シ158	書簡	三秋村庄屋	三秋	すぐず取りの件三秋村から三通。南黒田村の者が一八名もすぐず取りに来たことにたいする苦情。		0	袋101 原本	3通
1217	シヨカン	シ159	書簡	橋東太郎		明治口年11月2日。角力興業に関する赤星あての文書。松前尋常高等小学校の用紙を利用している。		0	袋102 コピー	26×33 1枚
1220	シヨカン	シ160	書簡	窪田節二郎	昌農内	共有地売金処分		0	袋103 原本	18×74 1通
1187	シヨカン	シ161	書簡	鷺野彦八	南黒田	一部分のみあり		0	袋030 原本	28×43 2通
1184	シヨカン	シ162	書簡	鷺野彦八	南黒田	北黒田村庄屋喜三衛門への文書。大谷川南堤に新しい樋を掘ることに対する連絡。		0	袋030 原本	28×41 1通
1185	シヨカン	シ163	書簡	北黒田組頭	北黒田	南黒田村へ認めた文書。大谷川堀の出でていない。		0	袋030 原本	16×41 1通
1182	シヨカン	シ164	書簡	武市丈助		南黒田鷺野梅三郎宛の手紙。六郎佐衛門新井手を握っても水は少ししか回らない。		0	袋030 原本	17×78 1通
1183	シヨカン	シ165	書簡	阿部萬左衛門		鷺野為衛門への手紙。土川筋の件について大宿まで出るように仙波氏からの連絡。	土川	0	袋030 原本	14×43 1通
1180	シヨカン	シ166	書簡	久保孝介		米湊村より南黒田彦八の手紙への返事。吾川村から南黒田村への番水は北黒田村へ差し止めるよう知らせているが・・・長さ三メートルもある手紙。	番水	0	袋030 原本	14×165 1通
1181	シヨカン	シ167	書簡	鷺野彦八	南黒田	武市丈助に書いた新井手堀は流量(もらい水)がすくないので駄目という手紙。		0	袋030 原本	16×164 1通
1221	シヨカン	シ168	書簡		筒井	赤星平次郎宛のハガキ。和田鹿太郎から郡農会の案内(彩濱館)、開運講世話人から、憲政党愛媛支部からの3通がある。	農会	0	袋104 コピー	3通
1051	クボタセツジロ	シ169	窪田節二郎書簡	窪田節二郎	昌農内	重川寅五郎あての手紙		0	袋105 原本	14×32 1通
894	シヨカンチョウ	シ170	諸官庁通知書類	本多百太郎	中川原	溝畔を国有地へ編入は大正4年11月30日確定測量を国へ届けたことで成立。溝は耕作面より低いことが条件である。	耕地整理	1906	コピー	26cm 40枚 副本 (正本のコピー)
895	ジョキョウコウ	シ171	如鏡稿	武智五友		大正12年6月18日、西園寺源透の裏書きがある。シ172と同じもので活字印刷したものをコピーしている。読みやすい。	武智五友墓誌銘	1923	コピー	26×18 20枚
892	ジョキョウコウ	シ172	如鏡稿	武智五友		大正12年6月13日武知懋編。鹿島近くで「・・・26日の夜雨風いとけはし夜くらきこと牛の如し、船はゆれ走りに走りて・・・」と大嵐の状況を述べ「夜あけて見れば鹿島の北表の沖に舟はいかりおろしたるなり」		1923	コピー	26×18
886	シヨキロク	シ173	諸記録	昌農内区長	昌農内	耕地整理登記完了通知から昭和6年までの大字の予算決算書。最終は昭和6年昌農内青年部の決算書まで。	電灯量集金簿、 墓地掃除費、昌 農内青年会	1931	原本	25×18
903	シヨクインメイ	シ174	職員名簿	松前町役場	全	明治～大正の北伊予村、岡田村、松前町の職員名簿。収入役、村長、助役、書記、技術員などの氏名、生年月日、住所、退職年月日とその理由を記録。勲六七八等は八名いる。		0	原本	26cm 15枚
904	シヨクインメイ	シ175	職員名簿	松前町役場	全	明治23年起の松前町役場と学校の職員名簿。高等科正教員、高等科代用教員、尋常科正教員、尋常科代用教員、尋常科准訓導、専科訓導、本科正教員、代用教員、本科正教員、准訓導の氏名がある。		1890	原本	27×25 175枚
905	ジョセイホウ	シ178	女性宝典			作者・年代不明。一休和尚の母、小野小町一代由来記、平清盛の女など女性の生き方などの短編で構成されている。		0	原本	26cm
885	シヨムシヨレイ	シ179	庶務書類雑	北伊予村	北伊予	満蒙開拓青少年義勇軍愛媛中退名簿がある。松前町1名、北伊予村2名の隊員名がある。その他庶務書類一式がまとめられ、太平洋戦争前の世情を知る手がかりとなる。	満蒙開拓義勇軍 愛媛中隊名簿	1941	原本	26×18
1283	シンゲンコウア	シ181	信源講幹旋依頼書 一通	知恩院	全	浄土宗総本山知恩院より赤星傳作あての依頼状。明治13年4月。		1880	コピー	22×28cm 1枚
924	ジンコウキ	シ182	塵劫記	吉田光由	町内外	江戸時代を通じて最も普及した大衆数学書、鷺野塾使用のもの。		1627	原本	23×16 47p
922	ジンジャメイサ	シ183	神社明細	伊予国、伊予郡大小神社	全	明細帳よりの抜粋、稻荷神社、玉生八幡大神社、貴布弥神社、伊予神社、高忍日売神社、恵依弥二名神社		0	コピー	26×18 40枚
925	ジンジャレイ	シ184	神社例祭神幸儀式調査書	神社総代会		発行年不明。伊豫神社、高忍日売神社、恵依弥二名神社、玉生八幡大神社、稻荷神社、沖神社の御輿の数、渡御範囲などの調査書。	御輿の渡御	0	コピー	26×18 7枚
185	シンノブ	シ185	しんのぶ	池内文雄	神崎	伊予神社社務所昭和34年5月5日発行のパンフレット「伊予神社記」である。延喜式内名神社大伊予神社は神埼にあるとの志賀剛説を紹介している。		1959	コピー	26cm 25p
882	シンノブ	シ186	志ん乃ぶ	伊予神社	神崎	昭和26年7月～昭和33年7月まで(創刊号～9号)。創刊の辞には敵弾のもと、命を失いそうになると「ところの氏神様」と祈る話を例題に、しんのぶ様の記事を編集発行。		1958	コピー	26×18・原本はガリ版印刷
883	シンノブ	シ187	志ん乃ぶ	伊予神社	神崎	昭和34年7月～昭和45年4月(第10号～20号)。10号石井壽夫の「謗法の国は亡びぬ」として、正義に味方する神はいないと説く。	勝てば官軍	1970	コピー	26×18
951	シンバイゴト	シ188	心配ごと相談所事業実施報告書	松前町社会福祉協議会	全	教育青少年問題の相談件数は、この間1件あり、年間開催相談日は45～50日である。出席した相談員延べ人数は150～185名である。	民生委員	1970	コピー	26×36 昭和45年～51年
901	シンミンカンゲ	シ190	親民鑑月集	松浦宗案	北宇和	愛媛県教育会北宇和部会が昭和8年11月発行。農学者松浦宗案の手記を土居家秘篋より公開して紹介。ハス、クワイ、ヒシ、マコモ等の水草も食料となる。	戦国時代の農書、	1933	復刊	18×26cm 159p 99枚
736	シンミョウセキ	シ191	神名石井石垣寄付人名帳	永田区長	永田	10円中村久蔵より20銭を最低とする51名の寄付台帳で合計104円を集めている。		1900	コピー	12×37 7枚
880	ミコシイッケン	シ192	御輿一件駈引留	三好辰松	東古泉	明治16年9月9日。両古泉村の御輿の喧嘩で、係が辞表を出すに至るの顛末を記録した。	御輿の喧嘩	1883	コピー	26×18 11枚 正本
737	ミコシニカカワ	シ193	神輿に係わる諸費			明治30年～明治40年。持主として大溝村・永田村・恵久美村・上高柳村・昌農内村の5村と記されている。		1907	コピー	13×20 26枚
1053	シゲノブガワエ	シ195	重信川絵図		町内外	作者年代不明。鎌の位置が正しく描かれている。渡し場出合い附近の絵図としてよくできている。他の場所も重要な絵図。	岡田村、余戸村、垣生村	0	袋107	5枚
888	シユウギハン	シ196	衆議判廻券			発行所、発行年不明。小春の部、口の花の部、野の部、頭巾の部、枯れ野の部に分けた句集。そのなかに「小春日や川の掃除は老と孫」の句あり。		0	コピー	18×26 文庫目録に未登録
184	シユウギハ	シ197	衆議判廻券					0	コピー	26cm 28枚 文庫目録に未登録
186	シヨエイギ	シ198	諸営業に係る書類留	浜村会計係	浜村	伊予郡浜村他3ヶ村役場の書式や税金の額の一覧できる行政資料。自転車は50銭、乗馬2円、猫車25銭などの年税額が示されている。		1886	製本	91枚
1202	シュツサクシエ	シ199	出作仕役支払簿 2	出作会計	出作	土木及び水利に係わる人別仕役支払い簿、昭和2年～20年。		1945	袋084 原本	25×17 19冊
1232	シュツサクシエ	シ200	出作仕役支払簿 3	出作会計	出作	昭和21年から昭和37年。日付、仕役会計、金額と氏名からなり、昭和22年の人夫賃支払い合計は13785円で1378人5分役になる。毎年計算している。		1962	袋080 原本	17冊
1145	シュツサクルー	シ201	出作ルース台風関係書類 1	出作区長	出作	関係書類多数あり。台風による国木川の被害復旧工事の同意書59人の書名と捺印、総工費50万8千円を国庫補助33万2千円、不足金37万7千8百を反別割430円を集めている。	水害復旧	1952	袋091 原本	
1146	シュツサクルー	シ202	出作ルース台風関係書類 2	出作区長	出作	農林大臣広川功禪へ提出した書類一式と負担金徴収簿、工事日誌や資金台帳がある。昭和27年1月11日5名がスコップ10本と射す16本を利用して、川床掘りから始めている。	水害復旧	1952	袋092 原本	

ID	読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
1143	シュッサクルー	シ203	出作ルース台風関係書類 3	出作区長	出作	関係書類多数あり。垣根川の工事設計図、計画書、人夫使役簿、徴収簿、工事日記、人夫役簿などひと揃い保存。このとき大工10人、石工126人、人夫750人を要している。	水害復旧	1952	袋O93 原本	
1162	シュッサクルー	シ204	出作ルース台風関係書類 4	出作区長	出作	人夫賃、工事日誌、材料受払簿、原材料品受払簿、請求書その他。昭和27年関係書類5部あり、アーオで識別されている。		1952	袋O94 原本	冊子で保存されている。
1144	シュッサクルー	シ205	出作ルース台風関係書類 5	出作区長	出作	ルース台風災害復興の書類多数。予算書決算書、領収書綴り、事業費徴収簿など重要書類がまとめられている。	水害復旧	1952	袋O92 原本	
1288	シュウシン	シ206	修身書便解(1)	近藤伊三郎	全国	巻1から巻5まで。学問、忍耐、慈愛、礼法、正直、孝行、友愛、細心などの読み物。		1883	原本	18×12 79枚 耕文書樓版 太田熊衛文庫
1289	シュウシン	シ207	修身書便解(2)	近藤伊三郎編輯	全国	巻之7から巻之12、10巻には敬老、孝弟、朋友、慈愛、実学：ミノアルコトノカクモン、節儉：ムエキナコトニモノヲツカヒステズシテトヨクケンヤクスルコトと解説する。		1873	原本	18×12 26枚 耕文書樓版 太田熊衛文庫
1296	シュッサク	シ208	出作遺跡 1	松前町教育委員会	全松	鉄製品の出土に「…鉄製品資料は、松山平野における古墳時代中期の手工業の分業形態を知る好資料であると同時に、日本における鉄器生産に貴重な資料を提示した…」		1993	製本	19×26 204p
1304	シショノ	シ209	四書之部	讃岐百年	全国	大学章句畢。經典餘師之序		1870	原本	26×18 21枚 太田熊衛文庫
1332	シキノリヨ	シ210	子規の良友 武市庫太	福島正利	永田	武市庫太の評伝。子規との交遊を縦軸とした、読みやすい作品。庫太の基本的な文献。		1991	正本	19×13 150p
1349	シショハク	シ211	四書白文 孟子 上		全国	孟子序説 史記列傳二曰。孟軻ハ口人也。……		1849	製本 綴じ	和 原本 郷田熊衛文庫
1350	シショハク	シ212	四書白文 孟子 下		全国	孟子下、離婁章句上 孟子曰、離婁力之明公輪子之巧。……		1849	製本 綴じ	和 原本 郷田熊衛文庫
1396	ショケイ	シ213	書經 卷之下		全国	発行年著者不明。周書から秦誓まで		0	原本 綴じ	和 18×12 63枚 太田熊衛文庫
1397	ショケイ	シ214	書經 卷之上		全国	書經 虞書 堯典から微子まで。著者、発行年不明。		0	原本 綴じ	和 18×13 41枚 太田熊衛文庫
1398	シュンジュウ	シ215	春秋 (全)		全国	著者発行年不明。春秋經。隠公元年から哀公元年まで。春秋湖氏。		0	原本 綴じ	和 18×13 92枚 太田熊衛文庫
1399	ショウガク	シ216	小学示蒙句解 (一)	中村口齊	全国	小学トハ小子ノ学ブトコロデ学ブト小シ故小学トイウ。……		1690	原本 綴じ	和 25×18 43枚 太田熊衛文庫 浪華書肆
1400	ショウガク	シ217	小学示蒙句解 (二)	中村口齊	全国	明倫ハ倫ヲ明ラニストヨム。倫ハ人ノ倫ナリ……		1690	原本 綴じ	和 25×18 43枚 太田熊衛文庫 浪華書肆
1401	ショウガク	シ217	小学示蒙句解 (三)	中村口齊	全国	敬ノ字ヲツツシムコトヨミ、ウヤマフトヨム。又ソルル意アリ。……敬身について論じたもの		1690	原本 綴じ	和 25×18 43枚 太田熊衛文庫 浪華書肆
1402	ショウガク	シ219	小学示蒙句解 (四)	中村口齊	全国	イニシヘラカンガフトヨム。朱子ステニ立教明倫敬身ノ三篇ヲシルス。……稽古について識す		1690	原本 綴じ	和 25×18 44枚 太田熊衛文庫 浪華書肆
1403	ショウガク	シ220	小学示蒙句解 (五)	中村口齊	全国	嘉言(上) 横渠張先生日題ヨリ下ハ、立教ノ義ヲヒロムルナリ横渠ハ地ノ名張ハ姓ナリ。……		1690	原本 綴じ	和 25×18 39枚 太田熊衛文庫 浪華書肆
1404	ショウガク	シ221	小学示蒙句解 (六)	中村口齊	全国	嘉言(中) 家長ハ一家ノ尊長ノ名 家事ヲツカサドリ親族ヲスフル者ナリ。幼タル者何事ヲモ必一ツ家長ニテハカリ……		1690	原本 綴じ	和 25×18 39枚 太田熊衛文庫 浪華書肆
1405	ショウガク	シ222	小学示蒙句解 (七)	中村口齊	全国	嘉言(下) 仁ハ人ノ全徳ナリ仁トハ私欲ナク心ノ徳全キ者ヲ云。……		1690	原本 綴じ	和 25×18 78枚 太田熊衛文庫 浪華書肆
1406	ショウガク	シ223	小学示蒙句解 (八)	中村口齊	全国	善行(上) 此古人ノヲコナヒツル善行ヲ以テ立教明倫敬身ノ嘉言ニシルシアハセテ其實證セラルルコトナリ……		1690	原本 綴じ	和 25×18 38枚 太田熊衛文庫 浪華書肆
1407	ショウガク	シ224	小学示蒙句解 (九)	中村口齊	全国	善行(中) 漢陳孝婦 漢ハ東漢ナリ陳ハ國ノ名孝婦ハ号ナリ其シウトメニ考アツバナリ年一六ニシテ……		1690	原本 綴じ	和 25×18 37枚 太田熊衛文庫 浪華書肆
1408	ショウガク	シ225	小学示蒙句解 (十)	中村口齊	全国	善行(下) 是ヨリ下ハ敬身ノコトヲ實ニスルナリ……		1690	原本 綴じ	和 25×18 26枚 太田熊衛文庫 浪華書肆
1409	シキョウ	シ226	改正訓点 詩經 (上)		全国	ある日予に問われる。曰く詩は何のために作るのか、予これに答えて曰く。人生まれて……		0	原本 綴じ	和 25×18 26枚 太田熊衛文庫 浪華書肆
1418	ショウガク	シ227	小学(内)校本	山崎点校卒		立教第一、明倫第二、敬身第三		1843	原本 綴じ	和 26×18 73枚 太田熊衛文庫
1419	ショウガク	シ228	小学(外)校本	山崎点校卒	全国	嘉言第五、善行第六		1843	原本 綴じ	和 26×18 73枚 太田熊衛文庫
1420	ショウガク	シ229	小学中等読本字解	木澤成庸	全国	巻1字解、巻二字解、巻三字解		1882	原本 綴じ	和 18×13 49枚 太田熊衛文庫
1426	ジュウハッシ	シ230	十八史略字解大全 (下)	堤大助	全国	小史通而再從兄弟謀主每事咨名論素輕……巻圖下に意味をカタカナで記し返り点を打ち読みやすくしている。		1878	原本 綴じ	和 18×13 23枚 太田熊衛文庫
1427	ジュウハッシ	シ231	十八史略字解大全 (上)	堤大助	全国	太古の説明は ハナハタフルシト オオムカシライウのように漢字の下に意味をカタカナで記入説明している。		0	原本 綴じ	和 18×13 76枚 太田熊衛文庫
1429	ショウカシ	シ232	唱歌集(初級)	伊沢修二	全国	小学校・師範学校・中学校教科書用。凡ソ教育ノ要ハ徳育・智育・体育ノ三者ニ在リ而シテ小学ニ在リテハ最モ宜ク徳性ヲ…	君が代、ちょう ちょう	1881	原本	13×18 28枚 太田熊衛文庫
1444	シゼンタイ	シ233	自然体験学習の実践をめぐって	全国学校ビオトープネットワーク	全国	学校ビオトープづくりと自然体験学習の試みの講演／発表資料集である。表題の前に「総合的な学習の時間」の活用のためにとある。	自然体験	2002	製本	21×30 60p 自然環境復元協会
1445	シュッサク	シ234	出作遺跡とそのマツリ	松前町教育委員会	出作	古墳時代松山平野の祭祀と政治と副題があり「教育の町」宣言30周年記念の特別展図録。	出作遺跡	1994	製本	18×16 39p

ID	読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
1446	シコクチク	シ235	四国地区人権教育研究大会資料	四国地区人権教育協議会	製本	第52回大会の記録である。自主活動、進路保障、人権確立をめざす地域の教育力、その他にわたっての実践記録である。		2005	製本	21×30 167p
1450	シンキウ	シ236	鍼灸重宝記	平住専菴	全国	経路要穴について、針灸諸病の治療法		1749	原本	和 11×16 170枚 太田熊衛文庫
1449	シインガン	シ237	詩韻含英異動辨 (上)		全国	文化14年江戸書林刊、上平声、下平声、上声、去声、入声		1817	原本	18×12 江戸書林 太田熊衛文庫
1460	シンベンシ	シ238	新編 修身教典 高等小学校用巻2		全国	天智天皇、豊田秀吉、加藤清正、中江藤樹の生き様の一部から教訓を引き出して編集。	修身	1900	製本	22×15 111p 普及会 太田熊衛文庫
1473	ショウガツ	シ239	小学校各教科教授法	小泉又一・乙竹岩造	全国	教育教科書として教育学、教授一般の教授法を東京高等師範学校教授が書いている。修身から裁縫科まで。		1906	原本	22×16 234p 太田熊衛文庫
1478	シヨクモツ	シ240	食物の養生	鈴木商店出版部	全国	50～60pの雑誌を9冊合本している。主として病気を食事の改善により対応できることを種々に編集		1923	製本	22×15 450p余
1513	シコクチク	シ241	第52回 四国地区人権教育研究大会報告集	四国地区人権教育研究協議会	全県	人権確立をめざす教育の創造をめざした基調報告と実践記録、自主活動、進路保障、大学教育などの大会報告書。		2005	製本	21×30 176p
1515	シゼンカン	シ242	自然環境復元の歴史と21世紀の展望	自然環境復元研究会	全国	自然環境復元研究会の10周年シンポジウムの資料集		1999	製本	21×30 144p
1516	シゼンカン	シ243	自然環境復元研究 1(1)	自然環境復元学会	全国	巻頭言を杉山恵、総説を品田稷、原著論文2篇、短報、事例報告から成り立つ学会誌。		2003	製本	21×30 91p
1517	シゼンカン	シ244	自然環境復元海外調査団報告書	NPO法人自然環境復元協会	全国	ドイツ、スイスへ研修視察した報告集		2001	製本	21×30 76p
1533	ジンジョウ	シ245	尋常小学国史 下巻	文部省	全国	織田信長～昭和天皇まで。尋九重川兼繁の署名がある。第一ページに、神武天皇から今上天皇までの歴代天皇が表示されている。	明治天皇東京行幸の折農事を見たまふ、大砲、標識調査ツバメ	1929	製本	22×15 156p
1534	シヨトウカ	シ246	初等科国語 4 教師用	文部省	全国	付録に綴り方指導要項、話し方指導要項。		1942	製本	21×15 278p
1536	ショウガク	シ247	小学国史教師用書 上巻	文部省	全国	建国の体制、国内の統一、朝鮮半島との関係、文化の進歩、支那との交通、政治の改新として氏族制度が新しい文明に対応できないことを述べている。		1936	製本	22×15 270p
1537	ショウガク	シ248	小学国史教師用書 下巻	文部省	全国	江戸幕府の成立、社会組織、海外諸国との交流、鎖国など	白虎隊、五稜郭の戦	1933	製本	22×15 439p
1538	ジンジョウ	シ249	尋常小学 国語読本 巻4	文部省	全国	1本杉には、「学校の行きかへりに道草をくったり、石をなげたり、生物をころしたりするやうな子どもは、大ていくなものになりません」とある。	フクロウ「フリツケハウセ」、ヤマガラ	1928	製本	22×15 96p
1539	ショウガク	シ250	小学国語読本 尋常科用 巻八	文部省	全国	青空、つばめはどこへ行く、大連だよりなど	広瀬中佐、ひよどり越	0	製本	21×15 162p
1549	ショウトク	シ251	聖徳太子伝暦 1巻上	平氏 撰	全国			0		
1553	シゲノボガ	シ252	重信川の下流域、左岸平野部における自然環境とその変動に対する住民の意識構造の研究	ERAS	全町	トヨタ財団の支援を得て、松前町の自然を表そうとした作品、付属資料集は別冊に保存した。		1982	ガリ版	26×36 58p
1561	ショガクジ	シ253	初学人身窮理 後編 中之巻	松山棟菴編纂	全国	生体官能第2 呼吸や血液循環を解説。		1885	製本	和 22×15 46枚
1562	ショウガク	シ254	小学中等読本 寛文 巻2	木澤成肅	全国	漢文第一 清寧帝貴儉「清寧天皇即位専用心政治。憂天下風俗不得其宜。…」		1881	製本	和 23×15 43枚
1563	シンコクシ	シ255	神国神字辨論 全	尾張八事山門人	全国	「本師老大和上昔日行呂波問う辨一卷ヲ著テ以テ天下ニ迷ヲ解ク。…」		1779	製本	和 26×18 42枚
1566	ショウガク	シ255	小学纂註 内編 3巻			小学 巻3 敬身 巻4稽古、敬身		0	製本	和 25×18 22枚
1567	ショウガク	シ256	小学句讀 外編			巻5外編 天台陳選句讀「討日天生丞民有物有則民之……」		0	製本	和 27×19 51枚
1579	シンセンジ	シ257	新選助字法 全	中島幹事	全国	漢字の助字について定義と活用、古文の用例を示している。		1893	製本	19×13 203p
1586	シンガクソ	シ258	心学叢書 第3集	赤堀又次郎	全国	御代の恩沢、銀のなる木の伝授、和合長久の伝授、開運出世伝授などを論ずる。		1905	製本	22×15 305p 博文館
1595	ジンカクノ	シ259	人格の力	紀平正美	全国	教育者の修養法とはどんなものか。上編は原理論、下編は方法論からなる。		1922	製本	19×13 329p 大同館
1610	シンセンコ	シ260	新撰廣集玉編 全	松本正蔵	全国	一から始まり、音訓で表示 カズ、モツバラ、ハジメ、ヒトツ、スクナシ、ヒトエニ、オナジ、キワマル、マコトとある		1902	製本	和 12×17 326枚
1612	ジリンギ	シ261	字林玉編	藤澤甫識	全国	明治16年6月3日繕之とある。温順による字引。		1872	製本	和 13×19 570枚
1197	スイヘンカナ	ス001	水位変化・試さく箇所標示図	東洋レーヨン	全	昌農内では4カ所、上高柳と恵久美は1カ所、西古泉7カ所、大間はなし。地下水位の影響をどのように考えるのか分かるようである。	水位変化調査箇所	1938	袋25	63×46 1枚
931	スイガイリサイ	ス002	水害罹災者に対する慰問	松前町役場	松前	昭和18年7月23日水害罹災者に対する慰問救助品受領者名簿。6名の氏名受領印があるのみ。	水害	1943	原本	24×17 1枚
936	スイコウ	ス003	翠光	東レ(株)愛媛事業場	全	東レ愛媛事業場操業40周年記念誌、昭和53年。生産設備能力の向上につれ工場内の在籍人数の減少を示すグラフあり、改革の痕が読み取れる。	レーヨン一貫生産時代の工場全景	1978	製本	26×18 17p
1079	スイリチョウサ	ス004	水利調査(徳丸水利関係)	八束篤(徳丸惣代)	徳丸	大正2年。養水獲得のため水利費の負担先と米で支払う数量が示されている。重信川の横堀を中止して伏樋とする徳丸の希望がまとめられている。		1913	袋126	コピー 24×98 1枚
933	スイリクミアイ	ス005	水利組合規約書	北伊予村	北伊予・鶴吉	北伊予村鶴吉普通水利組合設置に関する一連の書類。灌漑、排水のため水路溜め池の浚渫、修築、堰堤、水門及び堤防水路用作道の修築保存を目的とする。	灌漑水路	1932	コピー	26×18 20p
932	スガヤハンノジ	ス007	菅谷半之丞遺跡	重川家俊		松前中学校在職当時の著作、松前巷説赤穂義士伝		0	ガリ版	20×18 7p
930	ズカンワシノケ	ス008	図鑑(鷺野家)			作者、年代不明。人物、動植物絵画。三光鳥が図示されておりこのころ町内でも見かける野鳥であったろう。		0	原本	20×15 19枚
934	スノウチノボヨ	ス009	巢内信善遺稿	早川純三郎		日本史籍協会、大正11年11月25日発行。伊予国大洲の人巢内信善の歌集および小伝。		1922	コピー	26×18 190枚
1054	スマダガワサ	ス010	角田川差樋一件	昌農内区長	昌農内	慶応三年～明治二六年。毛筆文書のひと揃いである。原文を一般公開するとよい。明治26年水利惣代人は窪田節二郎、升田熊蔵、喜安松五郎、重川善蔵、重川勝茂、重川寅五郎である。		1893	袋108	原本 母冊1 16通

ID	読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
935	スマダシヨウガ	ス011	隅田小学校	岡田村	岡田	隅田小学校設置に関する一連の書類、明治19年。所在地は伊予郡2番学区北川原村字竹の町353番地、設置の平面図がある。学齢人員544人である。	教育	1886	コピー	21×14 16枚
1423	スイヘンノ	ス012	水辺のあるまちづくりに向けて	松前町まちづくり熟	全町	松前町に現存する湧水や川は我々が思っていた以上に素晴らしい、松前町の「顔」に十分なり得る要素がある。塾生二〇名と事務局の成果。		1992	製本	18×26 83p
958	ソウトウシュウ	セ001	曹洞宗晴光院寺院規則	曹洞宗管長	神埼	昭和17年3月17日。第一条の名称晴光院から全65條ある。		1942	コピー	26cm 11枚
963	セイウチヨチ	セ002	青壮儲蓄会社規約	忽那栄左・大西和一郎	北川原	規約は23條からなり、その1条は「本会社は青壮有志を以て協立し千株と定め日払の儲金を出し口通の為賃金増利するを目的とする」である。		1892	コピー	26cm 明治25年1月13日
960	セイヤ	セ003	静夜(巻)	雲雀山 選(石山)	昌農内	規約23条、明治25年1月13日、昌農内満月会俳句相撲。18名を東西にわけ俳句を競わせ、最後のページに大関を表示している。楽しい夜を泣き暮らしけり籠の虫の句あり。		1892	コピー	26cm 8枚
966	セキゼンカイキ	セ005	積善会規約	教深寺	大間	明治中期。1 本会掛金は陰暦毎月朔日と定め取扱者は壱口に付金甲42銭、乙12銭宛掛戻しすべきものとす……30名で構成されている。		0	コピー	24cm 12枚
1055	セキサンコウリ	セ006	積算降雨量対照図		全	昭和14年 著者不明。平年と昭和9年、昭和14年を比較した積算図。干魃の時は5月6月から積算雨量の伸びが小さい。	積算図	1939	袋109	48×116 1枚
908	セジュンチョウ	セ007	畝順帳 大溝村	大溝村戸長	大溝	段別畝順帳 3冊の第1号、明治9年6月発行。		1876	原本	26×37
907	セジュンチョウ	セ008	畝順帳 永田村	永田村戸長	永田	文庫目録は明治19年発行とあるが、原本は明治9年6月になっている。		1876	原本	26×37
941	セジュンチョウ	セ009	畝順帳 神崎村	戸長	神埼	明治19年。一番から始まる神崎村の畝順帳。字名、地目、広さ、所有者で表示される。林が多く、荒蕪地、藪などがある。	山王原の面積	1886	コピー	26×37
940	セジュンチョウ	セ010	畝順帳 昌農内村	戸長	昌農内	明治9年。一番字土居 西道長3間4合巾8合5尺 溝長12間8合 巾4合 田1反二畝17歩 重川寅五郎からはじまり、地租改正により宅地や耕地を調査、不正なしと最後に署名がある。	地租改正	1876	コピー	26×37
937	セジュンチョウ	セ011	畝順帳 浜村	庄屋	浜	明治9年。伊豫国伊予郡濱村とあり、一番字高砂 1畑2畝拾歩 村中持から、はじめり最後には地租改正で調査し隠歩などの不正なしと署名している。	隠歩	1876	コピー	26×37
946	セジュンチョウ	セ012	畝順帳 西古泉村	戸長	西古泉	明治9年。字壱番地神子賀鈴 田2反9歩で、西道、北道、南道、西溝の巾や長さが示されている。田が最多、畑、墓地、宅地、林、藪、池などが示されている。		1876	コピー	26×37
945	セジュンチョウ	セ013	畝順帳 中川原村	庄屋	中川原	明治9年。第八大区一小区伊予国伊予郡中川原村で作成したもの。字名、番地、地目、面積、所有者名があり、必要なところは道路、溝渠の幅と位置を表している。		1876	コピー	26×37
906	セジュンチョウ	セ014	畝順帳 南黒田村	南黒田戸長	南黒田	明治9年発行。一番字横田、地目は田、面積、道路、堤塘の長さや巾を明記。地目は宅地、田、畑、溜池、竹林、藪などがある。田35町、畑17町と最後にまとめている。		1876	原本	26×37
942	セジュンチョウ	セ015	畝順帳 上高柳村	戸長	上高柳	明治9年。田、畑、村藪敷地、笹敷、林、竹生地、墓地、道路、堤塘などの面積が集計されている。田が最多。		1876	コピー	26×37
943	セジュンチョウ	セ016	畝順帳	戸長	徳丸村	明治9年。田、畑、泉地、林、秣場、砂敷等の面積で集計され、田は109町六反六畝四歩、畑1町四反五畝27歩、林2町六畝二〇歩である。		1876	コピー	26×37
912	セジュンチョウ	セ017	畝順帳 筒井村	戸長	筒井	明治12年発行。一番から一八四〇番までの地目、面積、道や溝の位置、長さ、巾等を示し、官有地四町二反四畝十歩、民有地百八十九町三反一畝十歩となっている。		1878	原本	26×37
913	セジュンチョウ	セ018	畝順帳 中川原村	戸長	中川原	明治9年発行。一番から六百六十二番までの所有者と面積、字名が記録されている。		1876	原本	26×37
909	セジュンチョウ	セ019	畝順帳更正願	庄屋	大間村 他6ヶ村	大間、恵久美、北川原、浜、北黒田、市坪、保免		1888	原本	26×37
944	セジュンチョウ	セ020	畝順帳更正願	戸長	出作、鶴吉、東古泉他	出作、鶴吉、東古泉、下吾川、米淡、稲荷、三秋 明治21年		1888	コピー	26×37
939	セジュンチョウ	セ021	畝順帳 筒井村	戸長	筒井	明治12年		1879	コピー	26×37
967	セトナイカイエ	セ023	瀬戸内海沿岸民俗史料緊急調査収集票	松前町役場	松前	昭和49年10月30日、緊急調査をコピーしたものである。		1974	原本	26cm 21枚
959	ゼンコウロク	セ026	善行録	岡本藤枝編集	町内外	昭和13年発行。前年武漢三鎮を攻略した日で、今日は提灯行列の日、知事の題字を得たと述べる。大正11年伊予郡善行録を改訂、故人を選択した。		1938	コピー	26cm 169p 愛媛県教育会伊予部会
965	ゼンコクショウ	セ029	全国消費実態調査報告 愛媛県	総理府統計局	町内外	昭和51年6月。松前町は第1ブロックに集計されている。耐久消費財の1000世帯あたりの数が計上されている。扇風機1710台と1台以上利用されているがルームクーラーは143世帯となっている。	耐久消費財	1976	製本	59p
1114	ゼンショウケン	セ031	禪正軒 大念仏	松前中央公民館	北伊予	公民館だより特集号として発行されたもの。内容は松前町中央公民館編「我が郷土」よりの抜粋で、首のない馬が鈴を振って歩いていた話と禪正軒の大念仏がさびれる傾向はよい方向かと問う。	平若左近	1978	袋011原本	26cm 3枚
910	センゾダイダイ	セ032	先祖代々控	玉井健次郎	北伊予	上野玉井家の文書、先祖代々の控である。現地へ加藤左馬助の時代に来たとされている。		1780	コピー	13×18
962	センボツシャマ	セ033	戦没者名簿	北伊予支所	北伊予	軍人、軍属の戦没者、死亡場所、年月日、官等級、遺族名などの一覧表。昭和30年発行		1955	原本	26×19 23枚
938	セカイショウバ	セ034	世界商売往来			そもそも商事において…と書き始める、漢字を覚えさせるための習字の原本である。	習字の原本	0	コピー	36×26 正本
964	セカイショバイ	セ035	世界商売往来					0	コピー	17×12 11枚 文庫目録に未登録 副本
911	セイネンコウロ	セ036	青年公論			忽那蔵書印あり、青年公論社発行。9月、10月、11月号の合本である。		0	製本	文庫目録に未登録
1324	センジカノ	セ037	戦時下の中学生 一日中戦争勃発より太平洋戦争まで	仲野 和	全県	石手川堤防開墾労働奉仕の写真に見る堤防林が美しい。そのほか戦時下の生活が表されている。		2002	製本	21×15 85p
1333	ゼンコクコ	セ038	全国公民館研究大会記録	第25回全国公民館研究集会実行委員会	全国	分科会(1~10)の記録をまとめている。第6分科会で中学生の「稲作体験活動」を発表、稲作とそのまわりの自然に注目していない。	公民館活動	2003	製本	21×30 103p
1334	ゼンコクコ	セ039	全国公民館研究集会	第25回全国公民館研究集会実行委員会	全国	10分科会の記録。だい6分科会で川のきれいを調査している。継続データでの判定でなく今後の発展が期待される。		2003	製本	21×30 81p
1337	セカイノブ	セ040	世界の文化遺産と日本を考える	平沼郁夫	全国	愛媛の文化遺産として、県教委向委員会の筆になる文化財の紹介記事がある。	文化遺産	2003	製本	21×15 146p
1465	センボツシ	セ041	戦没将兵の遺族の為に	陸軍省	全国	傷痍軍人用、その家族用として発行。各種の扶助料とその請求方法を記載。表紙始めに皇后の歌「やすらかにねくれとそ思う君の為にのちささけますらをのとも」		0	製本	22×15 27p 太田熊衛文庫
1468	フツウキョ	セ042	普通教育 世界地理教科書	山崎直方	全国	世界地理を説いている。中等学校地理教科書の体系、最後に大陸を描く方法を解説。		1914	製本	23×15 118p 太田熊衛文庫
1273	ソクイヨオソコ	ソ002	続伊豫温故録	宮脇通赫				0	コピー	23cm 226p
1056	ソツギョショウ	ソ003	卒業証書等	小学校	北伊予	明治19年5月10日南洋小学校を卒業した池内善太郎は明治19年11月1日霊泉小学校の卒業証書を得ている。明治20年8月神崎尋常小学校を卒業。	霊泉小学校、南洋小学校	1886	袋110 コピー	3枚
1326	ソノアユミ	ソ004	祖の歩みを辿る	吉岡 忠	町外(西海町)	「生活の中の教材」を求め続けた著者の力作である。地元根の生えた記録になっている。		1998	製本	21×14 208p
1565	ソクジュウ	ソ005	続 十八史略読本 巻之五	宮脇通赫	全国	清 下「聖祖仁皇帝諱玄昉世祖第三子。母皇后……」		1876	製本 和綴	27×18 82枚

ID 読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他	
46	ダイゴジュ	タ001	第55番小学校	墨水小学校	岡田	学校要覧である。生徒78名授業料は1年23円40銭、教師は鷲野蒔太郎の子息、富次郎である。数学と天文歴術を学んでいる。	1873	コピー	26cm 4p 3枚	
1223	ダイチンソウ	タ002	大智院総代委嘱状	重誉(大智院住職)	筒井	明治42年9月26日。董利権家之公撰に依則総代代任を委嘱すと能仁寺住職の署名がある。	1909	袋104 原本	23×25 1通	
1057	ダイマムラゼン	タ005	大間村全図	大間区長	大間	耕地整理前の大間村の地図、明治40年。耕地、神社、仏寺、河川、堤塘、板橋、本道、支道、作業道、耕地界、村界が示される。	1907	袋112 原本	72×32 1枚	
47	ダイマムラ	タ006	大間村子歳御年貢米人別附分帳	お蔵預り忠兵衛	大間	人名、米の量を受け取った記録である。	1864	コピー	16×36 36枚	
48	ダイマムラ	タ007	大間村御田畑地租帳	大間庄屋	大間	北岡安平氏提供、庄屋の土地から始まり人名、小字名、広さ、等級など詳しく記載している。コピーは中断している。	1686	コピー	46枚	
49	タカイチヨ	タ008	高市慶章履歴書	高市慶章		玉生八幡他各地の神社社掌をつとめ、小学校の訓導となる。大正十年百円を岡田尋常高等小学校へ寄付。	1926	コピー	26cm 7枚	
50	タカオシヒ	タ009	高忍日売神社雑記(等)	高忍日売神社	徳丸	社伝、末社、神社領、氏子など。昌農内村の天保14年の記事、明和8年昌農内村の郷村地坪水帳があり、土居から大反まで38の小字が示されている。	1926	コピー	25cm 40枚	
1058	タカオシシャウ	タ010	高忍社氏子戦没者慰霊塔建設趣意書	加藤良久	徳丸	昭和50年5月。加藤良久建立委員長他復員軍人が終戦30年の節目に亡き先輩戦友をしのび慰霊塔建立の趣意書。	敗戦と終戦	1975	袋112 原本	27×38 1枚
51	タカオシヒメジ	タ011	高忍日売神社資料	高忍日売神社		棟札、社器、天地人総系(系譜)等	1735	コピー	26cm	
52	タガミサンサン	タ012	谷上山参拝日記	門田一貴	町外	記事、俳句、俳画などで綴る谷神山登山記録。目白をおとりで捕る方法が示されている。なかなかとれないと記す。	1967	コピー	16×36 48枚	
53	タケイチクラタ	タ013	武市庫太遺稿	武市庫太	永田	詩、俳句、書簡、系図等	0	コピー	32枚	
54	タケイチバン	タ015	武市蟠松書簡等	武市庫太	永田	大正年間の手紙類、詩を含む書簡集である。	大正年間	0	コピー	26cm 65枚
55	タケサキキウ	タ016	竹崎雲蒙古襲来絵詞	広橋賢光	町外	人馬、舟など各部の色を細部にわたり表記している。敵将の首級を検する図には、執筆者(絵師)がいる。	1892	コピー	160p	
1011	タケチクロエモ	タ017	武智九郎衛門へ差出書付	黒田村	黒田	郷土室文庫には武智九郎兵衛殿へ差出書とある。天明2年3月。「1. 用高21石2斗9升5合 田方」「2. 同……畑方」とある。	1782	袋052 原本	29×44	
56	ダジョウカンニ	タ018	太政官日誌	村上勘兵衛・井上治兵衛	町外	明治戊辰戦争ころの全国的な触書など、行政資料。	戊辰戦争	1868	コピー	26cm 166p 二冊合本
57	タデノハナ	タ019	蓼の花	門田一貴	町外	芹刈が居れば遠くに鳩遊ぶ 冬の部 鳩日々に減りたる柳芽吹きけり 春の部 春、群れが解体し番となって新しい縄張りへと去る様子が捉えられている	カイツブリ	1953	コピー	70枚
58	タノモシカイキ	タ020	頼母子会規約	本田友次郎	中川原	会員29名中松山市在住の者が多い。発起人本多友次郎は松山市末広町2丁目に住んでいる。	頼母子講	1901	原本	26cm 11枚 副一部あり
1060	タノモシカイニ	タ021	頼母子会日誌	古川栄太郎発起	筒井	筒井頼母子会の日誌。1番会から開かれた場所、入札の年月日、最低札の人名と落札人の氏名が記録されている。	1918	袋113 コピー	26×18 21枚	
1059	タノモシカイ	タ022	頼母子会掛金取り次帳	武智靖		明治27年12月起。年月日、氏名それぞれの掛金、残金をまとめたもの。	1894	袋113 コピー	15×35 4枚	
59	タノモシヨウ	タ023	頼母子証券規約	郷田歌次	岡田	郷田歌次が頼母子会から20円を借用した証書、抵当は居宅1棟と諸道具一切で、3名の証人の記名がある。	頼母子講	1902	コピー	26cm 4枚
60	タノモシカ	タ024	頼母子会規約	大坪座	松前	坪内百松発起の頼母子会、総数70名のうち浜、北黒田在住者は47名である。領収書の控えもある。	頼母子講	1919	コピー	25cm 11枚
1062	タハタセダカ	タ025	田畑歌高覚	黒田村庄屋 鷲野	黒田	天明元年	1781	袋114 原本	29×85 1枚	
61	タビユクフウエ	タ026	旅行く風詠	飯田蛇笏		旅行文・俳句・和歌等「秋蟬にわかれを惜しむ小駅かな」静岡用宗駅での句、蟬の種類はツクツクホウシだろうか。	マコモ、コウホネ	1941	コピー	19cm 155枚
62	タマホコノ	タ027	玉鉾乃道草	松浦三郎兵衛		日本国土の始は泥の海鳴り…で始まる神道の解説書。写本をコピーしたもの。	1723	コピー	27×21 12枚	
1063	タモウジンジャ	タ028	玉生神社改築費徴収簿	筒井氏子	筒井	54円50銭:外側 186円50銭:宗意原 115円23銭:仕出しなどの字別、個人の献金もある。	1929	袋115 コピー	25×36 11枚	
1064	タモウシヤカイ	タ029	玉生社改築費分賦名簿	筒井宮総代	筒井	玉生神社改築費分賦名簿記録、昭和3年8月。金額、芳名、摘要二分け記載、20～30円から50銭までの金額で約100名から集金している。	1928	袋115 コピー	25×36 11枚	
63	タモウハチ	タ030	玉生八幡大神井末社社器録	玉生八幡氏子	町内	西古泉村、東古泉村、恵久美村、岡田村、昌農内村、筒井村、濱村、横田村、大溝村、永田村の末社、玉生八幡大神の財産目録	1871	コピー	24枚	
64	タンカソウ	タ032	短歌草稿	忽那久吉		短歌523首の毛筆自書。昭和3年から没年昭和12年までの短歌集。病気の妻を「すこやかな身となれずとも 箸持ちて飯喰うまでになれかと思う」感慨を込めて看病している。	1928	コピー	正	
1165	タハタズリワ	タ036	田畑譲証文の事	鷲野蒔太郎(黒田村庄屋)	黒田村	安政5年戌年12月	1858	袋117 原本	2枚 文庫目録に未登録	
1428	ダイガク	タ037	大学 章句		全国	京都麩屋町錦小路上ル寺田熊治郎の発行であり、郷田有貞所有との署名が残る。	0	原本 綴じ	25×18 枚 太田熊衛文庫	
1454	タイショウ	タ038	大正習字 書翰文	田中三省	全国	大正時代の書翰文を各種記載、年賀状よりお礼文まで。	1917	原本 綴じ	23×15 56p 日吉堂 太田熊衛文庫	
1596	タボウナル	タ039	多望 多幸なる青年へ	青年修養社編	全国	多望多幸である青年はどのような人物かを論ずる。	1935	製本	19×13 410p 宏元社書店	
1600	タイコウキ	タ040	太閤真蹟記八編 1		全国	盛勝蔵太田切口乱入之事など巻之壹から巻之三〇まで一〇巻に分冊されている	0	製本 綴じ	33枚 太田熊衛文庫	
1601	タイコウキ	タ041	太閤真蹟記八編 2		全国		0	製本 綴じ	33枚 太田熊衛文庫	
1602	タイコウキ	タ042	太閤真蹟記八編 3		全国		0	製本 綴じ	33枚 太田熊衛文庫	
1603	タイコウキ	タ043	太閤真蹟記八編 4		全国		0	製本 綴じ	33枚 太田熊衛文庫	
1604	タイコウキ	タ044	太閤真蹟記八編 5		全国		0	製本 綴じ	33枚 太田熊衛文庫	
1605	タイコウキ	タ045	太閤真蹟記八編 6		全国		0	製本 綴じ	33枚 太田熊衛文庫	
1606	タイコウキ	タ046	太閤真蹟記八編 7		全国		0	製本 綴じ	33枚 太田熊衛文庫	
1607	タイコウキ	タ047	太閤真蹟記八編 8		全国		0	製本 綴じ	33枚 太田熊衛文庫	
1608	タイコウキ	タ048	太閤真蹟記八編 9		全国		0	製本 綴じ	33枚 太田熊衛文庫	

ID 読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
1609	タイコウキ	タ049 太閤真蹟記八編 10		全国			0	製本 綴じ	和 33枚 太田熊衛文庫
1611	タイゼンハ	タ050 大全早引節用集	西村源六	全国	音訓の仮名数に随て文字を得る。今、人家日曜の俗語及経史尺積の熟字に至るまで廣大増益す。・・		1805	製本 綴じ	和 12×19 325枚
105	チエイシタイ	チ001 智永四體千字文	不明	町外	手書きの写本 旧松前町郷土室蔵書		0	製本 綴じ 原本	25cm 35枚
116	チカイッピ	チ002 地価一筆限帳	戸長	中川原、八倉	地租改正の時の地価、所有者も明記した一筆ごとの記録		1879	コピー	36cm
106	チカイッピ	チ003 地価一筆限帳	戸長	下三谷・大溝	字、地種、反別、収穫、地価、地租、持ち主		1879	コピー	36cm
107	チカイッピ	チ004 地価一筆限帳	戸長	上高柳・北川原	字、地種、反別、収穫、地価、地租、持ち主		1879	コピー	36cm
108	チカイッピ	チ005 地価一筆限帳	戸長	下三谷・恵久美	字、地種、反別、収穫、地価、地租、持ち主		1879	コピー	36cm
109	チカイッピ	チ006 地価一筆限帳	戸長	昌農内・東古泉・西古泉・永田	4か村の字、地種、反別、収穫、地価、地租、持ち主		0	コピー	36cm 正本
110	チカイッピ	チ007 地価一筆限帳	戸長	上三谷・横田	2か村の字、地種、反別、収穫、地価、地租、持ち主		1879	コピー	36cm
111	チカイッピ	チ008 地価一筆限帳	戸長	宮ノ下、南黒田	2か村の字、地種、反別、収穫、地価、地租、持ち主		1879	コピー	36cm
112	チカイッピ	チ009 地価一筆限帳	戸長	上三谷・神崎	2か村の字、地種、反別、収穫、地価、地租、持ち主		1879	コピー	36cm
113	チカイッピ	チ010 地価一筆限帳	戸長	昌農内他	東古泉村、西古泉村、永田村の字、地種、反別、収穫、地価、地租、持ち主		1879	コピー	36cm 副本
114	チカイッピ	チ011 地価一筆限帳	戸長	徳丸村他	出作村、尾崎村の字、地種、反別、収穫、地価、地租、持ち主		1879	コピー	36cm
115	チカイッピ	チ012 地価一筆限原帳 一番	東古泉村	東古泉			1878	原本	25cm
117	チカイッピ	チ013 地価一筆限原帳 二番	東古泉村	東古泉			1878	原本	25cm
118	チカイッピ	チ014 地価一筆限原帳 三番	東古泉村	東古泉			1879	原本	25cm
119	チカイッピ	チ015 地価一筆限原帳 四番	東古泉村	東古泉			1879	原本	25cm
121	チケンネガ	チ016 地券願	東古泉村	東古泉	土地売買の件		1879	コピー	26×18 副本1冊有
122	チケン	チ017 地券	下井小太郎	大間	郡長の記載した土地売買の件		1880	コピー	26cm 21枚
1164	チケン	チ018 地券	西川武久(伊予郡長)		大間北岡安平氏提供、明治18年7月29日の地券。日本帝国の人民土地を所有する者は必ず此の地券状を有すべしとあり、外国人は土地の所有が出来ないと明記している。温泉郡出淵村の木村知呉の地券がある。		1885	袋118 原本	25×32 4枚
123	チソガク	チ019 地租額(昌農内)	岡田村役場	昌農内	1金11円40銭8厘高橋宇吉から71名の地租額が示されている。合計930円38銭6厘、村持7円40銭8厘は共有地だろう。		1890	原本	25×17 4枚
124	チソナヨセ	チ020 地租名寄帳	昌農内	昌農内	田畑宅地合綴		1937	原本	28×24
125	チソナヨセ	チ021 地租名寄	昌農内	昌農内	田畑宅地合綴		1949	原本	27×20
127	チナミクサ	チ022 知那美久佐	蛸壺鳥岬	町外	肖像入り俳書(俳句と俳人)で京都四条通寺町の湖雲堂発行。県下寺社奉納句7萬首を集めるための世話人の句と肖像を集めたもの。鴨立や山田の稲の苧残り等		1845	コピー	26cm 112枚
120	チホウギョ	チ023 地方行政区書便覧(全)	内務省地理局	町内外	町村名、村数、戸数、口数等明治20年に発行したもの		1887	原本	26.5cm 1094p
126	チモクゴビ	チ024 地目誤謬野取図	東古泉村	東古泉			1887	原本	25×17 5枚
236	チモクヘンカン	チ025 地目変換地価修正の義に付願		東古泉	東古泉村から県令への願いと、奥書。明治14年から明治18年まで。		1881	原本	28×20
237	チモクヘンカン	チ026 地目変換上申取り消願		東古泉	田、畑、宅地。墓地、道、溝、泉ほとんどは明治20年代の文書		1943	原本	27×20
238	チモクヘンカン	チ027 地目変換野取図		東古泉			1880	原本	
239	チュウヨノシヤ	チ028 中予の社寺 1	伊予史談会抜粋	町内外	常信寺資料、石手寺要録で大正15年装幀。古記録などから二期が記した由来記である。		1926	コピー	26×18
240	チュウヨノシヤ	チ029 中予の社寺 2	伊予史談会抜粋	町外	味酒神殿造替遷宮記、議案寺史料、天徳寺史料、法竜寺史料、吉藤神社史料からなる。		1926	コピー	26×18
241	チュウヨノシヤ	チ030 中予の社寺 3	伊予史談会抜粋		東雲神社史料		1926	コピー	26×18
242	チュウヨイノシヤ	チ031 中予の社寺 4	伊予史談会抜粋		大山寺要録:見取り図あり、背景の山を經の森、ゴマの森、岩子山、かコマノ森の3峯が示されている。正宗寺墓標、薬師寺要録:北より見たイスノキのスケッチがある。		1926	コピー	26×18
243	チュウヨノシヤ	チ032 中予の社寺 5	伊予史談会抜粋		小栗社史料、妙有寺史料を昭和3年装幀したもの。妙有寺は天正3年伊予郡松前法華宗の一寺より草創したとある。		1928	コピー	16×18
244	チュウヨノシヤ	チ033 中予の社寺 6	伊予史談会抜粋		久米八幡史料、光泉寺、繁多寺史料、幽谷上人の墓(新聞切り抜き)山林開墾中に発見とある。	幽谷上人	1931	コピー	26×18
245	チュウヨノシヤ	チ034 中予の社寺 7	伊予史談会抜粋		浄土寺資料(附如来院資料)、長健寺資料、大林寺世代表、正宗寺史料。義安寺の本堂焼失とある。		1934	コピー	26×18
246	チュウイノシヤ	チ035 中予の社寺 8	伊予史談会抜粋		波賀部神社調書、八大竜王・水之大明神(上野村)等		1952	コピー	26×18
247	チョウセイサン	チ037 町制三十周年記念余興費	兵頭貞雄	全	松前町役場の発行したもの、支出合計は19088円(獅子代表 五百円)等である。余興は甲乙付けがたく筒井獅子と筒井代表に送った記録がある。		1952	原本	26×18 4枚
248	チョウドウジヨ	チ038 町道城北線登記権利書綴	松前町役場	全	承諾書、土地表示変更登記嘱託書、保証書など工場誘致に伴う道路建築のための承諾書。何時道路敷地となってもよいという念書である。	道路建築承諾書	1937	原本・ガリ版	25×18 36p
1102	チョウヘイコク	チ039 徴兵告諭	内閣	町内外	明治5年11月28日。「全国の丁社を募り軍団を設け以て国家を保護す……全国徴兵の法を設け国家保護の基をえんと欲す。」	富国強兵	1872	袋018 コピー	21×28 1枚
249	チョクケンシ	チ042 貯蓄券消化要領	愛媛県	町内外	物品購入品の金額の二割を添加標準とした。遊興飲食宿泊、特別行為の場合。	国民貯蓄増強	1943	コピー	26×18 6p 4枚
1179	チョットゴンジ	チ043 鳥渡言上仕候	萩原弥市		明治年間。村の寄り合いに八月一六日病氣のため欠席するという連絡		0	袋030 原本	25×27 1通
1163	マサキチンミ	チ044 松前珍味	日本食品新聞社	松前	珍味行商のパイオニアはおたささんの「かんづめ行商」にあるという。県全体35社中松前の珍味は19社に達する。	おたさのかんづめ行商、団茂翁、滝姫	1979	袋119 原本	41cm 3枚
486	チョウソンジチ	チ046 町村自治要義	町村会議員講習学習会		町村政・府県政・選挙法・地方制度・行政法・陪審制度・青年訓練所・徴兵制度		1927	原本	22×14 約700p 文庫目録に未登録

ID 読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
1241	チヨクゴシユウ	チ047 勅語集	天皇	全	戦前の史料(箱入り)多数あり。		1940		文庫目録に未登録
1344	チュウセイ	チ048 中世合田氏ノ跡	合田昌文	町内外	松前城に戦う合田貞遠を中心に、松前古城を推論している。	松前古城	2000	製本	21×15 198p 26×14 25枚 六盟館 太田熊衛文庫
1456	チュウトウ	チ049 中等習字 楷書之部	香川松石	全国	尋常中学校習字科用本。		1897	原本綴じ	和 26×14 25枚 六盟館 太田熊衛文庫
1457	チュウトウ	チ050 中等習字 草書之部	香川松石	全国	尋常中学校習字科用本。		1897	原本綴じ	和 26×14 25枚 六盟館 太田熊衛文庫
1461	チュウトウ	チ051 中等漢文教科書 巻一	国語漢文研究会	全国	漢文の初歩、句例と練習からなり、送りがなをつけ漢訳を繰り返して漢文を理解させている。		1903	原本綴じ	和 明治書院 太田熊衛文庫
1466	チュウトウ	チ052 中等教育日本作文規範		全国	書牘門、四季紀事門、論門、説門、紀戦門、記遊門、傳門、…人事門、雑門までの例文集。		1889	原本綴じ	和 18×12 53枚 太田熊衛文庫
1521	チュウジョ	チ053 中将姫行状記 巻2		全国	4才～8才まで。「……月夜スガラ姫君ヲ寵愛シタマフ御伽ノ女房達琴ヲ弾ジ笙ヲ吹色々慰メタテマツリ……」		1702	原本綴じ	和 26×18 23枚
1522	チュウジョ	チ054 中将姫行状記 巻3		全国	9才～12才まで。「……中将姫ハ九才ニ成玉フガ情心ノ中ニ思帷シ玉フハ、吾母ニ離レテ既ニ五年ノ……」		1730	原本綴じ	和 26×18 23枚
1535	チュウガク	チ054 中学化学書 第二編 巻下	磯野徳三郎	全国	銘 符号Cr 原子量52.2 [所在製法及び性質]とつづく金属元素		1883	原本綴じ	和 22×15 34枚
1556	チュウガク	チ054 中学化学書 第一編 巻之中	磯野徳三郎 編述	全国	酸素及窒素の酸化物「酸窒両素の化合物五個あり其名称及組成左ノ如シ……酸化窒素、二酸化窒素……」		1880	原本綴じ	和 22×15 54枚
1523	チュウジョウ	チ055 中将姫行状記 巻4		全国	13才～16才まで。「……天武帝ノ御孫一品舎人親王第七ノ御子大炊王孝謙天皇譲ヲ受テ……」		1730	原本綴じ	和 26×18 30枚
1557	チュウガク	チ055 中学化学書 第二編 巻之中	磯野徳三郎	全国	金属 [所在] 銀ハ天然遊離スルモノアリ或ハ口及ヒ砒ニ伴ヒ硫化物トナリテ……」		1880	原本綴じ	和 22×15 65枚
1524	チュウジョ	チ056 中将姫行状記 巻5		全国	一七才～二一才まで。「中将姫去年夏當ノ禪林ニ入セ玉フヨシ修業ニ怠リナク昼ハ終日……」		1730	原本綴じ	和 26×18 20枚
1558	チュウガク	チ056 中学化学書 第三編 巻之下	磯野徳三郎	全国	脂肪群ニ比スレバ軽ク水量ノ水素ヲ含有スル化合物……アルコールや澱粉などの有機化学		1880	原本綴じ	和 22×15 67p
1525	チュウジョ	チ057 中将姫行状記 巻6		全国	一七才～二一才まで。「一時法如熟思悴シ玉フハ古ヨリ世ヲ厭ヒ佛道ノ門ニ……」		1730	原本綴じ	和 26×18 19枚
1526	チュジョ	チ058 中将姫行状記 巻7		全国	27才～29才「去年睦月ノ末法如禅尼ニ帰依シテ発心出家セン好春尼ハ本ハ河内国……」		1730	原本綴じ	和 26×18 21枚 毛利庄太郎開版
1591	チヨウトク	チ059 長徳寺開山四百年記念並びに子聖大権現御開帳記念誌	長徳寺	西古泉	長徳寺と子聖大権現の会長記念号であり、参考、付、付録からなる。	お地蔵様	1996	製本	18×26 64p
250	ツキシロ	ソ001 月代	新蚩選		制作年代不明、松栄社の俳句集 蠅にくしおえば背中へまわりける 女嶺 岩洗ふ岬の波や月涼し 釣船		0	コピー	20×28 34枚
251	ツツイオオアザ	ソ002 筒井大字費徴収簿	筒井区長	筒井	(個別割)、(協議費・定式米・地租割)、(土木水利費金方及土木水利費米方反別割)の三者を徴収している。個別割りは記録がない。東洋絹織KKは1206円63銭支払っている。		1942	コピー	26×18 82枚
252	ツツイオオアザ	ソ003 筒井大字費徴収簿	筒井区長	筒井	戸別割、協議費、定式米、地租割、土木水利費等		1942	コピー	26×18 151枚
253	ツツイクミアイ	ソ004 筒井組合規約	筒井区長	筒井	組合規約(…右規約は将来必ず遵守履行すべきものなれば、後日違背無きを證する為各署名捺印する事左の如し)と組別に全筒井の署名捺印している。		1890	コピー	26×18 19枚
1131	ツツイコウチズ	ソ005 筒井耕地図	筒井区長	筒井	明治44年の耕地図、36×49、26×36、36×47の3組。ホノギ別に切り図とした地籍図。地番は記入されているが字名は未記入。まとめて千石、仕出、本町、新町、南町、北内開、南内開、篠堀と書かれている。	字名	1911	袋120 原本	36×49 3枚
492	ツツイコベツツ	ソ006 筒井戸別割等級表	筒井区長	筒井	住民の氏名と7年分と8年度分の率が示され、金額が表示されている。		1934	コピー	25cm 26枚
490	ツツイナワシロ	ソ007 筒井苗代年貢諸役米立渡帳(昭和16年度)	筒井区長	筒井	和紙に毛筆で細かく記載、昭和15年度の水引賃(下沖、上沖、片山、千石、北内開、上又)、役員の手当や苗代年貢など筒井の必要経費を氏名事に記載する。	水引賃	1941	コピー	16×37 分類記号未記入
493	ツツイナワシロ	ソ008 筒井苗代年貢諸役米(写)其他仕役等差引立渡帳	筒井区長	筒井	昭和17年1月。向井川原、北内開、千石筋などの水引賃、苗代年貢などの支払先が表示されている。大智院道賦米として2石8斗が支払われている。		1942	コピー	16×37
1132	ツツイムラエズ	ソ009 筒井村絵図		筒井	年代・作者不明。千石新田、ササボリ新田、御代官所松前新田、中川松前新田、堀川新田のほか新田とのみ表記されている場所があり、松前城跡地の新田開発が盛んであったことが分かる絵図。旧戸長赤星平次郎から新戸長橋本友直への引き継ぎ文書。明治18年1月14日。	新田開発	0	袋121 コピー	186×252 62×122 2枚
1133	ツツイムラコチ	ソ010 筒井村戸長役場引き継目録	赤星平次郎	筒井	26×18 46枚 26×18 12枚 18×11 3枚 この目録の一つに変死人并難破船始末書類がある。	濱村外三力村	1885	袋122 コピー	26cm 12枚
491	ツツイムラト	ソ011 筒井村野取図	筒井村戸長	筒井	ホノギ、番地、面積、地価、所有者など明治9年発行。字川床1624番地は大智院の所有で地価18円とある。		1876	コピー	26×19 51枚
488	ツツイモチヨセ	ソ012 筒井持寄に関する参考書類	筒井区長	筒井	字の役職と行事の式次第等、愛媛県法に号外として部落(町内)常会範例、町内会をさらに10人組とする例ち規約も示されている。部落常会軒録、組長手当は出席数に応じ1回40銭である。	常会、十人組、大政翼賛運動規約	1940	コピー	26×18 16枚
1134	ツツイヨウスイ	ソ013 筒井用水取入口堰工事施工心得	筒井区長	筒井	昌農内国近川の支流にあった後藤堰の設計図。彩色され半紙に描かれている。心得4カ条、工事仕様届7条、材料明細届、図面である。	後藤堰	1911	袋123 原本	24cm 4枚
489	ツツイレレシュ	ソ014 徒然集玉 付 反古籠抜記	大野正盛		伊豫史談会の記録をコピーしている。脇川町の大野家に関する文書や俳句など。古い文書はコピーしておくに限る。今はない(?)籠神が存在か。天保14年の文書。		1938	コピー	16×18
487	ツツイムラウゾ	ソ015 筒井村卯蔵大木改帳	筒井村	筒井	目通り6尺、枝下3間の大木を記録	大木の記録	1843	コピー	18×36
1504	ツツイレカ	ソ016 徒然要草 巻之一	岡崎紳菴	全国	徒然要草(1)～(10)天明3年3月発行		1783	原本綴じ	和 26×18 35枚
1505	ツツイレカ	ソ017 徒然要草 巻之二	岡崎紳菴	全国	徒然要草 二 (12)～(39)		1783	原本綴じ	和 26×18 37枚
1506	ツツイレカ	ソ018 徒然要草 巻之三	岡崎紳菴	全国	徒然要草 三 (41)～(89)		1783	原本綴じ	和 26×18 三六枚
1507	ツツイレカ	ソ019 徒然要草 巻之四	岡崎紳菴	全国	徒然要草 四 (90)～(111)		1783	原本綴じ	和 26×18 37枚

ID	読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
1508	ツレヅレカ	ツ020	徒然要草 巻之五	岡崎岫菴	全国	徒然要草 五 (112)~(142)		1783	原本 綴じ	和 26×18 35枚
1590	ツキベツボ	ツ021	月別ボランティア活動の一試案	戒田光一	全町	「平成14年から、学校週5日制が実施されるようになりました。休日を生かして、子ども達の健全育成の一助……」		2002	製本	15×21 55p 青 葉図書
485	デアイガワイツ	テ001	出会川一件書類付	近藤名州	西高柳	明治4年以降、瀬堀窺扣、出合と申すところ数百間にわたり瀬堀と水門普請についての願い書。	水門普請	1871	コピー	18×26 35枚
483	テイコクカンマ	テ002	帝國韓滿地方名鑑	金田謙	国外	国名・県名・郡市町村名・字名を表記、満州、朝鮮、台湾を含む。自治館(三省堂)明治44年発行		1911	原本	22×15 880p
1196	テツカンウチコ	テ003	鉄管打込みポンプ取付井戸急施 標示図	松前町役場	全	第3号(大西種市方)55尺2寸(地面まで1尺6寸) 第4号(岡田村役場内)43尺7寸(地面まで1尺5寸) このほか各地に鉄 管打ち込みポンプ井戸を作っている。	工場誘致、地下 水位変動	1938	袋025 原本	40×65 1枚
1243	テツサイギノウ	テ004	鉄齋義農漢詩	富岡鉄齋	全	富岡氏高知へ墓参の帰りに、松前に立ち寄り義農の墓を参拝した。松山市奥田氏の寄贈になる。		0	軸	235×58
484	テラロドクシヨ	テ005	寺子読書千字文	葛西水玉堂	全	興味・関心がおこるように挿入図などがある。嘉永7年発行		1854	原本	22×16 37p
481	デンカ	テ006	田家	守中庵	全	俳句相撲など・明治中期か? 内堀や鏡に映すみずすまし の句あり。ミズスマシはどの川にもいなくなった。		0	コピー	18×26
583	テンジンシャア	テ007	天神社・淡島社管経経費帳	南黒田区長	南黒田	和紙に筆で経費を記載木材は19855円大工職10人役1口500円で10日5000円、合計44447円とある。		1960	原本	34×13 4枚 26cm 46枚 昭 和25年から39年 までの記録
1277	テンチュウ	テ008	電柱敷地等定米入別簿	南黒田区長	南黒田	昭和27年水利費負担として、土川内揚水敷地、村中揚水場敷地、村南揚水場敷地……大畝町樋番賃……村中モーター番賃な どが支払われている。	大谷池費	1950	原本	
482	テンチョウジチ	テ009	天長寺中興由来	天長寺	横田	天長寺中興由来(松崎新蔵)に関する報告文である		0	コピー ガリ版	26×18 3枚
479	テントウケイヤ	テ010	点燈契約証	昌農内	昌農内	原本は整理記号「ケ004」で別にある		1920	コピー	26×18 7枚
480	テシリキョウオ	テ011	天理教伊予岡田文教会教会規約	天理教管長	昌農内	総則・教養・儀式・主管・教徒・信徒及び会計等に関する文書。知事へ提出した規約で、敷地を90坪1合1勺としている。	天理教	1942	コピー	26cm 13枚
477	ドウインメイボ	ト001	動員名簿	北伊予村	北伊予	8月15日告示16号(63名召集)、8月25日告示18号(14名)の記録。至着月日、時、部隊名、氏名、出発日時など。名誉の 戦死傷病勇士者として16名軒録がある(昭和12年12月10日)	戦死、傷病者名 簿	1937	原本、ガ リ版	24×17 13枚
472	ドウキユウナラ	ト002	等級并二反金取り調書	東古泉	東古泉	取り調書の下調書であるために訂正、張り紙が多数ある。明治21年の土地の広さと地租を調べたもの		1888	原本	25×18 33枚
478	ドウキユウヒョ	ト003	等級表	東古泉	東古泉	筆線を鉛筆、あとは毛筆、村一邸。筆記用具の鉛筆が普及する頃の記録。東古泉村より県庁へ進達すとある。田の部は13等 級に区分されそれぞれ収穫石数が赤字である。石斗升合勺まで示される。	収穫石数	1888	原本	26×17 4枚
475	ドウキユウトリ	ト004	等級取調表	東古泉	東古泉	田畑の等級取り調べ表と修正地価額上申書等 明治22年発行		1889	原本	22×18 36枚
476	ドウキユウトリ	ト005	等級取調表	東古泉	東古泉	田畑の等級取り調べ表・明治22年発行		1889	原本	25×18
474	ドウケイカラミ	ト006	統計から見た市町村の姿	県総務部統計調査課	町内外	土地・人工・事業所・所得から民生まで16項目にわたって町村別に細かい数字でかいている。		1973	原本	30×21 114p
471	ドウクウエンシ	ト007	橙黄園習字手本	鷲野幾治郎	南黒田	二種の零本を1つにまとめたもの、発行年不明		0	原本	29×21
473	ドウクウエンシ	ト008	橙黄園習字手本(零本)	鷲野幾治郎	南黒田	摂政関白・大政大臣、左大臣、右大臣からはじまり次第に難しくなる。表紙に手本鷲野幾治郎と書かれている。		0	原本	27×21
584	ドウジュウシブ	ト010	藤重詩文稿本(下)	伊藤政重	南黒田	村井俊明の監視や漢文を写している。また村井の添削も受けている。各地の様子なども記録している。		1926	コピー	26×18
1037	トウデンショモ	ト012	当伝書目録	木村勝政	全	書名と何巻あるか、失われたものは何巻かなど記録し惣計319巻 木村勝政とある。		0	袋067 コピー	18×102 1枚
1040	トウデンヒョウ	ト013	当伝兵法書目	村井知衝	全	「当傳書目録」を詳しく書き表したもので兵書としてあるものをまとめている。「合戦傳」には34件などと数量を表している。現存 するものはどれだけか?	兵法書	1805	袋067 コピー	32×100 1枚 文化2年
1125	トウホンモクロ	ト014	唐本目録	河内屋	全	年代不明、法華書店河内屋より鷲野路太郎に送った漢書目録		0	袋051 横1	24×15
585	ドウフ	ト019	童話	常磐井蔵才先生	全	著者不明、傘屋の話、馬子、小僧と和尚、継子の話など童話を民話風に手書きで仕上げている		1906	コピー	21×15
586	ドウフタイサク	ト020	同和対策事業特別措置法 同和対策協議会、同和教育協議 会、同和地区企業連合同総会	内閣委員会	全	特別措置法の一部を改正する法律案に対する付帯決議 表紙に「一人では何もできない しかし、一人がはじめなければ なにもできない そのひとりになろう」と波線枠で大会の特色 を表示する。		1978	コピー	26×18 8枚
587	ドウフタイサク	ト021	同和対策協議会、同和教育協議 会、同和地区企業連合同総会	松前町	全	小中学生の社会科学習指導案・音楽・学活・作文指導とその事例他		1976	原本	26×18 22p
588	ドウフキョウイ	ト022	同和教育資料(第2集)	松前町	全	常磐井蔵才先生遺徳顕彰 会		1976	原本	26×18 77p
589	トキワイゲンサ	ト023	常磐井蔵才先生	常磐井蔵才先生遺徳顕彰 会	全	蔵才の生い立ち、学問の思想や交友、門弟その他の事項についてわかりやすくのべている。		1966	コピー	18×13 334p
590	トクベツシュウ	ト024	特別修正地価一筆限帳	東古泉村	東古泉	字番地、等級、反別、地価、地租、住所氏名を毛筆にて記録してある(約470項目)		1889	原本	24×17 28枚
591	トクベツチカシ	ト025	特別地価修正等級取調書	東古泉村	東古泉	字番地、等級、反別、地価、地租、住所氏名を毛筆にて記録してある(約470項目)		1889	原本	25×17 39枚
592	トクマルイズミ	ト026	徳丸泉水利定約証	徳丸戸長	徳丸	水利定約証の移り変わりが分かる 明治27年～大正13年		1924	コピー	26×18 39枚
593	トクマルエンカ	ト027	徳丸沿革誌	八束篤	徳丸	昭和25年発行。年々花は同じ人は同じからず。世の進歩により社会は変遷せり、光陰は如天 人生は流水の如し 一度 去りては亦 不帰古人の金言なり 伊予の起源……古老の口碑を参酌し他日の参考資料に供す	重信川伏樋(暗 渠)	1949	コピー	36×26 145p
594	トクマルキョウ	ト028	徳丸共有地契約証書	徳丸	徳丸	明治42年4月1日正副二部作成。字名番地、面積、地目をまとめ共有地について交わした契約書である。		1909	コピー	30cm 8枚
595	トクマルスイリ	ト029	徳丸水利協定書	愛媛県会議員ほか	徳丸	堤防護岸工事施工に伴う工事の協定書	伏樋	1949	コピー	37×26 3枚
596	トクマルスイリ	ト030	徳丸水利契約証書	八束治作	徳丸	本地八大字徳丸二於テ水利上必要ニ認メ八束治作殿他十名ヨリ吾名毎二金10円支出不足額他雜費ノ惣テ大字ノ協議費以テ 足シ買得セリ仍テ地主ニ於テ大字ニ為メ永遠ニ他部落ニ売却譲與セザルヲ盟ツとあり23名の署名と印あり。	水利費	1909	コピー	37×26 8枚 明 治42年
597	トクマルスイリ	ト031	徳丸水利契約証書	遠藤良定	徳丸	字北野1516番地は名義人遠藤良貞他10名と徳丸との契約により、水利上必要な用地を確保した契約書		1909	コピー	37×26 6枚 明 治42年
598	トクマルスイリ	ト032	徳丸水利契約証書	徳丸区長	徳丸	井門宮ノ邊934番地を徳丸の溜池や堤防に利用する契約書。用水料として年末に玄米一俵分配。	用水料	1877	コピー	37×26 4枚 明 治10年9月1日
599	トクマルブラク	ト033	徳丸部落契約書	徳丸区長	徳丸	明治28年から大正2年12月までの文書。		1913	コピー	26×18 10枚
600	トクマルブラク	ト034	徳丸部落契約書	徳丸土地改良組合	徳丸	六反地に明治3年泉を新設し、在来井手筋拡張のため用地を借り受ける契約書など。 昭和34年10月1日の領収書33万円がある。正善寺泉工事とあり、俗称ドンコ泉開発の陳情書である。	ドンコ泉	1960	コピー	26×18 20枚
601	トクマルブラク	ト035	徳丸部落契約書	徳丸区長	徳丸	昭和8年～30年までの売買契約証書、領収証、各種計算書、覚書等。昭和21年徳丸堤防に松苗を植え付ける知事への文書 がある。	堤防護岸	1955	コピー	26×18
1136	トクマルムラヨ	ト036	徳丸村養水井出筋法条約書	井門村、徳丸村代表	徳丸	明治12年8月30日、井手の深さを決定する土台石を、旧大落井手より4間2合下、麻生道橋より3間下、三つ目は日下堤防は ずれ際に設置した。		1879	袋124 コピー	27×165 1枚
1135	トクマルヨウス	ト037	徳丸用水の由来	森松、浮穴庄屋、徳丸総代	徳丸	井門村、原町村麻生の重信川筋より川水を引用、河川枯渇時は井門部落の宮ノ邊大落井出水で灌漑。不足気味で宝暦7年 現夫婦泉を森松に確保した。	夫婦泉(北泉、南 泉)	1926	袋125 コピー	28×320 1枚
1078	トクマルヨウス	ト038	徳丸用水井出筋附加定約	黒川通成	徳丸	井手汲みは井門代表2名と徳丸井門の量村長立ち会いの上行う取り決めである。最後の下浮穴伊予郡長黒川通成の署名が ある。	井手汲み	1893	袋126 コピー	26×104 1枚
602	トクマルマン	ト039	徳丸万才	仙波貢	徳丸	万才の由来、松づくし、義経千本桜、宮島心中、松山名所づくしのほか農作業傭等をおさめる。でこまわし、妻うらしの掛け小屋 での芝居などの様子が見える。	妻うらし、方言	0	コピー	26×19 6枚
603	ドジョウブンセ	ト040	土壌分析結果表	愛媛県経済農協連	全	約170軒が調査対象、調査項目は6項目		1978	原本	26×36 8枚

ID 読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
605	トボクシヨルイ	土木書類	岡田村役場	岡田	河川砂利払い下げ願い(数百件)、明治38年から明治41年迄の記録。深さ1尺まで、位置は鎌の位置や鉄橋、渡し船のコースなどで推定できる。	栗石、砂利の採集	1908	原本	27×12
604	トミサワセキオ	富沢赤黄男句碑設立記念誌	川之石小学校		赤黄男の年譜。句碑建立のいきさつ等		1976	コピー	26×18 20枚
1076	トクマルスイリ	為取替申定書之事	庄屋 豊島重郎	徳丸	徳丸村水利関係文書、安政3年10月。井手筋両岸の痛みは徳丸、田面水押の場合は森松村で補修などの取り決めが示されている。		1856	袋127 コピー	15×130 1枚
1073	トッキョソシヨ	特許訴訟、卒族編入願等	大西和一郎(所持)	北川原	明治初年、45部。上林宗佑が大西和一郎所持の耕系製造機の使用禁止を求めたものの仮処分調書。特許無効を唱える大西和一郎の主張は通らなかった。それぞれの調書原文。	耕系製造機	1900	袋128 原本	27×53 1枚
1042	トウメンソウノ	当免相之事(筒井村)		筒井	嘉永6年12月。当免相之事 合九三分六厘筒井村とあり、庄屋四名の署名捺印がある。最後に庄屋百姓中とある。		1853	袋068 コピー	1枚 文庫目録に未登録
1325	トウヨウレ	東洋レーヨン社史 1926～1950	社史編集委員会	全町	愛媛工場を西北上空より撮影した写真は松前城と筒井あたりを俯瞰できる。義農神社は低湿地で、土川が白く見える。		1954	製本	21×18 451p
1317	ドウゴヘイ	道後平野の生い立ちと熟田津 旧石手川が白村江戦に果たした役割	池田 逞	全県	旧堀江低地帯を旧石手川と比定して、流れの緩やかな河川の周辺や沼沢地などで斉明軍団の兵士募集や訓練の場所とする。		2000	製本	21×30 107p
1322	トウジノミ	陶磁の道	出光美術館	松前	青白滋刻花渦紋梅鉢(中国南宋～元時代)が展示され、伊予松前城址出土と明記されている。図版リスト15品中重要美術品と唯一記載されている。		1989	製本	21×15 85p
1347	ドウゴヘイ	道後平野の文化	西田 正義・澤本 勝	町内外	松前は古い町、岡田村や余戸村は全国から見学者が押しかける村、汽車の窓から見ても分かる。	模範村	1927	製本	19×14 253p 仲野印刷所
1384	ドウジョウ	道成寺霊蹤記 巻1		全国	三界の生死。八識隠顕して。月の盈口有が如く。六道の浮沈一心の迷悟。水の清濁無に……		0	原本 綴じ	和 26×18 18枚 太田熊衛文庫
1385	ドウジョウI	道成寺霊蹤記 巻2		全国	道成寺観世音菩薩。海中ヨリ。上ラセ玉テ安産在所なり。		0	原本 綴じ	和 26×18 18枚 太田熊衛文庫
1386	ドウジョウ	道成寺霊蹤記 巻3		全国	忽然念起ノ無明ニヨリテ。本有家郷ニ都ヲ牢落シ……		1750	原本 綴じ	和 26×18 18枚 太田熊衛文庫
1387	ドウジョウ	道成寺霊蹤記 巻4		全国	鐘者。説文日。楽鐘也。人人鐘聲漢志日ク釈ノ名ニ日。……		1750	原本 綴じ	和 26×18 18枚 太田熊衛文庫
1388	ドウジョウ	道成寺霊蹤記 巻5		全国	假ニ往来ノ借ヲ見初テ。終死地ニ至ル懸路サタムテ。前世ノ宿業ノ。……		1750	原本 綴じ	和 26×18 18枚 太田熊衛文庫
1389	ドウジョウ	道成寺霊蹤記 巻6		全国	道成寺ニ縁起ヲ詳スルニ。安珍ハ者奥州。……		1750	原本 綴じ	和 26×18 18枚 太田熊衛文庫
1422	トベヤキト	砥部焼と松前のからつ船	山本典男	新立	からつ船の盛んな時代の体験談を交えて丹念に資料を集め、まとめた好読み物。	からつ船	1993	製本	21×15 126p
1436	トウシセン	唐詩選 1	斉南李挙龍編選	全国	李白、王維、常建、高適などの詩が選ばれる。制作年代不明。		0	原本 綴じ	和 15×11 25枚 書肆嵩山房 太田熊衛文庫
1437	トウシセン	唐詩選 2	斉南李挙龍編選	全国	楊炯、駱賓王、蘇味道、陳子昂、杜審言等の詩を選んでいる。		0	原本 綴じ	和 15×11 50枚 書肆嵩山房 太田熊衛文庫
1438	トウシセン	唐詩選 3	斉南李挙龍編選	全国	王周、釋皎然、釋靈等の詩があり最後のページは崔惠童である。		0	原本 綴じ	和 15×11 37枚 書肆嵩山房 太田熊衛文庫
1509	トサグンキ	土佐軍記 巻七		全国	三瀧落城之事、他香川民部大輔和陸事など、元禄一五年三月発行		1702	原本 綴じ	和 26×18 19枚
1520	トサグンキ	土佐軍記 巻12		全国	秀吉公九州進発ノ事 付嶋津和陸事、その他土佐国南蛮船漂着ノ事などの見出しがある。		1702	原本 綴じ	和 26×18 14枚
1580	トウヨウシ	東洋歴史 第85編	幸田成友	全国	上古より秦の一統から日清戦争まで		1903	製本	22×15 310p 博文館
510	ナカエトウジュ	中江藤樹先生と大洲(写)	近藤英雄(不及東江)	町外	昭和50年5月24日発行。重川家俊、荒木義雄の研究を参考にしたとの謝辞が最後にある。現行のコピー。		1975	コピー	18×26 80枚
721	ナガオダニガワ	長尾谷川改修願書	筒井村庄屋ほか	筒井村	改修願書を筒井、黒田、大溝、横田、永田、東古泉、西古泉、浜村の庄屋の連名宝暦10年		1760	コピー	16×36 8枚
516	ナカガワラクヨ	中川原共有地決算帳	中川原区長	中川原	供入金18円64銭1厘、兵事会費1円24銭4厘、大字協議費29円9銭6厘、夜学補助1円、その他35年12月分として記載されている金額である	夜学費	1903	原本	14×42
449	ナカガワラクヨ	中川原共有地決算帳	中川原区長	中川原	明治36年12月		1903	コピー	15×37
725	ナカガワラク	中川原勤儉貯蓄組合規約	中川原区長	中川原	徳丸の規約を参考にして、第1条から第21条までを定め組合長、副会長、委員など102名の氏名が見える。明治37年。節句のごとき旧来の休業を廃する、早起き、遅寝業務奨励し休憩時間短縮などを規約としている		1904	コピー	26×19 正本
1074	ナカガワラク	中川原耕地図	中川原区長	中川原	発行年不明		0	袋129 原本	100×100 2枚
1071	ナカガワラムラ	中川原村耕地図	中川原区長	中川原	発行年代不明		0	袋130 原本	80×250 2枚
724	ナカガワラク	中川原地目別計一覽表	区長場	中川原	ホノギごとに田、泉、砂敷地、畑、山林、松林、宅地、牧場の面積、地価、筆数などを記す。		1907	原本	28×21
723	ナカガワラク	中川原換地精算徴収交付人別帳	中川原耕地整理事務所	中川原	個人別の田、畑、宅、山林、墓地、雑種地、溜め池の面積、地価、出支金等を一枚ずつにまとめている		1975	原本	28×21
735	ナカガワラムラ	中川原村本田畑古新田人別地寄帳(巻番)	庄屋	中川原	見出しに竹のへらを張り付けて、検索を容易にしている。文久元年6月		1861	原本	16×43
517	ナカガワラムラ	中川原村本田畑古新田人別地寄帳	庄屋	中川原	文久元年6月。見出しに竹の箆をつけ所有者を検索しやすく工夫する。字名、広さ、地番、収量をまとめて表示する。		1861	原本	16×43 正本
734	ナカガワラムラ	中川原村本田畑古新田人別地寄帳	庄屋 七郎次	中川原	組頭 丸左衛門、弥惣次による文政5年の文書、見出しに竹のへらを張り付け検索を容易にしている。住民の土地所有明細簿である。		1822	原本	16×43
727	ナカガワラム	中川原村御田地坪水帳	庄屋京右衛門 組頭	中川原	役八百石、田畑の所有者氏名印、近隣の庄屋の名を連記証明、神崎、市ノ坪、大間、垣生、保免、徳丸等 貞享元年	地坪	1684	原本	37×23 183枚
730	ナカガワラム	中川原村御用日記	大政嘉三右之門	中川原	文久2年正月～8月までの庄屋文書		1862	コピー	26×20 48枚 正本
731	ナカガワラム	中川原村寺院書願年々綴	庄屋	中川原	150年間(享保3年～明治3年)中川原の宗金寺と周辺の庄屋への各種願いと、各年代の庄屋名などが記載されている		1870	コピー	26×18 96枚
1072	ナカガワラゼン	中川原全図	中川原区長	中川原	明治40年		1907	袋131 原本	115×150 1枚
719	ナカガワラトチ	中川原土地台帳	中川原区長	中川原	耕地の等級、ホノギ、地番、地目、面積、畦畔、地価、所有者を毛筆にて記載(地番1～1623まで)		1906	原本	25×17 正本
505	ナカガワラブン	中川原文書	中川原耕地整理部	中川原	明治44年3月～、耕地整理費反別賦課簿		1911	原本	26cm 60枚

ID	読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
716	ナカガワラブン	ナ020	中川原文書(大正)	中川原区長	中川原	小作人別帳(大正4、7、10)、整理共有社寺田定米未収入支帳(大正4年)、人別差金一覧表(大正6年)、共有地費歳入出原簿(大正10年)には神社費、消防費、衛生費、補修学校費、兵事会費、その他の項目がある。	補修学校	1915	原本	26cm
715	中川原文書	ナ021	中川原文書	中川原区長	中川原	小作元帳(昭和3年)、竹藪雑費支払明細(昭和15年)、仕役込帳(昭和22年)、水利費賦課徴収(昭和22年)、協議費水利費支払帳(昭和22年)、昭和3年から昭和23年		1948	原本	27×19
494	ナカガワラウ	ナ022	中川原用水樋御指立願書		中川原	夫役その他、享保8年正月から明治3年12月まで		1870	原本	29cm 73枚
1069	ナカガワラムラ	ナ023	中川原村用水・井門村内立石養水社若泉取定書	関係村役人	中川原村・井門村	巻子 元文3年、洪水で立石表泉と社若泉が埋没したので大寒へ差し出した、中川原の口上書。最後に大庄屋窪田儀右衛門、安長嘉六の署名がある。	社若泉、立石表泉	1738	袋132 コピー	28×3000 一卷
511	ナガタオオアザ	ナ024	永田大字費帳	戸長	永田	明治23年の明細帳。水利費32円3錢3厘、道路橋梁費2円23銭、社寺費17円82銭3厘、雑費16円83銭3厘、給与費27円、予備費5円、総代は16円となり、これを人別割付した記録が続く。	字費人別割り	1890	コピー	14×20 75枚
448	ナガタキョウ	ナ025	永田共有地売払嘉価	永田総代場	永田	ほのぎ、落札高、落札人が示されている。さらに二番札、三番札の金額もある。明治23年1月。	落札	1890	コピー	13×36 36枚
513	ナガニチダイハ	ナ026	長日大般若本請取	前神寺役僧		寛政9年6月1日、孝靈天皇、伊予皇子、王純、益男、真勝と続く古泉河野系図がある。	家系図	1797	コピー	21cm 56枚
500	ナカヤマムラキ	ナ028	中山村郷土誌	中山村誌編集委員会	町外	明治44年発行。端午の節句には男子は悉く紙凧を揚げ喜々として壮遊をなす。往昔は中山川の川辺で大凧をあげ戦わしたという。	凧合戦	1911	原本	28cm 71枚
1039	ナナソクヘンウ	ナ029	七足変唄	野沢象水		天ジクノ水ナキ嶋ノカラ手水シツカイ草木ココ佛水と三回反復し、軍神、軍旅、戦場、常在、所見、善悦、護身、勝運と呪文を唱えて後左足より踏み出し、貧巨祿文廉武破と大声を出し七回足踏みませよ。		1787	袋067 コピー	35×50 1枚 天明7年
1084	ナノカワムラノ	ナ030	名野川村農民騒動		町外	著者不明、土佐・名野川農民300余名。松山領久万菅生山大宝寺へ逃散時の相談の様子を描く。鎌、山刀等を持つ、人員約50人表情豊か、服装などから当時の生活の様子が偲ばれる。天保13年	逃散	1842	袋133 コピー	軸
508	ナヨセチョウ	ナ031	名寄帳(南北黒田・浜)		北黒田・南黒田・浜	著者年代不明。土地の所有者一覧、字名番地、地目、等級、面積、地価、評定評価額餓死召される一覧表。評定評価額は未記入。最初は武知雅一で20筆ある。	地価	0	コピー	26cm 100枚
732	ナヨセボ	ナ032	名寄簿	区長場	東古泉	字、番地、地目、反別、地価、地租、増税と所有者名を役場の名寄簿より転写したのが明治33年12月、毛筆にて記す		1900	原本	27×20
1284	ナンヨイコ	ナ033	南予遺香	兵頭賢一	町外	先人を録するもの多数あるも、今回は遺墨緩傾斜を編集したと前書きにある。		1918	コピー	26cm 219p
512	ナンヨウガッコ	ナ034	南洋学校	野沢嘉武	東古泉、大溝	生徒数38名教員1名で一月3円、一年36円とし生徒授業料は半分徴集しないで運営することを大溝村、東古泉村の総代が愛媛県令へ申請したもの 俳句角力。発行年不明		1879	コピー	26cm 4枚
498	ナンヨウシャツ	ナ035	南陽社月並発句(写)	石山選		日のさせば玉の雫や松の花 志明 聖人の笑みに似たり松の花 禅律		0	コピー	27cm×20cm 16枚
504	ナンヨテツドウ	ナ036	南予鉄道線路敷地別丈量野取絵図帳	南予鉄道会社		年代不明		0	原本	27cm 17枚
733	ナンノシヤジ	ナ037	南予の社寺	西園寺富水	町外	明石寺にかかわる事柄並びに安養寺由緒など大正10年		1921	コピー	26×18 71枚
1518	ナガオダニ	ナ038	長尾谷川におけるトンボの観察	増田俊則 他2名	松前	特別賞を受けた理科自由研究作品、松前中学校生徒の力作。身近な環境から課題をとらえる手法として優れている。		1982	製本	8×26 32p 松前町学校
427	ニシウミチョウ	ニ002	西海町	西海町公民館	町外	昭和46年から47年勤の社会教育資料、西海町の社会教育、明るく正しい選挙、西海町推進協の歩みの3パンフレット合本		1972	原本	
1085	ニシコイズミエ	ニ003	西古泉全図		西古泉	年代不明。維新後の字の地籍図だろう。今は不明になっ旧ホノギに分けられている。		0	袋134 原本	76×85 1枚
430	ニシコイズミヨ	ニ004	西古泉より可請取記念米明細簿	永田	西古泉、永田	6円20銭を明治25年記念米式代表元金とす。26年の利子は50銭8厘、合計6円70銭8厘となる	記念米	1897	コピー	14×36 6枚
431	ニッキボ	ニ007	日記簿	赤星平次郎	筒井	農業経営上の諸問題を克明にメモしたもの		1905	コピー	26cm 61枚
428	ニッシ	ニ008	日誌(松前青年学校)		松前	昭和18年インキで記載されている。7月23日には、21日夜来の大雨のため増水甚となり警戒のため帰宅せしめるとある。(男74名女10名)	水害、入営奉告祭、青年団暁天動員	1943	原本	24×17
429	ニッシ	ニ009	日誌(松前青年学校)		松前	昭和19年の日誌。6月16日ツベルクリン注射、6月18日同反応検査、7月4日BCG注射をしている。	教練、英霊帰還、銃剣道大会	1944	原本	24×17
426	ニッシ	ニ010	日誌(松前青年学校)		松前内外	昭和20年7月29日松山空襲、大市焼失すとある。(夕方12時より午前2時まで)	空襲警報	1945	原本	26×18
559	ニッシ	ニ011	日誌(松前青年学校)	松前青校	松前	昭和21年の日誌。品評会、進駐軍関係書類提出、相撲練習5日間、引き揚げ者等慰問演芸会などの行事をおこなう。		1946	原本	26×19
558	ニッセキカンケ	ニ012	日赤関係書類	南黒田区長	南黒田	昭和33年～34年の日赤募金名簿		1985	原本	26cm 6枚
560	ニホンキトクキ	ニ013	日本基督教団教会規則		町内外	教団統理者 富田満の署名入りで五八條からなる		1942	コピー	26cm 17枚
433	ニホンノイヨ	ニ014	日本の伊豫人	武知勇記	町内外	…日本の声明ある伊豫出身の名士を網羅して、其の経歴を伝え其の事業を語り、其の人物を論じ…たものである。		1920	コピー	18×26 131p
1086	ニユウサツヒト	ニ016	入札人心得付請負人心得	町役場		年代不明。どこかの神社拝殿建設にかかわる入札人の心得と工事請負書式等、正式書類の下書きか、工事期間は2月19日～4月9日。ごく小さい拝殿工事だろう。		0	袋135 原本	25×255 1枚
557	ニハマキョウ	ニ021	新居浜郷土史談 1～5号	新居浜郷土史談会	新居浜	昭和50年発行の1号から5号合本。27名の会員で始まっている。第3号には「双海町、宮田家に伝わっていた刀剣類」がある。	天正の陣	1975	コピー	26×18 文庫目録に未登録
561	ニハマキョウ	ニ022	新居浜郷土史談	新居浜郷土史談会	町外	昭和50年発行はNo5号、51年発行はNo6号～9号 合本		1976	コピー	26×8 文庫目録に未登録
434	ニハマキョウ	ニ023	新居浜郷土史談	新居浜郷土史談会	町外	昭和51年発行、No10～No13まで4冊合本。		1976	コピー	26×18 文庫目録に未登録
435	ニハマキョウ	ニ024	新居浜郷土史談			No14からNo17号まで4冊合本、昭和51年発行		1976	コピー	26×18
432	ニチロセンダ	ニ028	日露戦史大全 下巻	宮部力次	町内外	博信館で明治39年発行。日本海大海戦図、樺太全図がある。ロシア軍将兵の記述もある。	マカロフ、旅順艦隊	1906	製本	19×16 1016p
437	ニホンシトウヨ	ニ030	日本史・東洋史	峰岸米造		日本史は中古まで、東洋史は唐初まで記述、高等師範学会明治三五年発行		1902	製本	21×14 222p 文庫目録に未登録
1287	ニシウミチ	ニ031	西海町誌	町誌編集委員会	町外	最後に付録として年表と西暦、干支、元号の一覧表がある。編集は松前町誌と記事の配列が同じ。		1979	製本	22×16
1298	ニシウミチ	ニ031	西海町誌	町誌編集委員会	町外	最後に年表と西暦と干支、元号一覧表がある。編集は「松前町誌」と同じ配列である。		1979	製本	22×16 598p
1290	ニホンガイ	ニ032	日本外史字引大全 巻1	岩井與二郎編輯	全国	熟字を国訓譯している。故事成語などは古人の撰著あり。		1878	原本	18×12 80枚 三書堂蔵 太田熊衛文庫
1292	ニホンガイ	ニ032	日本外史字引大全 巻3	岩井眞二郎編輯	全国	後北条氏、武田氏、上杉氏、毛利氏、織田氏 上、織田氏 下		1878	原本	18×12 75枚 三書堂蔵 太田熊衛文庫

ID	読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
1291	ニホンガイ	ニ033	日本外史字引大全 巻2	岩井眞二郎編輯	全国	北条氏、新田氏、足利氏 上、足利氏 下、楠氏		1878	原本	18×12 79枚 三書堂蔵 太田熊衛文庫
1345	ニホンノウ	ニ034	日本農書全集 1	古島敏雄他	全国	耕作晰、奥民凶象、老農置土産並ニ添日記、菜種作り方取立ケ条書、除稲虫之法の現代語訳。		1977	製本	22×16 367p
1293	ニホンガイ	ニ035	日本外史字引大全 巻4	岩井眞二郎編輯	全国	豊臣氏上、豊臣氏中、豊臣氏下、徳川氏(1)、徳川氏(2)、徳川氏(3)、徳川氏(4)、徳川氏(5)		1878	原本	18×12 75枚 三書堂蔵 太田熊衛文庫
1352	ニホンガイ	ニ035	日本外史(再板) 1	頼久太郎	全国	源氏前期…平氏から始まる。外史例言 1此書本欲志將興廢以為間外一典元弘延元之後……		1900	原本 綴じ	和 22×15 33枚 太田熊衛文庫
1353	ニホンガイ	ニ036	日本外史(再板) 2	頼久太郎	全国	源氏正記 源氏 上 源氏正記 源氏 下		1900	原本 綴じ	和 22×15 太田熊衛文庫
1354	ニホンガイ	ニ037	日本外史(再板) 3	頼久太郎	全国	文政12年 源氏後期 北条氏 新田氏前期 楠氏		1829	原本 綴じ	和 22×15 太田熊衛文庫
1355	ニホンガイ	ニ038	日本外史(再板) 4	頼久太郎	全国	新田氏正記 新田氏 足利氏正記 足利氏 足利氏正記 足利氏中 足利氏正記 足利氏下 足利氏後記 後北条氏		1829	原本 綴じ	和 22×15 太田熊衛文庫
1356	ニホンガイ	ニ039	日本外史(再板) 5	頼久太郎	全国	徳川氏前記 織田氏上 徳川氏前記 織田氏下 徳川氏前記 豊臣氏上 徳川氏前記 豊臣氏中 徳川氏前記 豊臣氏下		1829	原本 綴じ	和 22×15 太田熊衛文庫
1358	ニホンガイ	ニ041	日本外史(再板) 7	頼久太郎	全国	徳川氏前記 織田氏上 徳川氏前記 織田氏下 徳川氏前記 豊臣氏上 徳川氏前記 豊臣氏中 徳川氏前記 豊臣氏下		1900	原本	22×15 45枚 太田熊衛文庫
1359	ニホンガイ	ニ042	日本外史(再板) 8	頼久太郎	全国	徳川氏前記 織田氏上 徳川氏前記 織田氏下 徳川氏前記 豊臣氏上 徳川氏前記 豊臣氏中 徳川氏前記 豊臣氏下		1900	原本 綴じ	和 22×15 59枚 太田熊衛文庫
1360	ニホンガイ	ニ043	日本外史(再板) 9	頼久太郎	全国	徳川氏前記 豊臣氏下 徳川氏正記 徳川氏1 徳川氏正記 徳川氏2 徳川氏正記 徳川氏3		1900	原本 綴じ	和 22×15 47枚 太田熊衛文庫
1361	ニホンガイ	ニ044	日本外史(再板) 10	頼久太郎	全国	徳川氏正記 徳川氏2 徳川氏正記 徳川氏3		1900	原本 綴じ	和 22×15 40枚 太田熊衛文庫
1362	ニホンガイ	ニ045	日本外史(再板) 11	頼久太郎	全国	徳川氏正記 徳川氏4		1900	原本 綴じ	和 22×15 40枚 太田熊衛文庫
1363	ニホンガイ	ニ046	日本外史(再板) 12	頼久太郎	全国	徳川氏正記 徳川氏5		1900	原本 綴じ	和 22×15 35枚 太田熊衛文庫
1369	ニホンガイ	ニ047	日本外史纂語字解 2	鈴木音彦	全国	建武3年5月湊川合戦図、京都応仁の乱図など布陣を図解している。		1892	原本 綴じ	和 18×12 52枚 太田熊衛文庫
1370	ニホンガイ	ニ047	日本外史纂語字解 3	鈴木音彦	全国	桶狭間戦地図、山崎合戦地図などがある。		1892	原本 綴じ	和 18×12 59枚 太田熊衛文庫
1357	ニホンガイ	ニ049	日本外史(再板) 6	頼久太郎	全国	足利氏後記 武田氏・上杉氏 足利氏後記 毛利氏		1900	原本 綴じ	和 22×15 58枚 太田熊衛文庫
1371	ニホンガイ	ニ049	日本外史纂語字解 (四)	鈴木音彦	全国	関ヶ原戦地図、大阪冬陣図、大阪夏陣図などがある。日本外史を理解するための語句も含めた解説書。		1892	原本 綴じ	和 18×12 49枚 太田熊衛文庫
1413	ニホンガイ	ニ050	日本外史譯解 (一)	小川弘蔵	全国	日本外史譯解引用書目として「神皇正統記」から「稱謂私言」まで258の古典を挙げている。中には「大阪首帳」もある。		1875	原本 綴じ	和 19×13 33枚 太田熊衛文庫 浪華書肆
1414	ニホンガイ	ニ051	日本外史譯解 (二)	小川弘蔵	全国	源氏ハ清和天皇ヨリ出づ。天皇ノ宮人王氏貞純親王ヲ生子四品ニ敎テ兵部卿ニ任ゼラル。……		1875	原本 綴じ	和 19×13 65枚 太田熊衛文庫 浪華書肆
1421	ニホンリヤ	ニ051	日本略史教授解 (下)	村田菴	全国	赤穂義士吉良邸へ夜打チノ図ヤシキヲセムル襲ハ夜コソソリトセメイルヲ云フ。など難解な語句に注解をつけて編集。		1877	原本 綴じ	和 18×13 53枚 太田熊衛文庫
1415	ニホンガイ	ニ052	日本外史譯解 (三)	小川弘蔵	全国	是二月。法皇諸公卿ヲ會テ。平氏ヲ討ノ功ヲ論ズ。頼朝ハ第一。義仲ハ第二。……		1875	原本 綴じ	和 19×13 65枚 太田熊衛文庫 浪華書肆
1416	ニホンガイ	ニ053	日本外史譯解 (四)	小川弘蔵	全国	外史氏ノ曰。北条氏ノ事ハ。吾レ之ヲ言フニ忍ビザルナリ。而メ諸基ノ事ヲ叙ルニ……		1875	原本 綴じ	和 19×13 62枚 太田熊衛文庫 浪華書肆
1417	ニホンガイ	ニ053	日本外史譯解 (五)	小川弘蔵	全国	外史氏ノ曰余レ将門ノ史ヲ修メ。平治承久ノ際ニ至リテハ。未ダ□テ筆ヲ舎テ嘆カズンバ……		1875	原本 綴じ	和 19×13 64枚 太田熊衛文庫 浪華書肆
1451		ニ054	校口 日本外史 源氏(二)			源氏正記 源氏上 清和天皇		0	原本 綴じ	和 23×16 35枚 太田熊衛文庫
1453	ニジッセイ	ニ055	二十世紀 新論文	小宮水心	全国	大正初年頃の論文体を示し。一方に向かっては大正時代の青年士女の理想や感想を表現している。		1913	製本	15×9 626p 立川文明堂 太田熊衛文庫
1464	ニホンガイ	ニ056	日本外史纂語字解 巻一	鈴木音彦編集	全国	日本外史の中で解し難き字句を音訓、注釈を施している。合戦の俯瞰図あり、対峙する両軍の配置、地形を表示。		1889	原本 綴じ	和 18×12 53枚 太田熊衛文庫
1568	ニホンセイ	ニ057	日本青年讀本 続編	小谷 重	全国	北伊予村立農業補習学校の本、大正2年訂正23版に達する。動物の進化を人為淘汰と自然淘汰で解説。		1913	製本	21×15 218p
1572	ニホンガイ	ニ058	日本外史 巻之21			徳川氏正記 徳川氏四		0	原本 綴じ	和 19×13 68枚
1574	ニホンガイ	ニ059	日本外史 巻之1	頼氏蔵板	全国	源氏前期 平氏 文政13年版		1830	製本 綴じ	和 19×13 55枚
1575	ニホンガイ	ニ060	日本外史 巻之六、巻之七	頼氏 蔵板	全国	新田氏正記 新田氏 43枚 足利氏正記 足利氏 上 49枚 徳川氏前記 豊臣氏上 52枚 豊臣氏中 49枚		0	製本 綴じ	和 19×13 43枚、49枚
1576	ニホンガイ	ニ061	日本外史 8 巻之15、16	頼氏蔵板	全国	豊臣氏上 52枚 豊臣氏中 49枚		0	製本 綴じ	和 19×13 52枚 49枚
1577	ニホンガイ	ニ062	日本外史 10 巻之19 巻之20	頼氏蔵板	全国	徳川氏正記 26枚、33枚		0	製本 綴じ	和 19×13 26枚、33枚
1578	ニホンブン	ニ063	日本文学史	林 林太郎	全国	太古の文学、奈良町の文学、平安朝の文学、鎌倉時代の文学、室町時代の文学、江戸時代の文学		1906	製本	22×15 340p
1597	ニホンノウ	ニ064	日本農業教育	加藤完治	全国	昭和9年1月発行、3月には12版を数えている。農の意義について考える昭和初期の農村問題論集である。		1934	製本	20×13 325p

ID 読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他	
670	ネイセイシヨオ	ネ001	寧静書屋詩存	新野斜村	昭和14年8月1日。別府で新年を迎え、青島、宮崎、西郷南州を訪ね、博多へ戻り水前寺公園訪問記。		1939	コピー	26cm 69枚	
672	ネガイシヨシヨ	ネ002	願書 小学校設立の儀	窪田節二郎・武市英俊	昌農内・上高柳	明治7年。79番小学区内に官立学校設立の要望書である。戸長窪田節二郎の書名と捺印がある。準備資金として93円用意している。	官立学校	1874	コピー	26cm 2枚
1087	ネガイタテマツ	ネ003	奉願口上之覚	斧右衛門(黒田村庄屋)	南黒田	當村先年分水拂底之場所二御座候所近年者取分植付水不自由二御座候に付畑ケ田筋高早稲地之分植付、……	泉堀願	1762	袋136 原本	29×60 2枚
1234	ノウギョウキョ	ノ001	農業協同組合の簿記	愛媛県農業共同組合中央会		農協の業務は貯金の受入、資金の貸出、物資の供給、加工、貯蔵などで、採用する簿記は貸借簿記の商業簿記を応用したものである。	簿記	0	袋079 製本	42p 発行年代不明・ガリ版製本印刷
663	ノウギョウシヨ	ノ002	農業所得が語る市町村のすがた	中国四国農政局	町内外	愛媛県統計情報事務所、昭和49年12月。松前町は野菜40年から48年の産額は119より429へ増加、果実は4から13、鶏は159より208を経て93と減少している。他の市町村の統計もあり比較できる。		1974	製本	26cm 80p
664	ノウギョウジヨ	ノ003	農業上に関する旧藩の慣例規約の存廃	太政官		松山藩においては88夜より挿秧の20日前まで鎌止めと称して草山の草を刈り取る事を禁止していた。廃藩後鎌止めの風習はなくなった。	鎌止め	0	コピー	26cm 4枚
665	ノウギョウドボ	ノ004	農業土木事業史	愛媛県耕地協会		時局匡救耕地関係農業土木事業誌として刊行されている。農村不況を克服のため農業土木事業の実施を第63議会で決議、愛媛県の助成した事業をまとめたもの。	暗渠排水・用水路整備	1935	製本	26×19 145p
666	ノウギョウホシ	ノ005	農業補修学校	愛媛県	町内外	昭和18年～19年。郡市別町村名と使用国民学校、宿舍収容児童数を一覧表にしている。		1944	コピー	26cm 10枚
1089	ノウコウギョウ	ノ006	能興業	松前		文化3年の11月11日から12月6日の千秋楽まで松前浜で能興業がおこなわれた時の出演者の氏名等16名と松前の浜に現存する中島毛で興業そたのではないかと推察している。		1806	袋137 コピー	25×35 1枚
1061	ノウジカイリヨ	ノ007	農事改良実行組合規約	松前町農事改良組合	全	農事改良の規約、発行年不明。事務所を第5区内におくとあり、事業の一つに地主と耕作者間に紛争を生じたる場合は調停を行うとあり、地主制頂の文書か	地主小作間の融和	0	袋113 コピー	26×18 6枚
667	ノウダンカイニ	ノ008	農談会日誌	農務省		明治14年3月。東京の浅草本願寺で農談会開催、意見書の記録。全国の状況が分かる。愛媛県は浮穴郡から出席している。	人糞尿、牛糞と馬糞	1881	コピー	26cm 21枚
668	ノウユ	ノ009	農諭	鈴木武介		文化8年8月25日、第9話は「金を持ちし者うえ死せし事」伊予松山の話など農民への天災、飢饉への対応を説く。		1811	コピー	26cm 30枚
662	ノウリンネンボ	ノ010	農林年表	管菊太郎		「愛媛県農業史」及び「愛媛県農協誌」の年表をほとんど転載し、一部加筆したものである。	農業史	1974	コピー	54p
1471	ノウサクモ	ノ011	農作物病理学	出田 新	全国	実用植物病理学の参考書、府立農学校教科書として再版されたもので宮部金吾が校閲	ジャガイモの疫病	1905	製本	23×16 236p 太田熊衛文庫
669	ノトリザッショ	ノ012	野取雑書	東古泉村	東古泉			0	原本	26cm
1088	ノリト	ノ013	祝詞(2通)	赤星平次郎	松前	第13番学区松前小学校創立祝辞並びに原稿(草稿)、明治19年8月。今回学区改正令発布については我本郡内学区改正し、濱村外三ヶ村四校を廃し更に第13番学区松前小学校と改正し今や文学日々に進歩し……		1886	袋138 コピー	24×33 2枚
1476	ノウジホウ	ノ014	農事法規		全国	大正13年の小作調停法を解釈する参考書	小作調停法	1924	製本	15×11 52p 太田熊衛文庫
656	ハイカイキスイ	ハ001	俳諧器水辨	中山五嶺		宝暦四年。俳諧放実を主とした俳論。		1754	コピー	23cm 30枚
575	ハイカイハナノ	ハ002	俳諧花の曙	詠詠舎	町内外	諸国補助各位に松前町関係の指導者として千蘿、西古泉の二鶴の名前がある。愛比喜新報付録として明治14年から明治16年まで30号を合本		1881	コピー	26cm
1219	ハイク	ハ003	俳句(断簡)			著者名不明		0	袋102 原本	19×36 1枚
1091	ハイクカインシ	ハ004	俳句懐紙	不明		「朝日雲」18枚、「集儀判」18枚、「雲の峯」14枚。合本3冊。朝日雲の2句、花ざかり千とり鳴くなり隅田川 田舎への土産漸やふじの山 集儀判の1句 柏掌や梢にさわぐ四十雀		0	袋139 コピー	17×23
659	ハイクノサトメ	ハ005	俳句の里めぐり	松山市教育委員会文化教育課	町外	子規堂から始まり、最後は国鉄松山駅の子規、調生句碑で終わるようになっている。読み、作者、建碑年月日、所在地、備考欄からなる一覧表でまとめている。		1976	コピー	26cm 6枚
565	ハイクマキ	ハ006	俳句巻 懐紙	月選		俳句巻とあり 村相撲青年会の余興かな の句もある。発行年代は不明		0	原本	18×25 50枚
566	ハイクカインシ	ハ007	俳句懐紙		西高柳、昌農内	西高柳、昌農内巻合本。木枯らしやわたりに立ちし僧ひとり の句がある。発行年代は不明である。		0	原本	19×25 52枚
661	ハイシマサキ	ハ008	俳誌「まさき」23号	松前町俳句会	町内外	昭和52年4月15日。「茅の出でて色異なる雑木林」の一句あり。チガヤが路傍から消えて久しい。	チガヤ	1977	コピー	16枚
658	ハイジンケイフ	ハ009	俳人系譜			著者、製作年代不明。大日本書畫名家大鑑のうち114pから147pまでコピーしたもの。芭蕉の門人譜があり、芭蕉門人十哲とその弟子が示されている。		0	コピー	22×15 17枚
1274	ハイジンリヨ	ハ010	俳人蓼村 上	仲田 肇	町外	蓼村伝記。俳句交友など仲田がまとめた仲田蓼村の俳句をめぐる生き様ごここにある。		1969	コピー	24×17cm
1275	ハイジンリヨ	ハ011	俳人蓼村 下	仲田 肇		天保4年奈良京都方面紀行文「草月中の8日夕がた船に乗る先矢失ははじめに 日のくれた処宿にせむかたつむり……」で始まる漂泊記、蓼村家系からなる。		1969	コピー	24×17 67cm
1276	バイリンカイ	ハ012	梅林会記録	上高柳	上高柳	梅林の由来を述べる。内容の一部に明治43年両岸鬱蒼として自然の風致をなし……とある。ほか80回を越える会議の記録がある。	梅林、重信川堤防	1931	コピー	26cm 42枚
562	ハナニタワム	ハ013	華野の戯(俳句巻)	亜報園選		製作年不明、松にふく音静かなり秋の空の句がある。5締6締斤候見ゆる花野原 北嶺		0	コピー	25cm 25枚
564	ハナミツキ	ハ014	花満起(俳句巻)			作者不明、発行年代不明。鹿の子や昨日は寺や今日は町 の句がある。		0	コピー	17×27 12枚
660	ハママラコクラ	ハ015	浜村小倉樋門修理関係文書	西川武久	浜村	明治18年6月1日浜村の小倉樋大破、修理関係の文書。浜村の絵地図で小倉樋内の位置が示されている。現在東し構内である。	樋門の修理	1885	コピー	33枚
1092	ハママラシヨ	ハ016	(松前)浜村庄屋日記	浜村庄屋	浜	加藤佐馬助松前御城ではじまる。漁場紛争にかかわる喧嘩毎度のことなりと、紛争の様子をまとめたものである。区長の覚え書き等が集められている。最初の5項目を述べると 1 区域を5区とする 2 口区ごとに入札をなし同時に改札をなす 3 落札者決定した時は違約はせざる こと 4 工事着手5月12日より8日間で終わる	漁場紛争	1668	コピー	袋140 卷子
1093	ハヤサキヨリ	ハ018	早崎より三軒屋道路改修入札心得書	筒井区長	筒井			1932	袋141 原本	26cm 7枚
751	ハラゲサイドウ	ハ019	原下水工事支出簿	南黒田	南黒田	104475円の収入で支出102420となっている。昭和30年	リヤカ	1955	原本	13×36 5枚
574	ハラマチキョ	ハ020	原町郷土誌	原町村誌編纂委員会	町外	自然誌、人分誌に分けて記述し、第一ページには自治の二文字が大きく印刷されている。	郷土史	1911	原本	28cm 115枚 正本
563	ハルノミズ	ハ021	春の水	久保旬林	筒井	句集、著者は筒井1179番地の久保旬林、青柳堂印刷の非売品		1966	コピー	18cm 97p
567	ハンソウザツ	ハ023	半窓雑録	陶半窓	町外	陶半窓が感銘を受けた漢詩人の詩を掲げたもの。製作年不明		0	コピー	16×18
572	ハンソウザツ	ハ024	半窓雑録	陶半窓	町内外	全国各地名、藩主名、石高も集めた辞典の半窓雑録		0	コピー	26cm 19枚

ID 読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
571	ハンソウザツ	ハ025	半窓雑録 2	陶惟貞	製作年代不明		0	コピー	26cm 46枚
570	ハンソウザツ	ハ026	半窓雑録 3	陶半窓	製作年代不明		0	コピー	26cm 47枚
569	ハンソウザツ	ハ027	半窓雑録 5	陶半窓	年代不明		0	コピー	26cm 47枚
568	ハンソウザツ	ハ028	半窓雑録 7	陶半窓	半窓自身の漢詩集、製作年代不明		0	コピー	26cm 40枚
1081	マサキチヨウシ	ハ088	松前町誌編さん記録	町誌編さん委員会	全	編集日誌(ノート)、史料借用台帳、史料貸出簿、町誌編集関係係、町誌編集資料目録、町誌編集計画表、収集資料名簿	1979	袋145 原本	文庫目録に未登録
1335	ハバタケマ	ハ089	翔けまさき新世紀プラン	松前町企画財政課	全町	「人とみどりが輝くぬもりの町 松前」の実現をめざし立案された第3次松前町総合計画。	2001	製本	21×30 129p
1433	ハクツツズ	ハ090	博物図第一略解	伴源平	全国	植物を四部の大別、第一外長部 第二内長部 第三上長部 第四通長部とし外長部の種類が一番多い。	1876	原本 和	16×12 24枚 太田熊衛文庫
1550	ハイクワ	ハ091	俳句 我が友	楠蔭波鷗	全国	忽那蔵書の1冊。左下に浮世と書き入れがある。	1894	製本	18×13 211p
1594	バリノオン	ハ092	巴里の女	ルコント	全国	1954年度ブラヴォー・フランス賞を受賞した、パリジェヌの性態報告	1955	製本	18×23 224p 北辰堂版
850	ヒガシコイズミ	ヒ001	東古泉井出道調課	東古泉村戸長	東古泉	明治8年1月、合本。井出や道路の長さ、田や畑、宅地の坪数など丈量の覚え書きで氏名別に記録し確認の朱印が残る。	1875	原本	14×24
749	ヒガシコイズミ	ヒ002	東古泉上組線道路工事関係書類	東古泉上組	東古泉	設計図、工事日誌、人夫賃、材料研修簿などの合本、昭和8年。東古泉上組から大溝までの道路改修予算である。竹柵の土留めの区間など一昔前の様子が分かる。	1933	原本	30×22
580	ヒガシコイズミ	ヒ003	東古泉地価調	東古泉戸長	東古泉	字、地番、地目、地価のまとめたもので、明治期のものを整理、青写真に印刷している	1872	原本	26cm 5枚
573	ヒガシコイズミ	ヒ004	東古泉地目変換簿書類控	東古泉区長	東古泉	丈量の結果字と地番と所有主をもとに畑や田、道や溝など地目の変更を願い出た書類。検地の平面図がある。	1896	原本	26cm 48枚
859	ヒガシコイズミ	ヒ005	東古泉俳句角力巻	草月庵選	東古泉	大正10年9月上旬。「さわがしき稲の穂なみや群れ雀」さわがしきで始まる俳句相撲。	1921	コピー	21×14
655	ヒガシコイズミ	ヒ006	東古泉原田地区簡易水道組合規則(案)	東古泉区長	東古泉	B41枚にガリ版印刷したものをコピー。最も古いものの第1項は「本組合は東古泉原田地区簡易水道組合と称し組合員は互いに親睦を計り組合に委員会を設置する」とある	1959	コピー	26cm 8枚 昭和34年2月13日
746	ヒガシコイズミ	ヒ007	東古泉村晩稲下見帳	東古泉戸長	東古泉	慶応4年8月、庄屋橋小平太と組頭市右衛門、孫兵衛の署名がある。	1868	原本	14×40
862	ヒガシコイズミ	ヒ008	東古泉村甲戌貢租雑稅仕掛帳	東古泉村戸長	東古泉	明治8年1月	1875	原本	14×40
849	ヒガシコイズミ	ヒ009	東古泉戸籍簿	東古泉村戸長	東古泉	明治10年。生年月日、氏名、番屋敷、身分(理正、農、士族、組頭など)をまとめて両親の氏名を記載している。	1877	原本	28×21
753	ヒガシコイズミ	ヒ010	東古泉地寄帳	東古泉戸長	東古泉	所有者別にホノギ、地番、地価をまとめている。明治13年6月。	1880	原本	14×42
845	ヒガシコイズミ	ヒ011	東古泉畑田畑地寄帳	東古泉戸長	東古泉	明治9年6月16日	1876	原本	14×43
848	ヒガシコイズミ	ヒ012	東古泉村田畑宅地竹生地無税地等	東古泉村戸長	東古泉	明治10年11月。土地の状況を荒地でも無税地でもその等級を決めたもの。竹木性は7畝13歩で7錢3厘。	1877	原本	14×40
750	ヒガシコイズミ	ヒ013	東古泉村戸籍	東古泉戸長	東古泉	第15大区6小区	1877	原本	28×21
856	ヒガシコイズミ	ヒ014	東古泉村田畑人別地寄帳	東古泉庄屋	東古泉	天保9年戊戌正月から天保12年丑歳改土地台帳で、庄屋橋小平太の署名がある。	1837	コピー	18×37 176枚
852	ヒガシコイズミ	ヒ015	東古泉村地検台帳	東古泉村戸長	東古泉	明治12年土地検査の台帳	1879	原本	14×41 26枚
857	ヒガシコイズミ	ヒ016	東古泉村等級取り調帳	東古泉戸長	東古泉	明治10年1月	1877	原本	14×40
854	ヒガシコイズミ	ヒ017	東古泉日待祈禱物価調	東古泉区長	東古泉	昭和15年から昭和50年にいたる東古泉庚申組の祈禱諸経費をまとめたものである。物価の変動がよく分かる。	1975	原本	26×18 6枚
851	ヒガシコイズミ	ヒ018	東古泉村本田新畑代積帳	東古泉戸長	東古泉	明治5年10月	1872	原本	14×40
847	ヒガシコイズミ	ヒ019	東古泉村地租改正並課賦帳	東古泉戸長	東古泉	明治11年	1878	原本	14×40 9枚
748	ヒガシコイズミ	ヒ020	東古泉予算書	東古泉区長	東古泉	明細あり、昭和52年。団体補助150500圓を予算としている。婦人会、消防団、子供会、老人会、秋祭り獅子舞、盆踊りに支出。婦人会が41千円で最高予算を得ている。	1977	コピー	25×18 4枚
858	ヒガシコイズミ	ヒ021	東古泉村田方御内検米積帳	東古泉庄屋	東古泉	万延元年9月米の予想収穫量	1860	コピー	26×36
855	ヒガシコイズミ	ヒ022	東古泉村御田地坪水帳	庄屋・組頭	東古泉		0	コピー	36×25 副本
853	ヒキツギシヨ	ヒ023	引継書類	松前町役場	松前	明治16年～昭和21年までの松前町の引き継ぎ書類名と部数、引継候也印引継相受候也印で動いている書類が分かる。	1946	原本	27×20
747	ヒソウウシヨル	ヒ024	必要書類耕地整理同意書等	中川原区長	中川原	耕地整理同意書、各字地目別面積や地価筆数 明治40年	0	コピー	26cm 25枚
1082	ヒビケシサマ	ヒ025	ひびけし様由来書	河野正明	西古泉	作者年代とも不明、コピーと手紙書き原稿よりなる。明治大正昭和と火事はなかった。移転とともに大火連続、元へ戻して婦人会で記っている。	0	袋142 原本	26×36 2枚
1242	ヒラウトウスケ	ヒ026	義農頌徳碑文(拓本)	平田東助	全	大正元年12月	1912	軸	215×60
752	ヒロシマコウソ	ヒ027	広嶋控訴院判決	藤本次郎	中川原	耕地整理中の排水路復旧工事請求事件の判決。大正5年5月20日。	1916	原本	26cm 14枚
657	ヒロタムラクヨ	ヒ028	広田村郷土誌	広田村誌編集委員会	町外	明治43年12月31日発行。明治18年から同26年まで、総津村外六カ村戸長役場位置は総津村である。六カ村は満穂、猿谷、多居谷、玉谷、中野川、高市である。	1910	原本	28cm 124枚 正本
1373	ヒトノミチ	ヒ029	人の道	近藤元弘	全国	父子の親、君臣の義、夫婦の別、長幼の序、朋友の信などについて述べる	1881	原本 和	18×12 25枚 太田熊衛文庫
1564	ヒヨウチュ	ヒ030	標注日本外史 再刻 18	頼山陽	全国	徳川氏正記「徳川氏系譜より始まる」漢文主体で上段に仮名漢字交じりの解説をおく。	0	製本 和	22×15 31枚
1569	ヒヨウチュ	ヒ031	標注日本外史源氏後記 巻之4			源頼朝よりはじまり、最後のページには鎌倉戦役の図がある。発行年不明	0	製本 和	22×15 40枚
1570	ヒヨウチュ	ヒ032	標注日本外史 巻之17	瀬又二郎 標註図	全国	上段に仮名漢字交じり文で語句を解説。下段は漢文で表記する。徳川氏前記 豊臣氏	0	製本 和	12×15 38枚
842	フウソクキョウ	フ001	風俗矯正勤儉貯蓄奨励会規約	筒井区長	筒井	明治37年3月。第7条には「遊芸として屋外の果実を盗…」事を禁止している。この時代屋外の柿など普通に盗っていたものだろう。代表4名と170名の署名と捺印で規約が承認されている。	1904	コピー	26×18 16枚
839		フ002	不及翁余影	曾我鍛	町外	昭和18年3月25日発行	1943	コピー	26×18 236p
840	ブギョウケンブ	フ003	奉行見分二付 諸仕成御用	筒井村庄屋 喜八郎	筒井	仲田不及翁(伝之長公)伝、年譜と置いて、銀行頭取としての活動などでつづる伝記である。	1809	コピー	18×37 10枚
838	フジョゼイニカ	フ004	賦除税二係願上申届手続書	東古泉村	東古泉	文化6年松前濱添御見分にて諸仕成御用、筒井村庄屋喜八郎のメモ帳。	1884	原本	26×18 53枚
837	フタナシユウ	フ006	二名集		町内外	明治17年11月18日	1802	コピー	26×18 74枚
817	フユカゴ	フ007	冬籠(俳句巻)	守中庵石山選		享和2年2月、松前城、伊予神社、金蓮寺、五本松屋敷など神社や寺などの説明がある。 発行年不明	0	コピー	20×27 27枚
835	フルサトネンチ	フ009	ふるさと年中行事	愛媛県教育委員会	徳丸・北黒田・松前	上浮穴郡小田町、伊予郡松前町では北黒田の虫送り、徳丸の虫干祭、いのこ、松前町の雨乞いがまとめられている。コピーもと不明で発行年不明。	0	コピー	26×18 2枚
836	フルサトネンチ	フ010	ふるさと年中行事調査票	愛媛県教育委員会	徳丸・北黒田・昌農内	「ふるさと年中行事」の原稿となった町内各種行事の報告書。神社で行われる行事がまとめられている。昭和49年10月31日県へ報告している。	1974	コピー	26×18 11p
971	フルサトノデン	フ014	ふるさとの伝説発祥地	愛媛県	町内外	愛媛県生活環境部、県民生活課、昭和55年12月発行。松前町では義農作兵衛、矢野地蔵、大事金蓮寺の3件が取り上げられている。	1980	製本	18cm 70p
818	フワク	フ016	不惑(俳句集)	如雲選		発行年不明 年老えた身は苦にもせず二日灸 身昇	0	コピー	20×21 35枚

ID	読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
815	ブンゲイタイカ	フ018	文芸大会誌	愛媛県教育委員会		俳句、川柳、短歌を昭和50年9月の誌上に掲載。第27回えひめ芸術祭集。		1795	原本	21×15 49p
816	ブンメイショウ	フ021	文明小学校、文華小学校、文健小学校	武市英俊	昌農内・筒井・浜昌農内	明治8年6月29日。西高柳村の学校を昌農内村の文明学校と合併する伺い書。筒井の文華小学校は35名、浜村の文健小学校は210名の生徒数、昌農内は22名である。		1875	コピー	26×18 17枚
813	ブンメイガッコ	フ022	文明学校費用出入帳	窪田節二郎	昌農内	明治7年～8年、東林寺に文明学校が創立された時の経理である。ID814の原本。		1875	原本	14×20
814	ブンメイガッコ	フ023	文明学校費用出入帳	窪田節二郎	昌農内	明治7年、8、9と明治19年文明学校発展期の経理。明治7年の学校入用図書として、世界商売往来、大日本郡名、単語篇、学問のススメ、市郡法制がある。	学問のススメ	1886	コピー	16×36
811	ブンメイガッコ	フ024	文明学校費用遣払帳	窪田節二郎	昌農内	明治19年1月～7月	学校教育	1886	原本	16×21
1278	ブンメイガッコ	フ024	文明学校費用遣払帳	窪田節二郎	昌農内、西高柳	文明学校の会計簿。収入は昌農内と西高柳村から75円。支払い石油8合代金11選2厘。1月3回、2月1回、3月1回とあり、灯火用にしたものであろう。	文明学校	1886	原本	14×24cm
812	ブンメイシャ	フ025	文明社発句集	玉井千蘿選		眼をさます門の流や杜若 紫花 杜若を取り込んだ俳句は4句ある。		0	コピー	21×36
828	フルサトクマ	フ027	ふるさと久万 (創刊号～4号)	上浮穴郡久万町	町外	昭和44年～45年に発行したもの。久万町誌と資料集発行後、新たな資料の発見と研究を公開する手段として久万郷土会を結成、本誌を公刊した。		1970	コピー	26×18 文庫目録に未登録
829	フルサトクマ	フ028	ふるさと久万 (5, 7, 8)	上浮穴郡久万町	町外	1971年から1973年。佃十成公略史 1がある。	佃十成	1973	コピー	26×18 文庫目録に未登録
830	フルサトクマ	フ029	ふるさと久万 (9, 10, 11)	上浮穴郡久万町	町内外	1974年から1975年。佃十成公略史2と3 関ヶ原とその後の話題を述べる。	佃十成	1975	コピー	26×18 文庫目録に未登録
831	フルサトクマ	フ030	ふるさと久万 (12, 13)	上浮穴郡久万町	町内外	1975年～1976年。幽谷様昔の祭り、佃十成(続関ヶ原役余話)などの論放がある。	佃十成、幽谷上人	1976	コピー	26×18 文庫目録に未登録
832	フルサトクマ	フ031	ふるさと久万 (14, 15, 18)	上浮穴郡久万町	町内外	1976年～1978年。佃十成公略史6、7続関ヶ原余話、愛妾についてまとめられている。如来院の戦いの毛利サイドの記録がある。	佃十成	1978	コピー	26×18 文庫目録に未登録
833	フルサトクマ	フ032	ふるさと久万 (19, 20, 21)	上浮穴郡久万町	町内外	1979年から1980年。佃十成公略史を執筆した和田正の郷土史によせる提言と抱負がある。郷土研究の手引きとなろう	郷土研究	1980	コピー	26×18 文庫目録に未登録
834	フルサトクマ	フ033	ふるさと久万 (22, 23, 24)	上浮穴郡	町外	1981年～1982年。松前町関係の資料はない。和田正の地名考は参考となる。	ホノギ	1982	コピー	26×18 文庫目録に未登録
819	ブンカエヒメ	フ035	文化愛媛(創刊号)	愛媛県文化振興財団	県内外	昭和57年発行。特集 子規の系譜として和田茂樹、森本四郎、村上杏史、塩崎月穂外の連接が集められている。	正岡子規	1982	製本	25×21 66p 文庫目録に未登録
820	ブンカエヒメ	フ036	文化愛媛(2号)	愛媛県文化振興財団	県内外	特集 石鏡の人文として、村上説太郎の石鏡面河溪の年表がある。外に森正史、篠原重則外の論説16編がある。		1982	製本	25×21 文庫目録に未登録
821	ブンカエヒメ	フ037	文化愛媛 4(増刊)	愛媛県文化振興財団	県内外	優秀作品として砥部焼きの現在と展望をみつかった矢野徹志「伝統産業をどうとらえるか」がある。	砥部焼き	1983	製本	25×21 文庫目録に未登録
822	ブンカエヒメ	フ038	文化愛媛 3	愛媛県文化振興財団	県内外	特集はい一遍である。越智通敏の「総説一遍」で上人の業績をまとめ、外7名の論説で構成されている。	一遍上人	1983	製本	24×21 文庫目録に未登録
823	ブンカエヒメ	フ039	文化愛媛 5	愛媛県文化振興財団		重川家俊の「伊予の儒学」がある。開明学は、堀川学派、護国学派、朱子学派にわけて論じている。		1983	製本	25×21 文庫目録に未登録
824	ブンカエヒメ	フ040	文化愛媛 6	愛媛県文化振興財団		門田恭一郎の「石手川・重信川の河川改修」がある。		1984	製本	25×21 文庫目録に未登録
825	ブンカエヒメ	フ041	文化愛媛 8	愛媛県文化振興財団		船越清一「南予の帰化植物」にブタクサとキシユウスマノヒエの分布図がある。三好保徳「植物の地方名(方言名)」にリュウキイモがかずら芋と出ている。	リュウキイモ	1984	製本	25×21 文庫目録に未登録 正本
827	ブンカエヒメ	フ043	文化愛媛 9	愛媛県文化振興財団		直木孝次郎の「松山海軍航空隊の思い出」がある。		1985	製本	25×21 文庫目録に未登録
809	フジンブンカ	フ046	婦人文化 1巻	中山女性文化研究所		昭和2年9月1日発行		1927	原本	22×15 246p
810	フジンブンカ	フ047	婦人文化 2巻	中山女性文化研究所	町内外	鳥居龍蔵「原始文化と女性」など婦人文化の向上を論じたものが多い。各地のニュースのうち女性で最初の理学博士保井コノ子の紹介、鳥居龍蔵婦人の内外蒙古探検旅行記「土俗学上より見たる蒙古」も紹介されている。	安井コノ・鳥居龍蔵	1928	原本	22×15 510p
1303	フジノキ	フ048	婦人の教育 巻3	浜本義太郎	全国	小児養育の大意、裁縫の部、毛糸編み物の部、茶湯の部、生け花の部、和歌の部に分かれ女子教育を語る。	女子教育	1888	原本	22×15cm 42枚 太田熊衛文庫
1459	フミツツリ	フ049	文綴 習字本	内田嘉一	全国	小作証文などの覚え書き、各種覚え書きの例文を多数載せている文綴り、例文の手本。		1875	原本	22×15 28枚 共耕社 太田熊衛文庫
1469	フツリガク	フ050	物理学教科書	本多光太郎	全国	物理学の総説、力、運動、液体、気体、熱、音、光、磁気、電気などエネルギーを勢力と表現している。	勢力(エネルギー)	1905	製本	23×16 226p 太田熊衛文庫
1472	フツウキョ	フ051	普通教育学	小泉又一	全国	教育教科書中より教育学、教育的心理学、小学校各科教授法の三書を妙約する。小学校教員養成所用として発行		1905	製本	22×15 311p 太田熊衛文庫
1583	ブッキョウ	フ052	仏教の根本思想	大内青巒	全国	緒言、仏教の原理、仏教の道德、信行綱領、処世の道で構成されている。		1908	製本	22×15 212p 国光社
1599	ブンカセイ	フ053	文化生活	枝元長夫	全国	大阪毎日新聞社大正12年5月発行。科学を基盤とした文化生活のあり方を40余名の博士が語る。	ノミの駆除法	1923	製本	19×13 336p
807	ベイザンノウタ	へ001	米山の歌(二)	三輪田米山		明治31年米山78才、79才の歌。ただ酒をのむより外は楽しみのある人こそ悲しけれなど酒の唄多数を抜書きしたものである。		1898	コピー	16×18
808	ベイザンノウタ	へ002	米山の歌 (三)	三輪田米山		米山80才、86才。かど店で焼酎一つのみつれど 昔の如くなきが悲しき、淋しとはいかで思わぬ酒くめば あわれ昔の心地のみしてなど老境の酒のわびさを唄っている。		1900	コピー	26×18
805	ヘイジニカンス	へ003	兵事に関する綴	北伊予村役場	北伊予	昭和10年、軍人遺族、国防婦人会、召集令状、軍艦妙高便乗希望者、友鶴の殉難者、在郷軍人会、213種目にわたる職工人夫募集要項など資料多数あり。	戦争	1935	原本	27×20
806	ヘンカンノトリ	へ005	変換野取帳	東古泉区長	東古泉	明治22年7月1日。114番字四つ黒元草生地、手数料8選とあり、証人の印鑑を押している。いくつか野取り図とともに記録		1889	原本	13×17
1261	ホウオンカイキ	ホ001	報恩会記録	大西盛行	上高柳	大西盛行より上高柳区長へ田9畝6歩を寄付し、報恩会が結成された。寄贈田からの定米で天地の神祇を祭り、残りを利殖とし極貧者、扶養者無き老衰者を救済することに遣うとの付帯条件がある。		1933	コピー	26×18
803	ホウトウクシュ	ホ003	奉燈句集	海舟堂五世選		年代不明、大溝の花鳥、浜の選史や吞山、出作の風声その他椿山、立志らの俳句集。		0	コピー	18×26 28枚
804	ホウケツランシ	ホ004	芳閣嵐史 全	南源薫		桜鯛船の姻もゆたかなり 紫泉 後醍醐天皇の南北朝争乱の記録、南北御和睦までまとめている。最後に日野中納言殿執事六位上前大和家塚入介入道宗信とある。		1596	コピー	25×18 52枚
801	ボクスイガッコ	ホ006	墨水学校(創置) 付. 文明学校	大肥誌実太郎・窪田正綱	上高柳・昌農内	創立墨水小学校創立伺いである。学校経費125円の内100円余が人件費である。		1882	コピー	26×18 13枚
802	ホクトウロクイ	ホ007	北藤録 (戊)	自泰楽 至泰統	町外	昌農内の文明学校の創立伺いも綴じてある。		0	コピー	26×18 111枚
799	ホクトウロク	ホ008	北藤録 (庚)			大洲城主加藤家の財産目録、初代城主1617年から明治34年13代にわたる252年間の記録。	大洲城	0	コピー	26×18 81枚
						18、19、20の合本。家系、系図。加藤家の光泰(18)、光直(19)、光吉(20)の家系図を伊予史談会が大正15年3月製本している。	大洲城主加藤家	0	コピー	26×18 81枚

ID	読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
800	ホンジョウジ	ホ009	本性寺寺院規則	真言宗管長	徳丸	48條からなる。第7條に恒例の法要が11まとめられている。四大節その他国家の祝祭日における奉禱会、正御影供、常楽会、春季彼岸会、降誕会、本尊会式、孟蘭盆会、秋季彼岸会、施餓鬼会、秋季彼岸中日成道会、陀羅尼会など月日まで示している。		1942	コピー	26×18 10枚
798	ホシカノウイチ	ホ010	星加宗一 蔵書目録	星加宗一		和本類、一枚物写し、書写本、色紙、摺物の大量点数目録が示されている。現在これらはどこに保存されているのか不明。		0	コピー	26×37 99枚 文庫目録に未登録
410	マサキエキテ	マ002	松前駅移転計画書類	松前町役場	松前	松前駅移転計画図面がある。昭和3年から昭和6年までの書類。県道原町松前線の開設にともない松前駅を移転させる買収書類である。	松前駅	1931	原本	26×18
412	マサキシヨウガ	マ004	松前小学校創置	松前町	松前	明治19年発行。伊豫郡第3番学区松前小学校創置の伺い書。教場は28坪あり、生徒入り口と玄関は別にある。		1886	コピー	21×15 24枚
623	マサキシリョウ	マ006	正木史料 1			本書は水口加藤子爵家の系譜にして、その藩士細野正氏の所蔵に係わる。大正4年7月借りて之を書き写すとある。		1925	コピー	26cm 67枚
620	マサキシリョウ	マ007	正木史料 2		西園寺富水	嘉明神御傳と水口藩歴々系図からなる。原本は水口図書館の保管しているものを写したものである。		1925	コピー	26cm 70枚
621	マサキシリョウ	マ008	正木史料 3		西園寺富水	秀吉よりの感状三通をはじめとする加藤嘉明に関する文書集・加藤家譜よりなる。		1925	コピー	26cm 74枚
622	マサキシリョウ	マ009	正木史料 4		西園寺富水	水口藩士石川から竹村までそれぞれの係を辿り出自を明らかにしたもの。		1925	コピー	26cm 88枚
626	マサキシリョウ	マ010	正木史料 5		西園寺富水	松前城址及附近一見録の二の丸と本丸、竜頭の松の位置関係を図示している。その他松前と言う文字の使われる文書名でまとめている。	松前	1925	コピー	26cm 69枚
627	マサキシリョウ	マ011	正木史料 6		西園寺富水	加藤嘉明を中心とする加藤家の資料を集めたもので、水口の細野正翁の助力を得ている。	加藤嘉明	1925	コピー	26cm 83枚
625	カサキシリョウ	マ012	正木史料 7		西園寺富水	先邦物語で掘主水のこと詳しく述べられる。最終章に掘主水、掘主水逢女幽霊の2編がある。		1925	コピー	26cm 47枚
411	マサキジンジョ	マ013	松前尋常高等小学校設置并二福築菓諸(社)	松前町	松前	明治25年10月12日		1892	コピー	25cm
613	マサキジツギョ	マ014	松前実業補習学校、松前青年訓練所沿革誌		松前	大正8年～昭和21年。 大正8年南黒田、北黒田、筒井の3農業補習学校を統一、松前実業補習学校となる。大正15年青年訓練所となり、教練が始まる。公式の沿革誌。	補習学校	1846	原本	26cm
653	マサキシントハ	マ015	松前新田畑人別作り畝株分定米寄進帳	筒井村	筒井	紙数23枚但し紙共とあり、次のページには明治11年6月11日判事高塩又四郎 忠蔵 彦八歩 八升九合とあり人名、土地面積と収量を記入したもの。		1866	コピー	18×26 72枚
612	マサキチョウイ	マ016	松前町一般会計予算書	松前町	全	昭和51年度の予算書。一般会計予算総則、歳入歳出予算と地方債の明細が印刷製本されている。		1976	ガリ版	17×25 162p
649	マサキチョウエ	マ017	松前町沿革史稿	松前町役場	松前	明治18年1月15日浜村外3ヶ村戸長役場を浜村新立に設置から、昭和6年4月23日の義農200年祭を大念寺、義農の墓で実施するまでの年表形式の沿革史である	暴風雨海嘯	1931	コピー	18×26 108p
650	マサキチョウエ	マ018	松前町沿革史	松前町役場	松前	昭和6年、ノート4冊の合本、マ017下書きで丁寧にインクで書き上げられている。貴重な編集であるが執筆者不明である。	下書き原稿	1931	ノート	21×16
606	ブラクカイホウ	マ019	松前町部落解放史	松前町同和教育協議会	全	7章からなる原稿用紙へ書き込んだもの。 1松前町解放史編纂について 2松前町における解放運動の歩み 3行政におけるとりくみ 4学校教育に… 5社会教育に… 差別の現実 6古老に聞く解放への願い 7あとがき 対等合併した岡田、北伊予、松前の昭和34年の松前町再建計画。附属書類として国鉄北伊予駅を分岐点とする国鉄の松前町への引き込み線を計画、実現していない。	差別の現実	1982	コピー	26cm
181	マサキチヨ	マ020	松前町建設計画	松前町役場	全		予土線	1959	コピー	26cm 13枚
614	マサキチョウコ	マ021	松前町公益質屋事務引継書	山下長太郎、酒井国太郎	松前	昭和13年12月16日		1938	コピー	26cm 12枚
644	マサキチヨウ	マ022	松前町歳入歳出決算書	松前町	松前	昭和29年		1954	原本・ガリ版	26×37
645	マサキチヨウ	マ024	松前町社会福祉協議会総会資料	松前町社会福祉協議会	全	昭和52年度社協事業報告書、同社会福祉協議会一般会計決算書、同松前町心配事相談特別会計決算書、同共同募金配分特別会計決算書等からなる。	ふとん丸洗い乾燥事業	1978	製本	26×37 31枚
609	マサキシャカ	マ025	松前町社会教育	松前町教育委員会	全	昭和53年、『松前町誌』発行の基本計画がある。1編自然環境から12編年表まで示されている。編集委員は故人が多い。	松前町誌	1978	ガリ版	25cm 47p
619	マサキチヨウシ	マ026	松前町消防団沿革誌	松前町	松前	明治22年12月15日濱村、筒井村を合併して松前村と改称、村内壮年の男子50名を以て消防組を組織したから始まる昭和27年までの沿革史	消防組	1952	原本	26cm 7枚
610	マサキ	マ028	まさき	松前町役場	全	「教育の町」宣言への道がまとめられ、岡田小学校前の広告塔に掲示された。この前には南北の通路有り、牛飼原の松も松前小学校前に元気に残る。	教育の町	1966	製本	25cm 36p
608	マサキ	マ029	まさき	松前町役場	全	昭和44年4月15日発行の町勢要覧。東側の写真には国近川河口と拾い砂浜わかる。重信川出合い大橋の下流左岸松前側の堤防林が写されている。	古い写真記録	1969	製本	26cm 40p
607	マサキ	マ030	まさき	松前町役場	全	西古泉水源地や国道56号線など建設初期の写真など図版中心の編集である。		1972	製本	18×26 48p
651	マサキチヨウセ	マ031	松前町勢要覧 1978	松前町役場	全	重信川レクリエーションライン、工場西海岸埋め立て工事着工(昭和49年10月)などの新しい息吹を伝える。ホルトノキの元気な姿も印象に残る。		1978	製本	24cm 39p 正本
1019	マサキチヨウタ	マ032	松前町短歌会会則	松前町短歌会	全	総則、役員、会議、会計、附則からなる16条。副会長は3校区から3名を選出。		1966	袋146 ガリ版	1枚
419	マサキチヨウト	マ033	松前町統計書	松前町	全	地域住民生活に密着した行政の基本的方向を示す指針としてこの統計書を創刊している。このあとと続刊しているのなら、文庫目録に登録すべきである。	数字で見る松前町勢	1979	製本	26cm 77p 副3冊有
646	マサキチヨウ	マ034	松前町内動物植物	平井屯	全	松前町誌編集に利用する生物を各郷土誌より抽出一覧表にしたものと、聞き取り調査のため、必要な項目をまとめた。		1975	ガリ版	26×37
424	マサキチヨウノ	マ035	松前町農業委員会委員選挙人南黒田有権者	南黒田	南黒田	大川計より横山妙子まで、260名の有権者名簿		1960	原本	26cm 2枚
425	マサキチヨウノ	マ036	松前町の川と泉	三好祐子	全	愛大の卒論、昭和53年。附図のコピーを欠くため理解されにくい内容となっている。附図を総て補充すると重要な水問題の原著論文となる。		1978	コピー	30×22
409	マサキチヨウノ	マ037	松前町の工場誘致	武知雅一	全	昭和17年6月30日松前町役場発行、用水源を岡田村へ10本設置、用地買収に郡中警察署長の調停で契約成立。	水源地の交渉	1942	製本	19cm 163p
423	マサキチヨウノ	マ038	松前町の状況	兵頭貞雄	全	町村合併に関する議事録。最後に特に発言を求め大間部落の総意として、三か村町の合併で新町発足するまでに東洋レーヨンとの契約を新しく締結するよう希望している。		1955	コピー	26cm 11枚
416	マサキチヨウノ	マ039	松前町の状況調書	松前町	全	昭和30年1月1日現在の調査。原松前町の合併成立で松前町とする根拠を述べている。加藤嘉明の松前20万石、近代の松前の東してよく知られた名前である。その他	松前町への合併	1955	製本	26cm 21p 正本 副2冊あり
1252	マサキチヨウホ	マ040	松前町本村平面図		松前	青写真で600分の1の尺度、明治44年		1911	青写真	72×82 1枚
415	マサキチヨウレ	マ041	松前町例規集(社会福祉、住宅)	松前町	全	保育所設置条例(昭和37年)で、松前保育所、黒田保育所、小富士保育所、二名保育所、白鶴保育所、宗意原保育所は児童福祉法35条第2項軒堤による保育所である。	松前町敬老年金、母子家庭	1962	コピー	26cm 40枚
616	マサキチヨウレ	マ042	松前町歴代役員名簿	松前町役場	松前	町長、助役、収入役、学校長、町村会議員名を明治18年から昭和2年1月4日まで記載		1931	コピー	26cm 4枚
647	マサキノウギョ	マ043	松前農業振興地域整備計画書	松前町	全	昭和49年3月		1974	製本	25×37 21p
617	マサキムラソン	マ046	松前村村会議員名簿	松前村	松前	明治23年、当選年月日、解任年月日、解任理由、摘要、氏名、生年月日の項目で議員一覧表を作成	町会議員除名簿	1890	原本	27×20 34枚
618	マサキムラシヨ	マ047	松前村職員議員名簿	松前町役場	松前	明治23年村長片桐健助、助役赤星平次郎、収入役武知靖満期解職と朱記されている。就任や解職のたのびの記録。		1890	原本	26cm
422	マサキムラヤク	マ048	松前村役場訓令簿	松前村役場	松前	役場の諸帳簿とその保存年数(永年、10年、3年)が示されている。陸軍下士奉在隊間成績調書は永久保存である。	兵事	0	原本	23cm 10枚
648	マサキユビン	マ049	松前郵便局業務概要	松前郵便局	全	郵便集配は昭和4年5月1日に開始など業務開始年がはっきり示される。		1930	コピー	26×36 15枚

ID 読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
950	ジムシサツロク	マ049 事務視察録	松前町役場	松前	工場誘致、港湾改築に関し借入町債54万5千円の「昭和18年以降の財源みあたらず寒心に堪えざる所」とはじめにある。		1941	原本	26×18 13枚
418	マサキライオン	マ050 松前ライオンズクラブ会報	編集部	松前町全	機関誌No1. 2, 3, 4, 11の5冊合本。各号3枚上質紙で編集されている。各号には霊界の出席者や行事を紹介している。		1978	製本	
641	マサゴノシラベ	マ051 真砂の志良辺 1	大原其戒		明治15年明栄社発行 第36号～第94号通巻161号も続刊された中期頃の作品集である。		1882	コピー	26cm
628	マサゴノシラベ	マ052 真砂の志良辺 2	大原其戒	明栄社	第97号～122号、其戒が三津の自宅に明栄社を開き俳句を編集したのも。四国はもとより東北、九州からも多数の俳人が投句している。		0	コピー	26cm 111枚
639	マチヨイグサ	マ053 待宵草	門田一貴		句集、昭和28年6月23日発行 久谷川水害復旧工事 罪人の働く春の雪降り 春水に罪人己のもの洗う 昭和18年水害の復旧工事であろう。	水害復旧工事	1953	コピー	26cm
408	マツノミドリ	マ054 松の美登里	玉井千蘿・野沢二鶴	町内外	明治15年玉井千蘿が野沢二鶴と協力出版した月刊発句誌。「花の曙」、「真砂志良辺」同人らが投句している。		1882	コピー	22×15
611	マツヤマオフレ	マ055 松山御触書	伊予史談会		文化二年、文化9年、文政12年、天保13年の年賀、子供祝い、念仏、御儉約筋、博打など松山藩の御触書。昭和6年伊予史談会が編集同年7年に装幀したもの。		1862	コピー	26×18
1030	マツヤマコウチ	マ056 大松山港築造の構想	本保弥吉	町内外	伊予市森の岬より粟井坂池崎よりごご島頭崎に至る海岸埋め立てにより土地を造成、工場と港湾設備をもうけ海岸線に国鉄を敷設し、関西の西の玄関とする構想をまとめたものである。	国土開発	1961	袋143 原本	5枚・ガリ版
1083	マツヤマゴリヨ	マ057 松山御領筒井村札制写	鷲野家庄屋文書	筒井	年代不明、鷲野家文書。天和2年 2件、正徳4年、明和7年、天和2年の5件の御制札		0	袋144 コピー	25×18 8枚
420	マツヤマセイホ	マ061 松山政法編集 3	松平定英君政治編集		享保5年から18年 天草丹下云々条帯は筆の誤 長野泉之部文口条遺恨は遺憾也の誤など。表紙に前葉欠失したるもの乎とあり、随筆欄に後葉欠失と明記されている。		1733	コピー	26cm 79枚
421	マツヤマソウダ	マ062 松山叢談正誤	河東静溪		本学校は明治9年6月17日始め二番町に開設し変則中学校と称す。本件中学校の設置はこれをもって嚆矢とす。是より前勝山学校の課外……		0	コピー	26cm 28枚
642	マツヤマチュ	マ071 松山中学校沿革調	内務省第三課		松山南部と郡中の二五〇〇分の一の地図を張り合わせて、自然堤防、扇状地、砂丘、旧河道をカラー別に表現したものである。	中学校の創立	1891	コピー	26×18 11枚
1029	マツヤマナンプ	マ072 松山南部地図	国土地理院	町内外	宝暦時代(1751～1763)大佛寺、常信寺の記録、江戸の大事業も記録され藩士の誕生、卒去、温泉日記	旧河道、扇状地	1972	袋143 原本	46×106 1枚
638	マツヤマヘンネ	マ074 松山編年記	福島正則		明治19年。明治5年県下一般里正の職を廃止、このとき勤続していた家の当主を記入したもの。		1763	コピー	26cm 66枚
640	マツヤマリョウ	マ075 松山領里正鑑	山下清風		伊予郡に保免村、東余戸村、西余戸村、東西垣生村が含まれている。		1886	コピー	26cm
470	マンエンニッキ	マ077 萬延日記帳	高市家		正月 1日 忝反九畝春拾歩 價金六拾沓円貳拾五銭 正月1日 米貳俵二符七百六拾目費 などのメモで始まる。		1860	コピー	14×42 20枚 明治廿拾年の覚
417	マンシュイミン	マ078 満州移民に関する綴	北伊予村役場	北伊予	今や日本農民は雄輝遠大なる理想信念の下に満州国創造の一員と……ではじまる満州移民を募集する関係書類多数をまとめたもの	満州国	1937	原本	26×19
636	マンヨウシュウ	マ079 万葉集讀本 1	忽那久吉		忽那久吉資料自筆本、額田王歌が最初にあり。万葉仮名で書き写したのも。ところどころに著者の注を入れ、独習の苦心の跡が伺える。	熟田津	0	コピー	24×17 60枚
637	マンヨウシュウ	マ080 万葉集讀本 3	忽那久吉		忽那久吉資料 自筆本 6～7		0	コピー	24×17
629	マンヨウシュウ	マ081 万葉集讀本 4	忽那久吉		忽那久吉資料 自筆本 8～9		0	コピー	24×17 58枚
630	マンヨウシュウ	マ082 万葉集讀本 (5)	忽那久吉		忽那久吉資料 自筆本 10		0	コピー	24×17 57枚
631	マンヨウシュウ	マ083 万葉集讀本 6	忽那久吉		忽那久吉資料 11		0	コピー	24×17 47枚
643	マンヨウシュウ	マ084 万葉集讀本 7	忽那久吉		忽那久吉資料 自筆本 12～14		0	コピー	24×17 75枚
632	マンヨウシュウ	マ085 万葉集讀本 8	忽那久吉		忽那久吉資料 自筆本 15～16		0	コピー	24×17 50枚
634	マンヨウシュウ	マ086 万葉集讀本 9(写)	忽那久吉		忽那久吉資料自筆本 17～18		0	コピー	24×17 42枚
633	マンヨウシュウ	マ087 万葉集讀本 10	忽那久吉		忽那久吉資料自筆本 19～20		0	コピー	24×17 69枚
1281	マサキチヨウシ	マ088 松前町誌編さん記録	松前町誌編さん委員会	全	資料目録、町誌編集関係綴、資料貸出簿、編集日誌(昭和51年11月19日から昭和53年11月11日)等で、編集の熱気が伝わる人名や重要事項が要約されている。	松前町誌編集記録	1978	原本	ノートなど6冊
635	マダサカエ	マ089 升田栄遺稿集	升田栄		升田栄遺稿集刊行会 昭和53年		1978	コピー	26cm 246p 文庫目録に未登録
413	マツヤマシヨウ	マ104 松山史要	西園寺源透	町外	伊予史談会昭和2年5月5日発行。年表形式に上下二段組、上の段に項目、下の段へ解説を配置している。最後に 松山の大地と取りまくさとさとのいはれ記せるうましこの文と中西九史が記す。	正木城、伊豫川の改修、三津の役	1927	コピー	19×17 文庫目録に未登録
414	マツヤマノエド	マ105 松山の江戸・明治・昭和	村上節太郎	町内外	戦前の地図の解説、松山市と隣接市町村の合併編入表、米価の平均累年比較、松山の明治維新後の年表など、松山道後ライオンズクラブ発行	古地図	1980	コピー	22×19 18p 文庫目録に未登録 2冊
1251	マサキコジョウ	マ106 松前古城の図 A	野沢市次郎	全	久松伯氏の所蔵に係るものなりと、甘前ジ城であると言われている。原因ではない。		0	コピー	鳥の子紙へ印刷
1248	マサキコジョウ	マ107 松前古城の図 B		松前	大正9年9月17日写本、昭和59年7月25日再写本		1984	コピー	青くコピーされている。
1448	マサキノネ	マ108 まさきの年中行事	松前町教育委員会	全町	元旦からおせち料理までを記録している。地域ぐるみ保存継承されることを願っての編集発行。		1998	製本	21×30 54p
1479	マサキチヨ	マ109 松前町誌	松前町誌編集委員会	全町	松前町郷土室文庫は「松前町誌」発行のため収集した資料より成立。町誌の根拠となる資料は貴重な文化財である。		1979	製本	22×16 1699
1480	マサキシダ	マ110 松前史談 創刊号	松前町郷土を語る会	全町	結成式と町内史跡めぐり、作出遺跡発掘物語、モガシ、義農作兵衛終焉碑などの写真を掲載。		1985	製本	21×15 88p
1481	マサキシダ	マ111 松前史談 第2号	松前町郷土を語る会	全町	作出遺跡についての論説2篇あり。		1986	製本	21×15 104p
1482	マサキシダ	マ112 松前史談 第3号	松前町郷土を語る会	全町	巻頭言「……可能なかぎり多くの資料を集め、その資料に基づいて物事を解明し、現代に生きて働く道理を発見することが今、私たちに与えられた課題である……」		1982	製本	21×15 82p
1483	マサキシダ	マ113 松前史談 第4号	松前町郷土を語る会	全町	巻頭言「……「義農」というのはやさしい。何にでも宣伝的に「義農」の冠詞つけてよいものであろうか。……」とあるように重い課題を追求しようとしている。		1988	製本	21×15 82p
1484	マサキシダ	マ114 松前史談 第5号	松前町松前史談会	全町	巻頭言に書くということ題して「……日ごろ見聞した中で自分の意に合ったことを、何でもどんあにでも書き留めておこう。……」これが文化創造に繋がる道であると説く。		1989	製本	21×15 80p
1485	マサキシダ	マ115 松前史談 第6号	松前町松前史談会	全町	巻頭言に「……文化財巡りは町外、県外へと広がって行く。……」とあるように、文化財巡りを重視し、子どもたちの中に次代の文化の担い手を養成するべく活動している。		1990	製本	21×15 82p
1486	マサキシダ	マ116 松前史談 第7号	松前町松前史談会	全町	巻頭言に「……会誌「松前史談」は高齢者、熟年者の日常的な教養の源泉であるとともに次代をになう若者たちへの教育資料としても、すぐれた効果を発揮できる……」のように多様な世代に対応した雑誌である。		1991	製本	21×15 84p
1487	マサキシダ	マ117 松前史談 第8号	松前町松前史談会	全町	「いつでも 誰でも お氣がるに 参加ください」として楽しい史談会の史跡巡りのいろいろな写真記録がある。		1992	製本	21×15 80p
1488	マサキシダ	マ118 松前史談 第9号	松前町松前史談会	全町	文化講演、和田茂樹の「正岡子規」の講演要旨が掲載されている。		1992	製本	21×15 82p

ID 読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
1489	マサキンダ	マ119	松前史談 第10号	松前町松前史談会	全町		1993		
1490	マサキンダ	マ120	松前史談 第11号	松前町松前史談会	全町	巻頭言には教育の町宣言30周年に当たり「……「教育の町」という高度な理想郷に向かって、民間の自在な活力ある精進を期待したい。」とある。	1994	製本	21×15 82p
1491	マサキンダ	マ121	松前史談 第12号	松前町松前史談会	全町	文禄4年の夏の論考に比較郷土史学の実践を説く。	1995	製本	21×15 82p
1492	マサキンダ	マ122	松前史談 第13号	松前町松前史談会	全町	義農作兵衛と松山騒動で救援策の効果のない理由をまとめている。	1996	製本	21×15 78p
1493	マサキンダ	マ123	松前史談 第14号	松前町松前史談会	全町	古謡にみるおたのプライドとして「……おたの気風の良さと進取の気質が今も町民に綿々と脈打っていることを確信するものである……」とまとめる。	1997	製本	21×15 78p
1494	マサキンダ	マ124	松前史談 第15号	松前町松前史談会	全町	松前城下町復元の試みとして、富田泰弘の研究の支援と交流を記録する。	1998	製本	21×15 78p
1495	マサキンダ	マ125	松前史談 第16号	松前町松前史談会	全町	ふるさと歴史散歩と郷土史として発行された徳丸、中川原、昌農内の三誌を紹介している。	1999	製本	21×15 78p
1496	マサキンダ	マ126	松前史談 第17号	松前町松前史談会	全町	総会記念講演を長井数秋が行い、松前町の縄文時代、弥生時代を発掘資料を基に論ずる。	2000	製本	21×15 82p
1497	マサキンダ	マ127	松前史談 第18号	松前町松前史談会	全町	史話断章として、自分史も郷土史研究の一歩たりうると主張する。	2001	製本	21×15 82p
1498	マサキンダ	マ128	松前史談 第19号	松前町松前史談会	全町	歴史の中を旅するとして、史跡訪問を繰り返すことは、人税の旅であり、遠回りしても日本を理解する一番近い道であるという。	2002	製本	21×15 70p
1499	マサキンダ	マ129	松前史談 第20号	松前町松前史談会	全町	巻頭言「松前史談」20号発刊におもうとして会誌の特色を六項目にわたって紹介している。	2003	製本	21×15 82p
1500	マサキンダ	マ130	松前史談 第21号	松前町松前史談会	全町	創立20周年行事として、講演会を実施、その特集号であり、富田泰弘の公演や間奏を掲載	2005	製本	21×15 78p
1501	マサキンダ	マ131	松前史談会創立20周年記念行事資料集	松前町松前史談会	全町	「松前史談会20年の歩み、松前史談著者別索引」、「歴史地理学的研究による伊予松前城下町の復元」、「発表付属資料集」図版全て鮮明、昭和22年の空撮図は松前は水田のなかにあると読める。	2004	合本	大きさ各種
1571	マサキチヨ	マ132	松前町とその周辺で生活する野鳥	ERAS	全町	町内各地で野鳥を記録したものの集大成である。	1982	タイプ印刷	18×26 53p
1302	マサキチヨ	マ141	松前町横田遺跡IV調査報告書	松前町教育委員会	横田	大溝遺構を検出、環濠の可能性あり。用水路と水田用水のためのめぐる遺構。石器として石錘も出土している。	1996	製本	21×30cm 61p
1329	マサキチヨウ	マ142	松前町大字大溝沿革史	田中義一	大溝	大溝を知る基本文献である。足立重信の河川工事は大規模でなく現在の重信川筋を改修したとする仮説の提唱者の著作。	1998	製本	16×36 80p
1390	マンザイロ	マ143	萬歳古状揃		全国	文化2年2月発行。年中24節、72候の図、謡出シ文草他……	1805	和綴じ	26×18 20枚 太田熊衛文庫 26cm 27枚 昭和13年5月 謄写
770	ミカミゼアン	ミ002	三上是庵文書	三上是庵		製作年月日不明。三上が尾崎矯高齋院口庵および其の長子六之助に与えた書状を編集したものである	0	コピー	26×18
764	ミカミゼンセイ	ミ003	三上先生筆記	三上是庵		制作年代不明。御縁文、六字拙講、真伝説、一孟談、別色話、一夜話録などは庵の講義録を主とする。	0	コピー	26×18
769	ミサケジンジャ	ミ004	味酒神社年代記	味酒神社	町外	享保3年2月～享保4年8月(38年間)の大風、大雨、火災、地震、誕生や逝去にまつわる話題などを編集している。	1719	コピー	26cm 65枚
763	ミタムラヒジロ	ミ005	三田村秘事録	伊予史談会		松山城主久松定勝公、定頼公、定長公、定直公、定英公など殿様の行動をまとめた秘事録。	1921	コピー	26×18
755	ミナミイヨムラ	ミ006	南伊豫村郷土誌	南伊豫村郷土誌編集委員会	町外	溜池数58の位置、水面反別、水深を示し備考として建築の年度のわかるもの11を示す。大干ばつの結果、秋、冬から貯水始める。	1911	原本・ガリ版	28cm 187枚 明治44年6月発行
754	ミナミイヨムラ	ミ007	南伊豫村自強会規約規程	南伊豫村自強会	町外	実行要目として三大節三大祭と孟蘭盆会の儀式から、献穀、郷土史補修、談話会、尚歯会、善行者表彰、組極、勤儉力行、自強貯金、保安部設置など自治の振興を図る規約。	1921	製本	13×18 54p 大正10年印刷
761	ミナムクログダ	ミ008	南黒田字費決算簿	南黒田区長	南黒田	昭和(32. 33. 34. 36. 37. 39)6年分の決算簿をまとめている。昭和34年に旧製糖場敷地を購入している。	1954	原本	26cm
762	ミナミクログダ	ミ009	南黒田字費決算簿	南黒田区長	南黒田	昭和26年度の仕役相場、賦課法並びに計算法が示され、字費の個数割り経費の明細他あり、字費算定の根拠がしめされる。字費	1964	原本	26cm 昭和32～39年の記録
773	ミナミクログダ	ミ010	南黒田字費戸数割元帳	南黒田区長	南黒田	昭和24年～昭和26年。昭和24年実戸数 126、一戸当 35. 3、延戸数 1272、一戸当 31. 5円と字費を戸数割。	1951	原本	14×36
775	ミナミクログダキ	ミ011	南黒田村共有地財産支出帳	南黒田区長	南黒田	昭和27年	1962	原本	14×36 2枚
776	ミナミクログダコ	ミ012	南黒田戸数割り別帳	南黒田区長	南黒田	一割、一戸、二戸と戸数割りしていたものが、住民割り、平均割り、一戸、二戸、……43戸となる。支出の明細はない。	1952	原本	14×36 14枚
785	ミナミクログダコ	ミ013	南黒田戸数割り別計算書	南黒田区長	南黒田	昭和27年～28年、2冊を合本1冊。戸数割りの試算帳簿と決定したものと支出先の金額が示される。猿田彦宮社補修費2850円とある。	1953	原本	14×36 44枚
790	ミナミクログダコ	ミ014	南黒田戸数割り別帳	南黒田区長	南黒田	昭和29年、戸数割りの人名一覧表と戸数割り支出明細書。	1954	原本	14×36 13枚
789	ミナミクログダコ	ミ015	南黒田戸数割り別帳	南黒田区長	南黒田	昭和30年。住民割り70円、1戸140円、2戸215円とあって、48戸は3575円となる。それぞれ該当する人数が一覧表となっている。	1955	原本	14×36 48枚
784	ミナミクログダコ	ミ016	南黒田戸数割り別帳	南黒田区長	南黒田	昭和31年～33年、3冊を合本して1冊。住民割り 45円4名、1戸95円10人、2戸145円17名となる。36戸は一人で1845円である。	1958	原本	14×36 24枚
783	ミナミクログダコ	ミ017	南黒田戸数割り別帳	南黒田区長	南黒田	昭和34年～35年。住民割り、平均割り、1戸、2戸……14戸まで連続し20戸以後は該当数少なく43戸が最高である。	1960	原本	14×36 19枚
782	ミナミクログダム	ミ018	南黒田戸数割り別帳	南黒田区長	南黒田	昭和38～39年。昭和39年は平均割り、1戸、2戸、3戸と増え最高が60戸である。戸数が大きくなるほど世帯数が少ない。	1964	原本	14×36 33枚
787	ミナミクログダコ	ミ019	南黒田小走歩付控帳	南黒田区長	南黒田	昭和30年、井手掘り、草刈り通知、牛の爪切り炊き出し、冬火鉢の火起こしなど暖房の主力は木炭、令書、通知書等の配布等仕事内容が分かる。	1955	原本	14×36 10枚
788	ミナミクログダス	ミ020	南黒田水利費収支元帳	南黒田区長	南黒田	昭和24年～昭和28年の記録5冊合本して1冊。字内水口祝いとして24、27、28年に1200円計上されている。	1953	原本	13×36 26枚
792	ミナミクログダス	ミ021	南黒田水利費収支元帳	南黒田区長	南黒田	昭和29年、32年、35年、38年の記録4冊を合本して1冊。昭和29年大谷池水神祭りで3230円支出している。	1963	原本	14×36 23枚
768	ミナミクログダセ	ミ023	南黒田誓約書等	南黒田区長	南黒田	昭和39年8月20日南黒田区長より下三谷区長へ悪水排除に努力して、迷惑をかけないとの誓約書を提出している。	1964	原本	26cm 塵埃焼却場反対陳情書(鳥ノ木)
765	ミナキクログダタ	ミ024	南黒田田畑宅地評価元簿	南黒田区長	南黒田	原南、原東、予備、原北にわけ地番、地積、評価額、移動区分、氏名を記載し、宅の部、畑の部、田の部と地目別にわけ、最終ページに権利関係調査簿に黒インキでまとめる。	1952	原本	26cm
766	ミナミクログダダ	ミ025	南黒田台帳面積	南黒田区長	南黒田	年代不明。大字名、字名、地番、台帳面積、実面積、備考に所有者別に記録し、井戸、道路、畦畔、川などに利用される長さや幅の一覧表。	0	原本	25cm
767	ミナミクログダド	ミ026	南黒田土木水利費	南黒田区長	南黒田	昭和25年～昭和38年。水利費の支出先明細とそれを反別割り徴収する原簿、昭和32年より耕作区賦課となる。	1963	原本	26cm
756	ミナミクログダド	ミ027	南黒田土木費明細収支事	南黒田	南黒田	昭和25年 道路補修時リヤカ貫19台 950円 昭和25年 字道路修理砂口運搬用リヤカ 9台 450円 昭和26年 村東耕作道路土砂入れリヤカ 19台半 975円	1960	原本	13×16 27枚
791	ミナミクログダム	ミ028	南黒田村仕役帳	南黒田区長	南黒田	昭和22年、24年、25年軒録、4冊合本1冊。昭和22年は住田謙三郎に340円支払う、小井出堀、大井出堀、道造、水先凌など作業量を歩で表示	1950	原本	14×36 35枚
774	ミナミクログダム	ミ029	南黒田村仕役人別帳	南黒田区長	南黒田	昭和25年～26年。リヤカ一日分道作りは50円である。氏名と仕事内容と支払額をまとめる。	1951	原本	14×36 41枚
786	ミナミクログダム	ミ030	南黒田村仕役人別帳	南黒田区長	南黒田	昭和27年と昭和28年の記録4冊を合本して1冊。天神泉、垣根、村中用水、村北用水、村南用水、土川にある用水設備に必要な動力費などが記録されている。	1953	原本	14×36 44枚
778	ミナミクログダム	ミ031	南黒田村仕役人別帳	南黒田区長	南黒田	昭和29年、32年、33年。村仕役に支払った金額と作業内容、作業量を口歩で表示している。道造、井出堀が多くポンプ引き上げもある。	1958	原本	14×36 35枚

ID 読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他	
777	ミナミクロダム	≒032	南黒田村仕役人別帳	南黒田区長	南黒田	昭和30年～昭和31年。岡井重一は小井出堀、大井出堀、道造、天神裏道造の仕役で240円支払いを受けている。諸手当の計算書。		1956	原本	14×36 36枚
779	ミナミクロダム	≒033	南黒田村仕役人別帳	南黒田区長	南黒田	昭和34年、36年、38年、39年、41年。人名、村仕役の内容(大出堀人数最多)と支払金額仕事量を口歩で表示。昭和39年以後口歩の記載消滅。		1966	原本	14×36 36枚
780	ミナミクロダム	≒034	南黒田村仕役人別帳	南黒田区長	南黒田	年代不明。人名、仕事内容、金額をまとめたもの。大井手掘人夫55名に2475円支払っている。このときの区長報酬は6000円である。	井手汲	0	原本	14×36 8枚
781	ミナミクロダム	≒035	南黒田村道路拡張支出簿	南黒田区長	南黒田	昭和30年。町補助金10万円を2回に分けて受け、支出98445円で村道路完成。人夫賃250円であり、73395円は道路用地買収に使用。		1955	原本	14×36 3枚
758	ミンシンショガ	≒036	明清書画款譜 第1篇(一)奄題簽	黄邨栄		年代不明		0	原本	26×15 46枚
760	ミンシンショガ	≒037	明清書画款譜 第1篇(二)万奄題簽	黄邨栄		年代不明		0	原本	26×15 46枚
759	ミンシンショガ	≒038	明清書画款譜 第2篇(一)万奄題簽	黄邨栄		年代不明		0	原本	26×15 46枚
757	ミンシンショガ	≒039	明清書画款譜 第2篇(二)萬奄題簽	黄邨栄		年代不明		0	原本	26×15 46枚
772	ミンヨウ	≒043	民謡	不明	全	ガリ版の「伊予のわらべ唄」砥部小学校の発行した資料と青インキでコピーした松前の機織歌、田植え歌、古くより知られている俚諺などをまとめている。最後に郷土史松前村の俗謡をコピーしている。		0	ガリ版	26cm 文庫目録に未登録
1020	ミナミクロダジ	≒044	南黒田上水道関係書類	南黒田区長	南黒田	昭和33年、仮綴り 1 領収書等。家庭引き込み工事543791円を村井組に支払っている。個人負担と共同負担で支払う。		1958	袋147原本	仮綴り
771	ミヤコオオライ	≒046	都往来					0	コピー	26cm 文庫目録に未登録
1510	ミヂカナカ	≒047	身近な環境をみつめよう	トヨタ財団	全町	第1回研究コンクール報告書。重信川自然環境研究会(ERAS)が参加した。明治29年。312番地字浮橋 1 畑 反別13歩4合6夕の土地は地主荻野寛とある開墾としめされ、赤字で元野取反別1畝4歩2合 地価23銭とある。		1984	製本	12×18 67p
793	ムネキカイコ	ム001	無年開墾地野取図	東古泉区長	東古泉			1896	原本	27cm
1021	ムライトシアキ	ム002	村井俊明書簡	村井俊明		伊豫史談抜き書き		0	袋148コピー	21cm 9枚
1318	ムミヲアジ	ム003	無味をあじわう	白方 勝	町内外	重川家俊は一つの資料を求めて広く内外に探索の手を伸ばしていた。これを称して著者は資料探索の鬼といい生前の活動を回想している。	重川家俊	2000	製本	18×13 336p
1108	メイジジダイノ	メ001	明治時代の愛媛県知事	高須賀 康生	町外	昭和52年2月13日伊豫史談会例会の史料として報告されたもの。初代江木康直(長州)は明治6年から始まり、事蹟は県行政財政機構の整備。	県知事	1977	袋015コピー	26×76 1枚
1096	メイジジダイノ	メ002	明治時代の松前の力士		松前	愛媛の文化12号で紹介されている力士は西古泉の泉、下高柳の千鳥川重吉、若梅忠吉、神崎の若狭山徳太郎、永田の三坂山、松前の2名である。		0	袋121コピー	1枚
671	ネンビョウノウ	メ004	年表農業百年			慶応4年～昭和41年までの抜粋		1966	コピー	26cm 36枚
1022	メオトイズミ	メ006	夫婦泉絵図	徳丸・赤松庄屋	徳丸	安政3年の絵図。浮穴郡森松村之内に有り、井門境までの水路、二つの泉の寸法、石垣の配置が示されている。	夫婦泉	1856	袋149コピー	26×40 26×37
794	メザマシグサ	メ007	却睡艸 上	安井左内	町外	十六夜桜を冷泉家に送り短歌の返礼を受けた記録など松山藩公、藩士の評伝でそれぞれ特色ある言動をまとめたもの。	俵飛山、十六夜桜	1783	コピー	26cm 文政元年跋
795	メザマシグサ	メ008	却睡艸 下	安井左内		松山藩内の有名人の言動と人となり、47士の処遇時、松山藩で預かった大高源吾ほか3名の話など藩士の評伝である。	赤穂義士	1783	コピー	26cm 文政元年跋
796	メイジロクネン	メ010	明治6年太陽暦		町内外	明治六年の新暦と旧暦の対照表である。太陽の位置を赤道からの角度で示している。春分の日はい赤緯南0度9分6秒と示されている。赤道上に太陽があることが分かる。		1873	コピー	26cm 文庫目録に未登録
1023	モーターイズミ	モ001	モーター泉配水	徳丸区長	徳丸	初日は榎、大井手と寶井手へ分水灌漑、二日目は宮前井手、小原又筋、一丁地泉掛へなど灌漑分水路の合意文書	井手筋名	1934	袋150コピー	2枚 昭和9年1月
797	モチヌシヘンカ	モ002	持主変換別帳	東古泉村	東古泉	昭和9年1月。地券番号、新地番、字、地種、反別、元地主名、現今地主名を示し愛媛県令岩村高俊に提出した書類。		1934	原本	31×22 10枚
1080	モリマツイズミ	モ003	森松泉井出筋儀二付附加条約	矢立兵衛(徳丸惣代)	徳丸	徳丸水利関係文書。明治14年1月19日徳丸村惣代の署名のある五條の付加条約である。重信川横断水路を箱樋とし、最後に下浮穴群伊予郡長西川武久の署名がある。		1881	袋126コピー	13×300 1枚
1077	ヤクソクショウ	ヤ001	約束証書(徳丸水利関係)	渡部弥太郎他	徳丸	明治41年。重信川の伏樋決定の約束証書、徳丸の地主二九名の書明察印がある。大字で臨時に水利費負担することも決められている。		1908	袋126コピー	26×90 1枚
701	ヤクフキ	ヤ002	役夫記	鷺野十八太		昭和九年。さどぎ剥ぎ、西瓜の出荷、麦刈、草仕事、道造りなど何人役で何日に行ったのか役夫への支払いのメモ帳。		1934	原本	13×17 101枚
702	ヤケイニツキ	ヤ003	夜警日記	北伊予村消防組第4部	北伊予	昭和11年12月から翌年3月17日までの日誌。日野後始末注意、自転車無灯火、戸外置物注意など記録されている。表市裏に木炭の節約を呼びかけている。	夜警	1936	原本	24×17
700	ヤフネヘイフ	ヤ004	夜船閉語(和稿)	白隠和尚		宝暦7年1月25日		1757	原本	23×16 22枚
699	ヤノゲンドウオ	ヤ005	矢野玄道翁隨筆	矢野玄道		矢野玄道翁が石畳村久保家寄食中の日記、隨筆草稿、和歌等を西園寺源透が大正8年に謄写したもの。	矢野玄道	1841	コピー	26×19
697	ヤワタシヤキ	ヤ006	八幡社基本財産及定米台帳	筒井区長	筒井	明治41年から昭和12年までの記録で、81円30銭を新区長田中実氏へ引き継いだ書類。南内開、城新田、北内開、南町、仕出、義農、二の丸などに田畑があり、小作人が記載され、定米を支払ったことが分かる。	神社財産	1908	コピー	26×19 74枚
698	ヤワタシヤン	ヤ007	八幡社修繕関係書類綴	筒井区長	筒井	昭和28年にまとめている。リアカー借り賃61円、吹1袋30円、出役日数と支払額をまとめ、修繕に要した各種の領収書を編集している。		1953	コピー	26×19 34枚
1246	ヤマサキセン	ヤ008	山崎先生の書(天地人)	山崎延吉	全	松前町農会にもらったものである。明治29年頃		1896	軸	198×80
1527	ヤマトロン	ヤ009	和論語 巻2		全国	人皇併親王部、神武天皇から後陽成院まで仮名漢字文で説明。寛文9年とある		1669	原本	和 26×18 42枚 川端藤吉衛
1528	ヤマトロン	ヤ010	和論語 巻3		全国	公郷の部 上 大織冠鎌足から藤道房郷まで記載されている。		1669	原本	和 26×18 41枚
1529	ヤマトロン	ヤ011	和論語 巻5		全国	武家の部 上 道臣命から源義康まで全部で79名の名前を解説。		1669	原本	和 26×18 42枚
1530	ヤマトロン	ヤ012	和論語 巻6		全国	武家の部 下、平時房から源鶴丸まで85名の間前を載せる。		1669	原本	和 26×18 47枚
1531	ヤマトロン	ヤ013	和論語 巻9		全国	釈氏部 中 園爾から源達まで73名を載せる。		1669	原本	和 26×18 38枚
1532	ヤマトロン	ヤ014	和論語 巻10		全国	釈氏部 下 園朝、禪正から道学まで60名を載せる。		1669	原本	和 26×18 38枚
1222	ユウコウシヤカ	ユ001	有効社会員貯蓄の証	赤星平次郎	筒井	明治29年～明治33年。監事赤星平次郎、古川久次郎、門田猶次郎の署名と各人の貯金額が示される。石丸馬五郎は明治33年12月で15銭とある。合計37名分。		1900	袋104コピー	27cm 27部
695	ユウガクコウヨ	ヨ001	幼学綱要 1和稿	元田永孚		明治41年6月		1881	原本	23×15 41枚

ID 読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
696	ヨウガクコウヨ	ヨ002 幼学綱要 4和稿	元田永孚		明治14年6月		1881	原本	23×15 33枚
693	ヨウガクコウヨ	ヨ003 幼学綱要 5和稿	元田永孚		明治14年6月		1881	原本	23×15 43枚
694	ヨウガクコウヨ	ヨ004 幼学綱要 6和稿	元田永孚		明治14年6月		1881	原本	23×15 23枚
691	ヨウスイカンケ	ヨ005 養水関係資料	中川原・上高柳・徳丸・北川原・西高柳	中川原・上高柳・徳丸・北川原・西高柳	明治6年。旧第19大区7小区伊予郡中川原村の杜若泉の取り決めから、北川原西高柳の烏丸泉は73間とある。		1873	コピー	26×18 24枚
692	ヨザクラ	ヨ006 夜ざくら		町内外	百姓の子に習わせて鍬はじめ 上吾川 富水 故地に入る人見送るや秋の風 浜 新月		0	コピー	26×36
1161	ヨサンセンマツ	ヨ007 予讃線松山伊予間踏切道路拡張工事詳細図	四国鉄道管理局	北伊予	戦後急増した標識の様子が分かる。寸法、規格、文字の大きさなどの設計図、公道踏切警標の文字は英語である。	公道踏切警標	0	袋O39原本	23cm 41枚
689	ヨシュウコセキ	ヨ009 予州古跡記・伊予日記	奥平貞利		天昇15年～寛文11年の記録。伊予郡は2萬4選1石8斗6升7合とある。松前町に関して、松前村金蓮寺として燈籠堂、玉生山、松尋寺と記されている。	松尋寺	1671	コピー	26×18 20枚
690	ヨシュウセンバ	ヨ010 予州仙波家の系譜			仙波盛景あり、初代盛家公800年記念として発行		1981	コピー	26×18 19枚
687	ヨショウキ	ヨ011 豫章記(和・写)			著者不明 応永年間(1394～1427) 鷲野南村蔵書よりの写し		1427	原本	24×17 71枚
688	ヨショウキ	ヨ012 豫章記(上・下)	黒川道祐		万治元年7月、河野家系図(附)		1659	コピー	26×18 97枚
685	ヨショウキ	ヨ013 予章記			ヨ011のコピー。蒙古大軍の船の中へ乗り込んだ通有の行動をまとめた章がある。		0	コピー	26cm 69枚
717	ヨサンナラビケ	ヨ014 予算並決算綴	岡田村役場	岡田	岡田中学校図書館より移籍、大正11年～昭和5年の予算決算書である。隔離病舎費390円、駆蠅獅奨励費は昭和4年に昆虫買上げ費10円になっていた。	隔離病舎運営費	1930	原本、ガリ版	26cm
686	ヨヨウコウノケ	ヨ015 豫陽河野家譜 1, 2			著者、年代不明		0	コピー	26×18 65枚
683	ヨヨウコウノケ	ヨ016 豫陽河野家譜 3, 4			著者・年代不明		0	コピー	26×18 56枚
684	ヨヨウコウノケ	ヨ017 豫陽河野家譜 5, 6			著者・年代不明		0	コピー	26×18 54枚
681	ヨヨウコウノセ	ヨ018 豫陽河野盛衰記			巻1～巻6 著者・年代不明		0	コピー	26×18
682	ヨヨウコウノセ	ヨ019 豫陽河野盛衰記			巻4～巻き6 著者・制作者不明		0	コピー	26×18
679	ヨヨウコウノセ	ヨ020 豫陽河野盛衰記			巻7～巻9 著者年代不明		0	コピー	26×18
680	ヨヨウコウノセ	ヨ021 豫陽河野盛衰記			巻10～巻9 著者、年代不明		0	コピー	26×18
677	ヨヨウコウノセ	ヨ022 豫陽河野盛衰記			第13～第16 著者年代不明		0	コピー	26×18
678	ヨロスキロク	ヨ024 萬記録	教深寺	大間	慶応元年9月。豫州松山伊豫郡大間村 本寺温泉郡石手村石手寺真言宗 瑠璃院 教深寺とあり、本堂、庫裏、寺田等の面積を書き寺の大きさが分かる。	石手寺	1865	コピー	26×19
1025	ヨロズニッキボ	ヨ025 萬日記簿	赤星平次郎	筒井	明治20年1月1日。ランプほや代金1銭、小ランプ8銭、1月3日高市氏へ日本外史を貸したなどのメモ帳。当時の日常生活を知る資料である。		1887	袋151コピー	14×34 15枚
1026	ヨロズニッキボ	ヨ026 萬日記簿	赤星平次郎	筒井	明治21年10月15日。日常生活のメモ帳、11月23日糶摺りをした、小作地の不作のため検見し2斗まけたなど	畑年貢、苗代年貢、小作米、相おい米	1889	袋151コピー	13×34 15枚
1027	ヨロズニッキボ	ヨ027 萬日記簿	赤星平次郎	筒井	萬日記簿は不要な部分が多くなったので明治38年に抜取分の記録		1898	袋151コピー	13×34 10枚
1299	ヨコタイセ	ヨ028 横田遺跡 伊予地区カントリーエレベーター建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書	松前町教育委員会	横田	「……表土から40～50cmで安定層となり、その上部の黒褐色土層より縄文晩期から弥生期松と思われる土器片が出土した。……」わずから50cm下が弥生頃の地層である。	縄文時代	1992	製本	18×26cm 65p
1346	ヨウケイガ	ヨ029 養鶏学講義	本田圭介	全国	岡田村巡回文庫の一冊である。付録に飼料の有効利用について述べる。	鶏の品種	1910	製本	22×15 86p 磯部甲陽堂
1430	ヨウガクビ	ヨ030 続 幼学便覧(全)		全国	詩韻碎全幼学便覧として続編、漢字に読み仮名を振り意味を記す。		1626	原本	12×15 65枚 太田熊衛文庫
1024	ニカクラツカン	ラ001 落款(松楽二鶴)	野沢喜久三郎				0	袋152	13×15 1枚
1554	ライキ	ラ002 禮記 卷之三		全国	玉藻第一三「天子玉藻十有二旒前後逐延龍以祭……」		0	原本 和綴じ	16×19 102枚
914	リインキンタイ	リ001 吏員勤怠表	松前町役場	松前	村長、収入役、助役、書記、技術員、使丁などの勤務実態。昭和12年には21人体勢であった。大正元年から昭和12年。町長315日、助役320日、収入役309日の出勤日数となっている。	出勤日数	1937	原本	25×17
915	リインシンタイ	リ002 吏員進退に関する綴	松前町役場	松前	昭和18年から昭和23年、欠勤届、不参届、退職届、発令控、辞令など戦中戦後の物資不足の様子がよく分かる。		1948	原本	17×19
916	リインシンタイ	リ003 吏員進退賞罰職務綴	松前町役場	松前	内務部長より市町村長あての通牒。吏員犯罪防止の件、不正事犯防止。昭和5年～昭和12年の通牒		1937	原本	25×17
917	リゲン	リ004 俚諺	森良綱(東宇和郡長)	町内外	農作業歌をはじめ、ことわざ約250項目をあげて解説している。所々に松山、黒田、谷上山が出てくる。明治39年		1906	コピー	21×16
918	リヨウナド	リ005 俚謡等	不明	全	農作業歌をはじめ、ことわざ約250項目をあげて解説している。所々に松山、黒田、谷上山が出てくる。明治39年		1906	コピー	21×16
919	リヨクセイ	リ006 緑青	松前校区青年団	全	校区青年団発行の機関誌(第1号)、役員名、抱負、意義、町づくり、所感などガリ版印刷、昭和38年発行。田村勝希氏の「人生の幸福を求めて」がある。	青年団活動	1963	原本	25×18 20p
920	リョウコヨミタ	リ007 両暦対照表(太陽、太陰)	文部省編纂	全国	明治8年発行。このときに紀元2535年と記載されている。旧暦を新暦に合わせ月をおって較べ年齢を計へ先祖祭祭繰り出す事をわらって刊行している。		1875	コピー	22×15 22枚
1294	リカショ	リ008 新訂理科書 巻3	文学者編	全国	家禽家畜及び12の普通動物、ニワトリ、ハト、スズメ、アヒル、ウマ、ウシ、ヒツジなどと人体の比較、栄養、内臓組織などについて解説。		1894	原本	22×15 64枚 太田熊衛文庫
1582	リンリガク	リ009 倫理学講演集 1	複数	全国	第351輯～第358輯まであり、各1ないし8輯まで論じている。	満州事変	1932	製本	21×15 351輯は144p
1587	リンリガク	リ010 倫理学 帝国百科全書 第12編	高山林次郎	全国	総論、序論、各辞、命題など		1913	製本	22×15 292p 博文館
1266	レイキツツリ	レ001 例規綴	松前町役場	松前	昭和16年から昭和22年までの愛媛県報があり内務省など通達ひとそろいがある。戦時災害保護法は損害に対する国家保障でない」と明記している。このほか戦争するために必要な通達は多数にわたる。	戦時災害保護法	1946	原本	26×18
1265	レンエンシュウ	レ003 連縁集	玉井千蘿 発起	松前町内外	中予六人の肖像入り俳句集。絵は随意、彫刻は素金が担当した。当時地方で絵入り俳句集が地方の俳人で刊行されたことは歴史的意義がある	玉井千蘿	1846	コピー	22cm・21枚
1267	レンセイ	レ004 れんせい 2	松前町連合青年団	松前	原稿不足を後記で述べる。田園風景五題の中に 耕牛のろろとあえいでいる停滞した空気の重さと暑さ ディーゼルエンジンの音たくましく耕耘機すいていく見事な量感 の二首は農作業の形態が大変革するころを見事にあらわしている。	耕耘機	1958	製本	25cm 30p

ID 読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
1330	レイセン	レ005	冷泉為村と伊予の歌人たち	白方 勝	全国	…かつて、「周円法師一代記」なる小冊子を出した。未刊ながらこういうものを出しておくと思議なものでそれにつれられてか、いろいろ新しい資料が見つかる…	2004	製本	21×15 298p
1348	ロウソウキ	ロ001	陋村教師の手記	田名後 敬	全国	日本敗戦の転機に自己の人生をかけ島へ戻ったことから始まる生活記録。	1965	製本	19×13 232p アポロン社
1365	ロンゴ	ロ002	論語 (一)			発行年不明 卷1と2 中国の経書で四書のひとつ。孔子の教えやその言行を記録したもの。	0	原本 綴じ	和 25×18 太田熊 衛文庫
1366	ロンゴ	ロ002	論語 (二)			卷3, 4, 5	0	原本 綴じ	和 25×18 太田熊 衛文庫
1555	ロンゴ	ロ003	論語	朱喜集注	全国	衛霊公第一五凡四一章、に続いて李氏、陽貨、微子、子帳、堯日と目録にあり。	0	原本 綴じ	和 25×18 41枚 25×18 太田熊 衛文庫 二冊有り
1367	ロンゴ	ロ004	論語 (三)			卷 8, 9, 10	0	原本 綴じ	和 25×18 太田熊 衛文庫
1584	コクヤクロ	ロ004	国訳 論語	服部宇之吉	全国	学面第一、為政第二、人口第三、里仁第四、公治長第五、…子帳第19まで	1928	製本	22×15 179p 龍門社
1368	ロンゴ	ロ005	論語 (四)			卷 8・9・10	0	原本 綴じ	和 25×18 太田熊 衛文庫
675	ワガフルサト	ワ002	わがふるさと	伊予農業改良普及所	徳丸	ふるさとの由来など、松前町関係では徳丸の地名の由来、徳丸彼岸行事と水、徳丸の亥の子、徳丸の組折袴、徳丸万才である。徳丸の民俗が取り上げられている。	0	原本	25×18 32枚 正本
674	ワシシニチジョ	ワ003	鷺氏日乗 付 風早島見聞	鷺野南村	南黒田	弘化3年1月より11月の南村自筆日記。天候・行事など正確かつ簡潔に記載されている。	1846	コピー	26×36 63枚
1028	ワスレナグサヒ	ワ004	忘草 付 ひな歌	近藤篤山		明治18年9月。文事あるものはかならず武備ありとはじまりひな歌に「欲深き世のさざ波にうき沈む あまのすさびの身を忘れ貝」とある。	1885	袋153 コピー	29×39 1枚
843	ワミョウウルイジ	ワ005	和名類聚鈔(1, 2)	源順		元和3年11月天の部のある風雪の類のみ抽出すると、風、颯、嵐、暴風、大風、微風、雪、沫雪、霜、はつしも、霰、雹、霰が示されている。	1617	コピー	26×18 41枚
844	ワミョウウルイジ	ワ006	和名類聚鈔(3, 4)	源順		元和3年11月、形体部、芸術部等。人体の名称で蜂谷をコメカミと表す。黄疽モアリキバムヤマヒとある。玉莖、玉門など人体各部の名称をまとめている。	1617	コピー	26×18 41枚
841	ワミョウウルイジ	ワ007	和名類聚鈔(5, 6)	源順		元和3年11月、諸国の呼び名、地方名を書き写したもの、日本で最初である。伊予の国には宇摩、新居、周敷、桑村、越智、野間、風早、和氣、温泉、久米、浮穴、伊予、喜多、宇和の14の名称がある。	1617	コピー	16×18 50枚
1090	ワシノナンソソ	ワ008	鷺野南村書簡	鷺野南村	南黒田	岡井九右衛門あて一通、年代不明会食物控 一通	1853	袋138 原本	15×35 2枚
1551	ワカンロウ	ワ009	和漢朗詠集註 卷1 上巻		全国	春、夏、秋、冬、雑の季語	1910	原本 綴じ	和 15×11 320p
85	オカダムラ		伊予郡岡田村従軍軍人名簿	岡田村役場	岡田	明治37, 8年戦役	0	コピー	副本
258	シモナダムラキ		下灘村郷土誌	下灘村郷土誌編集委員会	町外	目次、下灘村の地図一枚付属している。	1911	原本	24×17 89p
259	ショウノウチジ		昌農内人別持分畝寄帳	昌農内			1879	原本	14×40 91枚
447	ナカガワラム		中川原村本田畑古新田入別地寄帳(武番)	庄屋	中川原	文久元年6月	1861	原本	16×43 副本
501	ナカガワラトチ		中川原土地台帳	中川原区長	中川原	明治39年9月発行	1906	コピー	24cm 副本
509	ナカガワラキン		中川原勤儉貯蓄組合同規約	中川原区長	中川原	明治37年4月日付で第5条に確守することとしていろいろある。その一つに芝居・相撲・その他一切の興業を断然拒絶することとある。	1904	コピー	26×19 副本
538	コイチセイリニ		耕地整理日誌簿	中川原区長	中川原	明治39年9月5日～明治39年10月31日	1906	耕地整理 コピー	27×19 10枚 副本
652	マサキチョウセ		松前町勢要覧 1978	松前町役場	全		1978	製本	24cm 39p 副本
654	ヒロタムラキ		広田村郷土誌	広田村誌編集委員会	町外	明治43年12月31日	1910	原本	28cm 124枚 副本
673	ハラマチキョ		原町郷土誌	原町村誌編集委員会	町外	明治44年8月。自然誌、人文誌に分けて記述。1ページに自治の大きな2文字がある。	1911	原本	28cm 115枚 副本
676	ワガフルサト		わがふるさと	伊予農業改良普及所		ふるさとの由来など	0	原本	25×18 32p 副本
728	ナカガワラム		中川原村御用日記	庄屋	中川原	慶応2年1月	1866	原本	26×17 61枚 正本
729	ナカガワラム		中川原村御用日記	庄屋	中川原	慶応2年1月	1866	コピー	26×17 61 副本
826	ブンカエヒメ		文化愛媛 8	愛媛県文化振興財団		フ041の副本	1984	製本	25×21 文庫目 録に未登録 副本
860	ヒガシコイズミ		東古泉御田地坪帳	庄屋・組頭	東古泉	明和7年3月	1770	コピー	36×25 正本
881	ミコシイッケン		御輿一件駈引留	三好辰松	東古泉	明治16年9月9日	1883	コピー	26×18 11枚 副本
902	トウザイリョ		東西両古泉村戸長	戸長	西古泉・ 東古泉		1884	原本	27×20 15枚
974	イヨクニキユ		伊予国旧石高調帳		町内外	愛媛県立図書館、昭和49年3月1日発行。	1974	製本	27cm 174p 副本
977	インズチノミズ		石鎚の水ここに展く 道前道後用水史	道前道後用水史編集委員会	町内外		1987	製本	22cm 618p 副本
998	イッパンコクド		一般国道松山東道路関係遺跡埋蔵分際調査報告書 1	愛媛苑教育委員会	町外		1980	製本	16×22 157p 正副区別要
1262	イヨシノレキシ		伊予市の歴史文化 18号	伊予市歴史文化の会	伊予市	昭和63年3月発行	1988	副本	21×15 71p
1280	ショカンチョウツ		諸官庁通知書類	本田百太郎	中川原		1906	原本	26×18cm 40枚
1285	キョウイクノア		教育のあゆみ	松前町教育委員会	全	学制発布百年記念	1972	製本	26×18 42p 副本
1308	エヒメノブ		愛媛の文化 No20	愛媛県文化財保護協会		省略	1981	製本	26×18 235 副本
1543			字口酉集			見角言谷豆豸貝朱走身口辛辰口邑口采里と表紙にある	0	原本 綴じ	和 26×17 117枚
1545			字口巳集			水火爪父支片口牙牛犬と表紙にあり、巳漆と左下方にある。	0	原本 綴じ	和 16×17 88枚

ID	読み	整理番号	史料名	著者名	地区名	史料の内容	キーワード	年度	種別	その他
1547			字口戌集		全国	表紙は金長門阜口佳雨青非面口口音口負凡飛食首香とある		0	原本綴じ	和 26×17 92枚
1548			字口卯集		全国	表紙は心戈口口支支文斗斤方死とあり、左下に卯伍とある。		0	原本綴じ	和 26×17 84枚
1613								0		